

<健康食品等に関する日本語記事情報 統合版>

2022 年前半（1月号 No.1～6月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の2022年1月から6月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：gakuj@jhnfa.org

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年1月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

東京栄養サミット 2021 アクションプラン「日本の食関係者の具体的な行動計画」を発表 農林水産省

スポーツ栄養 WEB - 2021/12/23 <https://sndj-web.jp/news/001632.php>

12月7～8日に開催された「東京栄養サミット 2021」に関連し、農林水産省のサイトに、アクションプランと食関係者の取り組みに関するレポートが掲載された。アクションプランに賛同する日本の食関係者から発表された、健康的で持続可能な食料システムの構築に向けた行動が紹介されている。-----

追記：記事後半に「62の団体・企業からの行動計画」の見出しで、味の素株式会社、不二製油グループ本社株式会社、株式会社ユーグレナ等の行動計画に言及しています。

上の記事からリンクされている行動計画を示した62団体・企業のリスト。20社以上の食品関連企業がリストされています。

N4G コンパクトの実施に向けた日本の食関係者の具体的な行動計画 東京栄養サミット 2021

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/seisaku/n4g2021/action_plan.html

岸田首相が明言した「国民の栄養状況の更なる改善」は実現するか

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/7

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00010/010600079/>

「地球温暖化を防ぐための食事スタイル」体にも地球にもやさしい”SDGs な食事”とは？

スポーツ栄養 WEB - 2022/1/4 <https://sndj-web.jp/news/001623.php>

健康によくない食べ物は地球の温暖化をも招くと指摘する論文が発表された。どうやら、食事摂取ガイドラインを遵守し、健康によいとされる植物性食品ベースの食生活とするほうが、地球にやさしい”SDGs な食事”と言えるようだ。英国リーズ大学の研究者らが報告している。-----

■ 安全性関連情報

[EFSA]新規食品としてのターメリック(ウコン)由来テトラヒドロクルクミノイドの安全性

[BfR]食品サプリメントのクルクミン：許容一日摂取量を超えている可能性がある

食品安全情報 blog2 - 2021/12/24

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/12/24/172942>

欧州のリスク評価に係る公的機関（欧州食品安全機関、ドイツ連邦リスク評価研究所）関連情報です。上から 1、2 番目の見出しコンテンツです。

[EFSA]意見等

-新規食品としてのトンカットアリの根抽出物の安全性

-新規食品としてのミジンコウキクサ粉末の安全性

食品安全情報 blog2 - 2021/12/27

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2021/12/27/173729>

欧州食品安全機関（EFSA）関連情報です。27 日分の最初の部分です。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 1 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1 月 7 日 12 時時点ではありません。

2021 年 12 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12 月はありませんでした。

食品安全情報（化学物質） No.01 (2022.01.05)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202201c.pdf>

気になった見出しは以下の通りです。

【BfR】

1. フードサプリメントのクルクミン：許容一日摂取量を超えている可能性がある

【FDA】

1. FDA はアカシア（アラビアガム）を食物繊維とする市民請願を許可する

食品安全情報（化学物質）No. 26/ 2021（2021. 12. 22）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2021/foodinfo202126c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

気になった見出しは以下の通りです。

【WHO】

1. WHO は新たな約束で栄養目標への作業を加速する
3. WHO ヒト健康リスク評価ツールキット：化学的ハザード、第二版

【EFSA】

2. ビスフェノール A：EFSA の意見案は耐容一日摂取量の引き下げを提案す

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

みその日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2021/12/27

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003416&Mode=0](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003416&Mode=0)

（受付締切日時：2022年1月25日23時59分）

■ 海外公的機関情報

ASEAN サプリメント規制、GMP 必須に 来秋目途に統合へ（連載：話題追跡）

健康メディア.com - 2022/1/5 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15780

ASEAN では、来秋を目途にヘルスサプリメント規制が統一される見通しだ。海外展開を行う事業者にとって、年率5%超で成長を続けるASEAN サプリメント市場への関心は高く、業界団体への問い合わせも増えている。規制枠組みのキーワードとなるのは「GMP 必須」となる点だ。-----

以下の4件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の2021年12月22日更新情報の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

[ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、欧州食品安全機関\(EFSA\)による二酸化チタンの再評価結果に関する意見書を公表](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象：2021年11月30日\)](#)

[欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象：2021年11月29日\)](#)

[欧州委員会\(EC\)、ハーブとスパイスの真正性に関する初の欧州連合域内調査の結果を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

「美味」+「機能性」で付加価値創出（特集 健康茶）

健康メディア.com - 2021/12/20

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15747

今年の健康茶市場は、美容訴求のルイボスティーや黒豆茶、腸活訴求のごぼう茶、ノンカフェインのハーブティーやタンポポ茶、アカマツやアブラマツの葉から作られる松葉茶の需要が目立った。家庭用では外出自粛やテレワーク浸透による巣ごもり需要が市場を後押し。

「味・機能性」を訴求する健康茶の引き合いが強まった。原料では紅茶テアフラビンの苦み低減や血糖値上昇抑制などに注目が集まっている。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした

■ 消費者意識等の調査・分析

矢野経済研究所、高齢者の食事実態と食ニーズ探索に関する消費者アンケート調査、「外食」や「旅行」などのリベンジ消費に期待

マイライフニュース - 2021/12/24

<https://www.mylifenews.net/data/2021/12/post-104.html>

矢野経済研究所は、65歳以上の高齢者男女1230名を対象に消費者アンケート調査を実施し、コロナ禍における高齢者の食事と栄養、健康と安全、行動様式の変化など、心理面や行動面の変化について分析した。その結果、コロナ禍の中、高齢者の趣味や運動、食事と栄養、食料品の購入場所などが変化。外出自粛が影響し、「外食」や「旅行」などのリベンジ消費に期待が高まる。-----

ウーマンウェルネス研究会 supported by Kao、血圧と内臓脂肪に関する調査、血圧を高くする要因の一つが内臓脂肪であることを知っている人は26.7%

マイライフニュース - 2021/12/27

<https://www.mylifenews.net/data/2021/12/supported-by-kao267.html>

女性の健康力向上を通じた社会の活性化への貢献を目指す「ウーマンウェルネス研究会 supported by Kao」は、自身の血圧と内臓脂肪に関し、首都圏在住の887人（40代～60代男女）を対象に調査を実施した。その結果、血圧を高くする要因の一つが内臓脂肪であることを知っている人は26.7%だった。正月や新年会など塩分・脂質の多い食事は要注意で、高めの血圧を予防するには「血圧」と「内臓脂肪」のダブルケアが重要であると啓発する。---

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

アミノ酸などの摂取が筋肉の老化を改善しハエの寿命を延ばす、都立大などが確認

マイナビニュース - 2021/12/29

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211229-2241290/>

以下の6件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2021年12月22日～2022年1月7日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

炎症誘発性の食事は、中高年成人のフレイル発症のオッズの増加と関連（2021/12/22）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76738&-lay=lay&-Find.html>

炎症誘発性食品（例えば、単純糖質または飽和脂肪が豊富な食品）が多い食事を定期的に摂取することは、中高年期のフレイル発症のリスク増加と関連しているようだ、という米国マーカス加齢研究所などからの研究報告。-----

運動が老化を遅らせるためのカギを発見？（2021/12/22）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76739&-lay=lay&-Find.html>

運動が我々の健康を改善するメカニズムのカギとなる酵素を発見した、という豪州モナッシュ大学からの研究報告。2型糖尿病を含む代謝健康に対する加齢の影響を防ぐような新薬の開発につながるものだという。-----

フレイルを減らすと認知症リスクが下がる？（2022/1/4）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76783&-lay=lay&-Find.html>

高齢者のフレイルを減らすことは、認知症を予防するための効果的な戦略である可能性があるようだ、という英国エクセター大学などによる研究報告。-----

海産性オメガ-3系脂肪酸はうつ病の予防に役立たない？（2022/1/4）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76784&-lay=lay&-Find.html>

海産性オメガ-3系脂肪酸サプリメントの使用はうつ病の予防に役立たないようだ、という米国マサチューセッツ総合病院などからの研究報告。-----

超加工食品の害を明らかにするための健康キャンペーン（2022/1/5）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76797&-lay=lay&-Find.html>

超加工食品の深刻な健康影響に関する強力なエビデンスにもかかわらず、巧妙な業界のマーケティング戦術により、そのリスクが暗闇に包まれており、人々が騙されている可能性が高いことから、タバコのようなますます強力な健康警告が必要だ、と公衆衛生の専門家らは主張している。-----

赤肉と心血管疾患リスクをつなぐ腸内細菌（2022/1/5）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76798&-lay=lay&-Find.html>

赤肉と心血管疾患リスクの間には腸内細菌の関与が指摘されているが、リスクを高める分子を産生する細菌は、長期の菜食主義者にはほとんど見られないことがわかったという。米・クリーブランド・クリニックの研究。-----

以下の記事は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2021年12月22日～2022年1月7日）から選定したものです。

スポーツ栄養学における「生理活性ペプチド」の可能性 今わかっていることのまとめ（2022/1/5）

<https://sndj-web.jp/news/001619.php>

-----「スポーツ栄養学における生理活性ペプチドの潜在的関連性（Potential Relevance of Bioactive Peptides in Sports Nutrition）」というタイトルのレビュー論文が「Nutrients」に掲載された。ペプチドの、体組成、持久力パフォーマンス、筋損傷、タンパク質合成、炎症、酸化ストレス、腱組織などへの影響を、既報文献から考察しまとめたもの。一部の要旨を抜粋して紹介する。-----

■ その他の注目研究・技術情報

心血管疾患を予測する細胞の行動パターンを発見

リンク DE ダイエット – 2022/1/7（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.1.7, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76819&lay=lay&Find.html>

循環する好中球（免疫細胞の一種）が炎症過程でさまざまな行動パターンを獲得することを発見した、というスペイン・国立心血管系疾患研究センター（CNIC）からの研究報告。本研究は、心筋梗塞の影響を最小限に抑えるための新しい治療法につながる可能性のある重要な情報を提供するものであるという。-----

運動 3 カ月で高齢者の脳皮質が増し認知機能が向上、京都大学が報告

大学ジャーナルオンライン - 2021/12/23 <https://univ-journal.jp/135413/>

京都大学大学院の積山薫教授らの研究グループは、3 カ月間の運動介入により高齢者の認知機能が向上し、脳の構造（皮質容積や皮質厚）が変化することを明らかにした。-----

健常者の軽度コルチゾール上昇、筋力・筋肉量の低下と因果関係―九大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/4

<http://www.qlifepro.com/news/20220104/cortisol.html>

コルチゾール分泌上昇による筋力・筋肉量低下への影響、観察研究ではその因果関係は不明
九州大学は 12 月 22 日、メンデルランダム化（MR）研究により、健常者において軽度なコルチゾール上昇が筋力・筋肉量の低下と因果関係を有することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究院の小川佳宏教授、馬越真希日本学術振興会特別研究員 RPD、同大大学院医学系学府の勝原俊亮大学院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism」に掲載されている。-----

同じ研究についての記事です。こちらの方では閲覧制限はありません。

筋力・筋肉量の低下と副腎由来ホルモンの上昇に因果関係、九大が確認

マイナビニュース - 2021/12/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211223-2237487/>

カオスな腸内細菌叢を新たな指標「 α ディフェンシン」で制御する

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/5

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00003/122200260/>

動脈硬化のリスクを尿の成分から評価できる可能性、阪大が確認

マイナビニュース - 2021/12/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20211223-2237500/>

“性能アップ”と“省人化”の提案加速（特集：健食製造機器）

健康メディア.com - 2021/12/22

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15760

錠剤・カプセル・顆粒をはじめとした健康食品の製造を支える機器メーカーでは、独自技術やノウハウを活用し、製造能力と作業性を両立した機器の開発・提案を進めている。受託企業の課題を解決する各種製造機器を紹介する。-----

老化細胞除去薬の開発で見えてきた「健康寿命 120 歳」の可能性

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/7

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/010400007/>

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2022 年 1 月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております

す。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年1月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1月21日13時時点ではありません。

2021年12月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2433>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2432>

素材情報データベース（新規） 12月はありませんでした。

食品安全情報（化学物質） No.02 (2022.01.19)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202202c.pdf>

別添（食品安全情報（化学物質） No.02 (2022)別添）

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202202ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は特に見当たりませんでした

■ 行政・法令関連情報（その他）

りんごジュース中のプロシアニン類の定量－高速液体クロマトグラフ 法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/1/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003423&Mode=0>

魚類の鮮度（K値）試験方法－高速液体クロマトグラフ法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/1/17

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003422&Mode=0>

■ 海外公的機関情報

ドイツ連邦リスク評価研究所の FAQ（12 日分の最初の見出し）

[BfR] 日用品のビスフェノール A : FAQ

食品安全情報 blog2 - 2022/1/12

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/12/174252>

冒頭の見出し「[EFSA]意見等」の次の見出しです

[FDA]FDA はマグネシウムと高血圧のリスク低減に関する限定的健康強調表示を発表

食品安全情報 blog2 - 2022/1/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/13/175747>

以下の 8 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (22/1/12 確認) の中から、気になったものを選定しました。前号の別セクションでご紹介した情報と重複するものも、念のためピックアップしております。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

15. 欧州食品安全機関(EFSA)、新食品としてのターメリック(Curcuma longa L.)由来テトラヒドロクルクミノイドの安全性に関する科学的意見書を公表

17. 欧州食品安全機関(EFSA)、新食品としての Wolffia globosa 粉末の安全性に関する科学的意見書を公表

21. 欧州食品安全機関(EFSA)、食事由来ばく露評価のための存在量データの取り扱いに関するテクニカルレポートを公表

30. オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)、オーストラリアにおけるパーフルオロ化合物に関する取り組みについて公表

34. 欧州食品安全機関(EFSA)、複数の化合物への複合ばく露のヒトのリスク評価のための、化合物を評価グループに分類する科学的基準に関するガイダンス文書を公表

36. 米国食品医薬品庁(FDA)、食物繊維としてのアカシア(アラビアガム)に関する市民請願を受け入れる旨を公表

43. 欧州食品安全機関(EFSA)、食品中のビスフェノール A の存在に関連する公衆衛生へのリスクの再評価に関する科学的意見書案を公表し、意見公募を開始

55. ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、食品サプリメント中のクルクミンに関する意見書を公表

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

21 年健食市場、微減の 1 兆 2,700 億円 「免疫」「フェムテック」等、注目度上昇

健康メディア.com - 2022/1/20

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15798

2021 年の健康食品市場規模は、本紙の推計で前年比 0.3%減の約 1 兆 2,700 億円となった。健康志向の高まりを背景に、通信販売と薬系店舗がさらに拡大した一方、訪販・MLM チャンネルでは、長引くコロナ禍の影響を受けた。緊急事態宣言もあり、百貨店等の食系店舗も伸び悩んだ。とはいえ、全体では過去 3 番目の市場規模。青汁、乳酸菌、プロテインといった素材が市場を牽引する中、NMN、プラントベース、フェムテックといった新たなトレンドも萌芽している。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

機能性表示食品が続々、店販は混戦模様（特集：注目のダイエット食品）

健康メディア.com - 2022/1/11 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15783

ダイエット訴求の機能性表示食品が増えている。脂肪、BMI、糖、ウエストサイズ、お腹まわり等の表示を活用したサプリメント、飲料が続々登場。特に薬系ルートでは、シェア争いが繰り広げられている。ブラックジンジャー、葛の花エキス、ターミナリアベリリカ、サラシアをはじめ、機能性表示対応素材も増え、原料・受託メーカーによる提案が活発化している。-----

市場復調の兆し 世界的にも需要拡大（特集：ヒアルロン酸）

健康メディア.com - 2022/1/19

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15792

新型コロナウイルスの影響によりダメージを受けた美容カテゴリーだが、去年は需要回復から化粧品や美容食品などの関連市場が復調傾向になった。ヒアルロン酸については特に化粧品での持ち直しがみられ、コロナ以前の水準に戻りつつある。食品分野では一部足踏み状況もみられるが、マスク着用など新しい生活様式によって引き起こされる肌トラブル対策として従来にないニーズも出てきている。「肌の水分維持」で機能性表示が行えるヒアルロン酸の利用拡大も期待されている。一方グローバルでみると、ヒアルロン酸市場の成長は年平均6~8%で伸長していくとの予測レポートも。-----

矢野経済研究所、栄養剤・流動食・栄養補給食品の国内市場調査、2020年度は前年度比2.8%増の1452億円に

マイライフニュース - 2022/1/12

<https://www.mylifenews.net/data/2022/01/2020281452.html>

2020年度の栄養剤・流動食・栄養補給食品の市場規模（メーカー出荷金額ベース）は、前年度比102.8%の1452億円と推計した。2020年度の内訳を見ると、栄養剤市場の規模は前年度比103.7%の368億円、流動食市場の規模は前年度比102.2%の811億円、栄養補給食品市場の規模は前年度比103.4%の272億円となった。傾向としては、-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

[第2回] 味の素の「勝ち飯AI」、食品会社がアプリ開発のワケ

Beyond Health（日経BP総合研究所） - 2022/1/11

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00049/122400002/>

責任ある飲酒に関するグローバルマーケティング指針を策定

キリンホールディングス株式会社 - 2022/1/12

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0112_02.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）は、「責任ある飲酒に関するグローバルマーケティング指針（以下、本指針）」を策定しました。

本指針は「キリングroup CSV パーパス※1」の一つである「酒類メーカーとしての責任」の取り組みの一環です。当社はアルコール関連問題に対する基本方針を既に公開しておりますが、今回新たに責任ある飲酒に関するマーケティングについての指針を策定しました。

本指針は、酒類メーカーとして責任ある事業を展開することを社会へ向けて約束し、社会やお客様からの信頼と共感をいただくとともに、「アルコールの有害飲酒の根絶」に向けた取り組みを発展させることを目的としています。

なお、本指針を適用する対象会社はキリンビール株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、および Myanmar Brewery Limited となります。

※1 長期経営構想「キリングroup・ビジョン 2027」の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針

【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2022/1/13 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

高齢者”きもち”調査 2021 年

～60～90 歳の高齢者 2500 名の”きもち”を定量的に徹底分析～

株式会社日本能率協会総合研究所 - 2022/1/11

https://www.jmar.biz/report2/6090feelings_2021/?tab=freereport

○高齢者 60～90 歳 2500 名を対象とした、国内唯一の高齢者大規模郵送調査。

○100 を超える意識項目で、高齢者の「きもち」を明らかにします。

○様々な行動に対する「楽しさ・喜び」の感じ方を年代差で検証します。

○その他意識・行動に変化が訪れる年齢を追究します。

ノボノルディスクファーマ、47都道府県を対象とした「肥満」と「肥満症」に関する意識実態調査、減量のために医師に相談したことがある人は5.4%

マイライフニュース - 2022/1/14 <https://www.mylifenews.net/data/2022/01/4754.html>

ノボ ノルディスク ファーマは、全国 47 都道府県の男女 9400 名（20～75 歳）を対象に「肥満」と「肥満症」に関する意識実態調査を実施し、1 月 12 日、調査結果を発表した。同調査は、第三者調査会社を通じて「肥満」または「肥満症」の疑いがある BMI（体格指数）25 以上の男女を対象に行ったインターネット調査で、減量の経験、「肥満」および「肥満症」に対する意識と態度を探ったもの。調査からは、「肥満」を解消するために病院に行ったり、医師に相談したことがある人は非常に少なく、また、「肥満」と「肥満症」の違いについての認知度が低いことが明らかになった。-----

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

ローズマリー由来のカルノシン酸が新型コロナを抑制する可能性新たな作用メカニズムを論文発表 -- 東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2022/1/12 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47387.html>

東京工科大学（東京都八王子市、学長：大山恭弘）応用生物学部の佐藤拓己教授らの研究グループは、ハーブの一種であるローズマリー由来のカルノシン酸（CA）が、新たなメカニズムで新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を抑制する可能性を示す論文を発表しました（図 1）。-----

カテキン重合物が燃焼型脂肪細胞を増加させる カテキン重合物の反復経口投与で白色脂肪細胞の褐色化を確認

芝浦工業大学 - 2022/1/14

<https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002018.html>

芝浦工業大学(東京都港区／学長 山田純)システム理工学部生命科学科・越阪部教授ら研究チームは、ココアやワインに多く含まれるフェノール性物質であるカテキン重合物画分の経口投与が、交感神経系の活性化を介して、燃焼型であるベージュ脂肪細胞を増加させることを実証しました。

燃焼型脂肪細胞である褐色またはベージュ脂肪細胞は、脂肪を分解し、熱として体外に放出することが知られています。カテキン重合物を効果的に食事に取り入れることで、燃焼型脂肪細胞が増え、体内の余分な脂肪を燃焼させることで、肥満や心臓病の予防に役立つ可能性を示しました。

※この研究成果は、「Nutrients」誌オンライン版に掲載されています。

カレーに認知機能を保つ効果 日本人対象の調査でも ハウス食品の研究

財経新聞 - 2022/1/9 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220109/655220.html>

ハウス食品グループ本社（東京都千代田区）は7日、カレーの摂取が認知機能を良好に保つ効果があるとの研究成果を公表した。カレーに含まれる多様なスパイスが、高齢者の認知機能維持に役立つ。シンガポールでは既に同様に研究成果が報告されているが、日本の中高齢者を対象とした調査は今回が初めてだ。-----

シトラス果皮発酵エキス「4'-デメチルノビレチン」が 角層セラミド量を増加させ、シワを改善させることを富士産業が発見

-「第5回ノビレチン研究会」にて優秀発表賞を受賞-

富士産業株式会社 - 2022/1/18 <https://www.fuji-sangyo.co.jp/news/entry.php?id=136>

富士産業株式会社(本社：香川県丸亀市田村町 1301／代表取締役：岡田 篤典)は、この度、シトラス果皮発酵エキスに含まれる「4'-デメチルノビレチン」(以下「4'-DeNOB」と記載)が、肌保湿に重要な角層セラミド量を増加させることを新たに見出しました。さらに連用使用により、目尻のシワを改善することを確認いたしました。

今回得られた結果により、「4'-DeNOB」を含有するシトラス果皮発酵エキスは、エイジング世代の肌悩みに対して有効であると考えられ、肌質を改善しながら、肌本来の保湿機能を維持する新たなエイジングケアアプローチとして期待できます。

本研究成果の一部は、第5回ノビレチン研究会(2021年12月10日開催)にて発表しました。新たなエイジングケア成分への注目度は高く、本発表演題は、優秀発表賞を受賞いたしました。-----

緑黄色野菜などに含まれるスルフォラファンに炎症抑制効果があることを発見—九大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/1/14

<http://www qlifepro.com/news/20220114/sulforaphane.html>

P2Y₆R の「IBD の病態」に対する役割は？

九州大学は1月12日、ブロッコリースプラウトなどの緑黄色野菜に多く含まれるスルフォラファンやイベリンが細胞膜表面にある炎症誘導性のGタンパク質共役型受容体「P2Y₆R」と結合し、細胞内への取り込みと分解を促進することで、炎症を抑制することを

明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院薬学研究院の西田基宏教授（生理学研究所・生命創成探究センター教授兼務）と西山和宏講師、生理学研究所（生命創成探究センター）、東北大学、筑波大学、大阪府立大学、東京工業大学、東京大学との共同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Signaling」オンライン版に掲載されている。-----

植物乳酸菌 IJH-SONE68 産生の EPS、通年性アレルギー状態を軽減— 広島大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/17

<http://www qlifepro.com/news/20220117/ijh-sone68-eps.html>

イチジクの葉から得られた乳酸菌産生の細胞外多糖体 EPS、ヒト臨床研究へ

広島大学は1月14日、植物由来乳酸菌（植物乳酸菌）の一種「Lactobacillus (Lb.) paracasei IJH-SONE68」がつくる細胞外多糖体（exopolysaccharide：EPS）を摂取することで、通年性アレルギーの状態が軽減されることをヒト臨床研究で証明したと発表した。この研究は、同大大学院医系科学研究科未病・予防医学共同研究講座の杉山政則教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されている。-----

ビフィズス菌 MCC1274 のアルツハイマー予防効果をマウスで確認—名 古屋市立大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/20

<http://www qlifepro.com/news/20220120/mcc1274.html>

ビフィズス菌 MCC1274 の作用メカニズムと医薬品用途の可能性を探索

名古屋市立大学は1月19日、ビフィズス菌 MCC1274（Bifidobacterium breve MCC1274）をアルツハイマー病モデルマウスに摂取させると、アルツハイマー病モデルマウスで見られる記憶障害が予防されることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科神経生化学分野の道川 誠教授、鄭 且均准教授、森永乳業らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Alzheimer' s Disease」に掲載されている。

腸管「パネート細胞」の分化と機能に腸内細菌と免疫細胞が重要—東大 医科研ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/20

<http://www qlifepro.com/news/20220120/paneth-cells.html>

腸管恒常性維持や感染制御に関わるパネート細胞、分化や機能制御メカニズムは？

東京大学医科学研究所は1月19日、糖鎖を指標としてパネート細胞を機能的に分類し、その分化や機能制御について解析したところ、腸内細菌と免疫細胞由来サイトカインがパネート細胞サブセットの分化・機能を制御していることを見出したと発表した。この研究は、同研究所粘膜免疫学部門の神岡真理子特任研究員と清野宏特任教授らの研究グループが、千葉大学の後藤義幸准教授、倉島洋介准教授、北海道大学の中村公則准教授、綾部時芳教授らとの共同研究として行ったもの。研究成果は、「Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」オンライン版に掲載されている。-----

欧州の合成カンナビノイド・レビュー（2021年9月）

日本臨床カンナビノイド学会 - 2022/1/11

http://cannabis.kenkyuukai.jp/information/information_detail.asp?id=121685

合成カンナビノイドについてお問い合わせがあったので、欧州薬物・薬物依存監視センター（EMCDDA）が発行する合成カンナビノイドの最新資料を仮訳しました。米国のヘンプ由来 CBD の合法化に伴い、CBD 誘導体となる半合成カンナビノイドが注目されています。用語の整理を含めて御参照下さい。-----

以下の4件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年1月11日～21日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

ハーブに含まれる抗がん化合物のレシピを発見（2022/1/11）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76834&lay=lay&Find.html>

タイムとオレガノは腫瘍の発生を抑制する抗がん化合物を含むが、トマトソースにさらに加えるだけでは大きな利益を得るのに十分ではなく、これらの植物の力を解き放つ鍵は、生成される化合物の量を増幅するか、医薬品開発のために化合物を合成することであるという。米国パデュー大学の研究チームは、タイムとオレガノなどシソ科におけるチモール、カルバクロールおよびチモヒドロキノンの生合成は、チトクローム P450 および短鎖デヒドロゲナーゼを介することを明らかにした。-----

高用量ビタミンDを5年摂取しても、心疾患やがんに影響なし？

(2022/1/13)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76870&lay=lay&Find.html>

推奨されるよりもはるかに高い用量のビタミン D を 5 年間摂取しても、高齢男女の総死亡率や心血管疾患またはがんの発生率に影響を与えないようだ、という東フィンランド大学からの研究報告。-----

腸には本物の砂糖と人工甘味料の違いがわかる？（2022/1/18）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76923&-lay=lay&-Find.html>

味蓄はスプレンドのような糖代替品と本物の糖を区別できないことがあるが、腸内には 2 つを区別できる細胞があり、数ミリ秒で脳に違いを伝えることができる、という米国デューク大学からの研究報告。-----

妊娠中の甘味料、子の腸内細菌叢と肥満リスクに影響か（2022/1/19）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=76930&-lay=lay&-Find.html>

妊娠中に甘味料のステビアやアスパルテームを摂取すると、産まれた子は肥満リスクが高まるとともに腸内細菌叢に特定の変化があったという。カナダ・カルガリー大学による動物実験から。一方で、母親における影響はごくわずかだったという。-----

以下の 3 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022 年 1 月 11 日～21 日）から選定したものです。

運動前の炭水化物摂取にタンパク質を加えると、翌日の持久力パフォーマンスが向上する可能性（2022/1/12）

<https://sndj-web.jp/news/001642.php>

持久力パフォーマンスの維持・向上に運動前の炭水化物の摂取が重要であることはよく知られているが、これにタンパク質を加えた場合の影響を検討した研究結果が報告された。タンパク質を加えても、当日の持久力パフォーマンスには影響はないが、翌日のパフォーマンスが上昇する可能性があるという。-----

HDL-C と血圧の U 字型の関係が明らかに HDL-C 低値はメタボ、高値は飲酒の影響か 特定健診 150 万人のデータを解析（2022/1/13）

<https://sndj-web.jp/news/001645.php>

神奈川県内の特定健診受診者のビックデータを解析した検討から、善玉（HDL）-コレステロールと血圧はU字型の関係にあることが明らかになった。神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科の中島啓氏らの研究によるもので、「Journal of Clinical Medicine」に論文が掲載された。同氏らは、HDL-C 低値で血圧高値の場合はメタボリックシンドローム（Met-S）の影響、HDL-C 高値で血圧高値の場合は飲酒の影響により、両者がU字型の関係になるのではないかと考察している。-----

ゆっくり、良く噛んで食べるとエネルギー消費量が増加する 飲み物も噛んで飲むことが大切（2022/1/19）

<https://sndj-web.jp/news/001648.php>

朝食が体重増加につながるメカニズムの一端が明らかになった。食物が固体か液体にかかわらず、咀嚼が食後のエネルギー消費量の増加を導くことが示され、「良く噛むこと」が減量に結び付く可能性があるという。早稲田大学と国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所のグループの研究によるもので、「Scientific Reports」に論文が掲載されるとともに早稲田大学のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

カテキンを摂取すると体内の余分な脂肪が燃焼しやすくなる、芝浦工大が実証

マイナビニュース - 2022/1/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220117-2250787/>

■ その他の注目研究・技術情報

学習を制御するタンパク質が困ったとき「兄弟」タンパク質が助ける、東京大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2021/1/8 <https://univ-journal.jp/137176/>

線虫は、PKC-1 というタンパク質の働きによって自分の飼育されていた環境を記憶する。今回、東京大学の廣木進吾大学院生と飯野雄一教授は、PKC-1 の「兄弟分」であるよく似たタンパク質 TPA-1 が、特定条件で PKC-1 の機能をサポートすることを明らかにした。-----

細胞を横断してビタミン C を脳に届ける輸送体、東京大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2022/1/15 <https://univ-journal.jp/139027/>

東京大学のグループは、細胞内から細胞外へビタミン C 輸送を担う排出型の輸送体を世界で初めて明らかにした。

ビタミン C は生存に必須の栄養素として知られる一方で、からだの隅々まで行き渡らせるための体内動態制御についてはあまりわかっていない。特に脳は、ビタミン C を豊富に含む臓器でありながら、関門組織によって血液と隔てられているため、血液から脳へのビタミン C 移行を司る分子機構が存在すると考えられている。-----

層別化された健康な日本人の平均的な腸内細菌叢に関する論文が、 Bioscience of Microbiota, Food and Health 誌に掲載されました

株式会社サイキンソー - 2022/1/13 <https://cykinso.co.jp/news/20220114>

株式会社サイキンソー(本社：東京都渋谷区、代表取締役：沢井 悠、以下サイキンソー)は、神戸大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内学分野の吉田尚史研究員、山下智也准教授との共同研究により、層別化された健康な日本人集団の平均的な腸内細菌叢を確立しました。

本研究の成果は、2021 年 12 月 7 日付けで『Bioscience of Microbiota, Food and Health』に掲載されました。

(URL : https://www.jstage.jst.go.jp/article/bmfh/advpub/0/advpub_2021-056/_article)

NAFLD 進行にケモカイン「CCL3」が重要と判明—金沢大

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/11 <http://www qlifepro.com/news/20220111/ccl3.html>

NAFLD の進行に関与しているケモカインは不明だった

金沢大学は 1 月 6 日、非アルコール性脂肪性肝疾患（いわゆる脂肪肝）の進行の原因として、CCL3 と呼ばれるケモカイン分子が、重要な役割を果たしていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大医薬保健研究域医学系の長田直人講師らの研究グループによるもの。研究成果は、「Metabolism: Clinical and Experimental」オンライン版に掲載されている。-----

上の記事と同じ研究を紹介しています。

脂肪肝の進行に関与するタンパク質物質を金沢大が特定

マイナビニュース - 2022/1/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220111-2247494/>

骨粗鬆症薬への応用も期待、オートファジーによる骨芽細胞の活性機構が解明

マイナビニュース - 2022/1/20

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220120-2253404/>

20秒で医薬品向け化合物の製造を可能とする反応装置、京大が開発

マイナビニュース - 2022/1/8 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220108-2245455/>

油滴を多量に含んだ水の流れの速度をシンプルに導く手法を農工大が考案

マイナビニュース - 2022/1/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220111-2247533/>

Nightingale Open Science - 無償利用可能な「AI開発向け大規模医学データベース」

The Medical AI Times - 2022/1/17 <https://aitimes.media/2022/01/17/9967/>

カリフォルニア大学バークレー校の医師で、AI科学者でもある Ziad Obermeyer 氏は2021年末、Nightingale Open Science を立ち上げた。これは、医学における未解決課題へのAI適用を見据え、多面的にキュレーションしたユニークな医学データセットである。----

蛍光タンパク質の蛍光強度を維持したまま組織・器官を透明化できる 動植物共通の透明化法開発に成功～農作物の品種改良や脳の診断法開発 に貢献～

財経新聞-2022/1/13 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1538418/>

プレスリリース発表元：横浜市立大学

2. 発表のポイント：

植物と動物の区別なく、組織や器官を透明化できる方法を開発しました。

この手法を用いて、従来法より蛍光タンパク質の蛍光強度を維持したまま透明化することに成功しました。

組織や器官深部の構造を維持したまま細胞を観察することができるため、器官形成や組織の成り立ちのメカニズム研究の加速、農作物の品種改良や脳の診断法開発への貢献が期待されます-----

■ その他

幸福度と健康関心度の関連も！「ウェルネストレンド白書」徹底活用法

ウェルネス総研オンライン - 2022/1/14 <https://wellnesslab-report.jp/1488/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、10代～70代、約4800名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.1』を2021年12月7日に刊行しました。本白書ではプロファイリング分析により、生活者を「7つの健康セグメント」に新たに分類。各健康セグメントの特性を明らかにするとともに、各セグメントによる興味関心をヘルスベネフィット、素材・成分の観点から分析しています。本調査の設計、調査、分析を行った監修をつとめたウェルネス総合研究所の首席アナリストである青木健氏と白井俊行氏に、今回の調査における発見や活用法についてうかがいました。-----

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2022年2月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております

す。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

[EU] 食品安全：この夏で食品添加物二酸化チタン禁止

食品安全情報 blog2 - 2022/1/26

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/26/172624>

(26 日分の最初の見出しです)

英国食品規準庁 (FSA) の毒性委員会 (Committee on Toxicity: COT) による文書

[COT] 二酸化チタン暫定ポジションペーパー

食品安全情報 blog2 - 2022/1/31

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/01/31/180638>

(31 日分の最初の見出しです)

日本病態栄養学会・味の素共催セミナー「東京栄養サミットから見た、これからの栄養の役割り」

スポーツ栄養 WEB - 2022/1/28 <https://sndj-web.jp/news/001663.php>

2022 年 1 月 28 日 (金)・29 日 (土)・30 日 (日) の 3 日間、国立京都国際会館とオンラインでハイブリッド開催される第 24 回・第 25 回日本病態栄養学会年次学術集会。全国から医師、管理栄養士、栄養学研究者を中心に様々な医療スタッフが集まり、病態栄養学の最新情報が共有されます。-----

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 2 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2446>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2447>

素材情報データベース (新規) 2 月 4 日正午時点ではありません

2022年1月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1月の新規案件はありませんでした

食品安全情報（化学物質） No.03 (2022.02.02)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202203c.pdf>

別添（二酸化チタンに関するポジションペーパーの和訳）：

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202203ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

新経済連盟、消費者庁の「アフィリエイト広告等に関する検討会」へ意見提出 経済団体としての懸念と要望を表明

マイナビニュース - 2022/1/31

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220131-2261442/>

■ 行政・法令関連情報（その他）

「改正食品衛生法の施行に関する説明会」を開催します

～3月16日（水）にオンラインで開催、参加者を募集～

厚生労働省 - 2022/2/1 https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/1111212865_00029.html

厚生労働省は、食品に関するリスクコミュニケーション「改正食品衛生法の施行に関する説明会～令和3年6月1日に施行された内容について～」を、3月16日（水）にオンラインで開催し、参加者を募集します（事前申込制、参加無料）。

この説明会では、HACCPに沿った衛生管理の制度化、営業届出制度の創設・営業許可制度の見直し、食品等の自主回収報告制度の創設などについての情報提供と質疑応答を行います。-----

第98回コーデックス連絡協議会（開催案内）

厚生労働省 - 2022/1/31 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_23457.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和4年2月14日（月曜日）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第98回 コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回はウェブ上での傍聴を受け付けます。

第6回アフィリエイト広告等に関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/1/27

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/026907.html

第3回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/1/27

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/025320.html

■ 海外公的機関情報

以下の2件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/1/26 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

3. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、フレンチドレッシングの識別規格の取消に関する最終規則を公表](#)

22. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、マグネシウムと高血圧のリスク低下に関する限定的健康強調表示について公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

食品表示、デジタル活用の可能性は？

健康メディア.com - 2022/2/3 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15836

食品表示を充実させる動きが広がっている。政府は加工食品の栄養成分などに関する食品表示の充実強化に向け、デジタルツールを活用した実証調査に着手した。商品バーコードをスマホで読み取ることで、アレルギー物質の警告、代替商品の提案（アレルギー物質を含まない類似商品）、栄養摂取の目安などの情報収集ができるもの。健康食品やサプリメントも対象としている。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

植物性プロテイン、免疫対策で新たな市場開拓を（特集：クロレラ）

健康メディア.com - 2022/1/27

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15824

クロレラが市場拡大に向けて動き出している。「植物性プロテイン」「ホールフーズ（全体食）」として、スポーツニュートリション分野からの注目が高まっている。また、コロナ禍において、エビデンスベースの免疫対策素材としての再評価も進む。“錠剤主体からの脱却”“若年層開拓”をテーマに、エビデンスの拡充や付加価値原料の開発による訴求力強化を進めてきたクロレラに、新たな商機が見える。-----

認知症 700 万人時代 へ、進む商品開発（特集／注目の健脳素材）

健康メディア.com - 2022/2/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15844

健脳サプリメント開発が活発化——高齢化率 29.1%と過去最高となる中、認知機能サポート関連の機能性表示食品は 380 品を超え、この 1 年間で 70 品以上増加した。新規の関与成分も続々と届出・受理されており、販売には大手企業も続々参入している。自身の認知症への不安を持つ消費者は 6 割を超え、2 割は予防策としてサプリメントを摂取しているとの調査結果も。現状約 170 億円とされる市場規模は、近々 200 億円を超え、さらなる拡大が予想される。原料サプライヤー、販売メーカーとも 2025 年の認知症 700 万人時代に備え、着々と準備を進めている。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

DX を推進するアステラス製薬、「人とデジタルのベストミックス」で差別化図る

MONOist - 2022/1/24 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2201/24/news054.html>

アステラス製薬は 2022 年 1 月 21 日、オンラインで会見を開き、同社の DX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた取り組みを説明した。同社は 2021 年 5 月に 2021～2025 年度の中期計画「経営計画 2021」を発表しているが、DX は達成の要の一つに位置付けられており、注力していく方針だ。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

キリン、高校・大学受験を控える受験生 700 名を対象に調査、受験に向けて「免疫ケア」を習慣化したい人は 86%に

マイライフニュース - 2022/1/24 <https://www.mylifenews.net/data/2022/01/70086.html>

キリンホールディングス（以下、キリン）は、キリンが発見した世界初の独自素材「プラズマ乳酸菌」を通じて、免疫ケアを啓発する「キリンのプラズマ乳酸菌で免疫ケア」プロジェクトを発足している。プロジェクトの一環として、体調管理が重要になる受験シーズンに、受験生を対象に体調面の調査を行ったところ、風邪・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の予防対策を行っている受験生が 86%と大多数を占めていたが、免疫低下につながる「睡眠不足・ストレス・運動不足」を抱える受験生も多いことが判明した。-----

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

生薬の煎じ液中に、免疫活性化を誘導する耐熱性 RNA を発見 富山大学

大学ジャーナルオンライン - 2022/1/27 <https://univ-journal.jp/140884/>

富山大学学術研究部薬学・和漢系／和漢医薬学総合研究所・未病分野の犬嶋明子博士研究員および小泉桂一教授と和漢医薬教育研修センターの柴原直利教授らは、生薬の煎じ薬中に耐熱性の RNA が存在し、さらにこの RNA が免疫活性化効果をもつことを明らかにした。---

体の健康維持に必要不可欠な「ホメオスタシス」

ウェルネス総研レポート online - 2022/1/28 <https://wellnesslab-report.jp/1490/>

現代人はオーバーワークなどで疲労感を訴える人が増えています。その結果、「ホメオスタシス」が乱れて健康を害しているという考えが注目を集めています。また、ホメオスタシスの乱れは食でケアできることがわかってきました。今回はホメオスタシスとはなにか、なぜ注目を集めているのか、ホメオスタシスの維持につながる成分について解説していきます。-----

以下の7件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年1月22日～2月4日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

サプリメントが筋肉ミトコンドリアの健康を高める？（2022/1/25）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76987&-lay=lay&-Find.html>

ウロリチンAのサプリは、筋肉のミトコンドリアの選択的分解（マイトファジー）を加速してミトコンドリアを健康に保つようだ、という米国ワシントン大学医学校からの研究報告。-----

緑色地中海ダイエットは加齢に伴う神経変性を遅らせる？ （2022/1/25）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=76988&-lay=lay&-Find.html>

緑色地中海ダイエットは、加齢に伴う神経変性を遅らせる働きがあり、それは部分的にはポリフェノールのおかげかもしれない、というイスラエル・ネゲヴ・ベン・グリオン大学からの研究報告。-----

コーヒーと胃腸の関係（2022/1/26）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77007&-lay=lay&-Find.html>

コーヒーは腸の動きを助けたり、善玉菌を増やすかも——消化における、コーヒーを飲むことの利点、そして胆石や特定の肝疾患に対する保護効果について、パリ・デカルト大学ネッケル小児病院がレビューを発表した。

血液たんぱく質が長く健康的な生活の鍵となる可能性（2022/1/28）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77053&-lay=lay&-Find.html>

2つの血液たんぱく質が我々の人生の長さと健康に影響を与えるようだ、という英国エディンバラ大学からの研究報告。-----

人気のダイエットが腸の健康に悪影響を及ぼす？（2022/1/31）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77070&-lay=lay&-Find.html>

ケトやパレオのような低炭水化物ダイエットは、新年のダイエットに最も人気のある選択肢の1つかもしいないが、あなたの腸には最適ではないかもしれない、という仏ダノンニュートリシアリサーチなどからの研究報告。-----

アスリートに天然サプリメントの潜在的な危険性を警告（2022/2/1）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77076&-lay=lay&-Find.html>

運動能力を高めるために摂取されたサプリメントには心臓にリスクをもたらす可能性があるかもしれない、という欧州予防循環器学会によるポジションステートメント。-----

食事介入によってコレステロールは下げられる？（2022/2/2）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77089&-lay=lay&-Find.html>

食事介入によって、コレステロールを効果的に低下させることが可能なようだ、という米国メイヨークリニックなどからの研究報告。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年1月22日～2月4日）から選定したものです。

炭水化物の摂取量と24時間トレイルレースでの走行距離が有意に相関（2022/1/22）

<https://sndj-web.jp/news/001654.php>

24時間トレイルレース参加者のレース参加前からレース中の食事を観察した研究結果が報告された。炭水化物摂取量や総摂取エネルギー量とレース成績との間に、有意な正の相関が認められたという。ただし炭水化物摂取量は総じて推奨されている値よりも少なかったとのことだ。-----

オーラルフレイルは中年期から始まっている！ 非高齢者でも口腔機能低下と栄養不良に有意な関連（2022/1/24）

<https://sndj-web.jp/news/001655.php>

口腔機能の低下と栄養状態の悪化の相関は、高齢者ばかりでなく、中年期の成人でも認められることが報告された。東京歯科大学老年歯科補綴学講座の上田貴之氏らが、都内歯科医院の患者を対象に行った横断研究の結果であり、「Clinical and Experimental Dental Research」に論文が掲載された。高齢期に入る前からオーラルフレイルのリスクが上昇する可能性を示唆するデータと言える。-----

高タンパク食で食欲抑制ホルモンの分泌が亢進するが、反応の仕方は性別により異なる (2022/1/29)

<https://sndj-web.jp/news/001660.php>

一般的な栄養素バランスの食事に比べて高タンパク食では、レプチンやペプチド YY、GLP-1 などの食欲抑制ホルモンの分泌が全体的に亢進するように変化することや、女性では食事条件に伴う変化に食欲の低下が関与している可能性が報告された。また、高タンパク食では、摂取エネルギー量が等しい場合、負のエネルギーバランスになるという。-----

ブラックコーヒーを習慣的に飲みたくなるのは遺伝子のせい？ カフェインの代謝速度が関連する可能性 (2022/2/3)

<https://sndj-web.jp/news/001670.php>

ブラックコーヒー好きな人は、その苦味が好きだから飲むのではなく、遺伝的にカフェインの代謝が速いためであるとする研究結果が発表された。米ノースウェスタン大学の研究によるもので、結果が「Scientific Reports」に掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。研究によると、ブラックコーヒーが好きな人はその遺伝子変異のために、チョコレートもまろやかなミルクチョコレートではなく、苦味の強いダークチョコレートも好む傾向があるという。-----

■ その他の注目研究・技術情報

味とにおいに寄与する成分を同時に検出可能な新たな分析法を開発

～食品の風味（おいしさ）の数値化・客観的理解に期待～

九州大学 - 2022/1/25 <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/718>

ポイント

1. ヒトが口腔内で検知しているような味やにおいを同時に解析する技術は存在せず、味とにおいを一元化した食品の風味（おいしさ）を定量的に評価することはこれまで不可能だった
2. 本研究で味とにおいに寄与する成分を同時に検出可能な新たな分析法を開発

3. 従来数値として表現することが困難であった食品風味・品質の評価、さらにはおいしさの客観的評価・理解に大いに役立つと期待

腸内細菌叢の変化が皮膚の疾患に影響を及ぼす可能性、東大などが発見

マイナビニュース - 2022/1/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220127-2258618/>

リン脂質分解酵素「sPLA2-IIA」が腸内細菌叢の調節に関与 - 東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/1/31

<http://www.qlifepro.com/news/20220131/spla2-iaa.html>

ヒトの腸管で炎症の有無にかかわらず、sPLA2-IIA が常に高発現している理由は？

東京大学は1月26日、腸管内腔に分泌されるリン脂質分解酵素の一つであるIIA型分泌性ホスホリパーゼA2 (sPLA2-IIA) が、腸内細菌叢のバランスを変えることによって、皮膚がんや乾癬などの皮膚疾患に影響を及ぼすことを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の村上誠教授らの研究グループと、慶應義塾大学薬学部の有田誠教授、同先端生命科学研究所の曾我朋義教授、医薬基盤健康栄養研究所の國澤純プロジェクトリーダーらとの共同研究によるもの。研究成果は、「JCI insight」オンライン版に掲載されている。-----

【京都産業大学】 遺伝暗号コドンの組み合わせによるリボソームの減速が mRNA の安定性を決定することを解明 -- 欧州分子生物学機関誌「The EMBO Journal」 (オンライン版) に掲載

大学プレスセンター - 2022/2/1 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47499.html>

京都産業大学生命科学部 三嶋雄一郎准教授、木村 成介教授と理化学研究所らの研究グループは、メッセンジャーRNA (mRNA) からタンパク質が作られる際のリボソームの移動のスピードが、mRNA 自身の寿命を決めていることを解明した。mRNA ワクチンのような人工 mRNA が、細胞の中で安定かつ持続的にタンパク質を作り出せるように設計する技術の開発にも貢献できると期待する。-----

前処理なしの簡単操作で細胞を分離できる細胞分離チップ、広島大などが開発

マイナビニュース - 2022/1/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220128-2259570/>

老化を科学で読み説く 3つのポイント 「老化制御」 ● 研究成果の社会実装に向けて

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/25

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00050/012000001/?P=5>

Muse 細胞を用いた医療を広く世界へ届けたい

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/1/26

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyperson/19/00065/>

脂肪肝発症に関与する新たな分子を発見？ オートファジーとは異なる機序で ATG3 が作用する可能性

日経メディカル - 2022/1/24

<https://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/mem/pub/hotnews/digestive/202201/573555.html>

■ その他

【新連載】 SNS 運用のプロが教える「SDGs×SNS 時代」の心得

企業 SNS が炎上する理由 SDGs 観点で考えてみると？

業務で SNS アカウント運用を担当している人に向け、SDGs の観点から、役立つノウハウをお伝えします。

ITMedia マーケティング - 2022/1/26

<https://marketing.itmedia.co.jp/mm/articles/2201/26/news044.html>

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2022 年 2 月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

免罪符型健康食品 CM で、摂取すれば不健康な行動をしても良いという認識強まる－東大

QLifePro 医療ニュース - 2022/2/16

[http://www.qlifepro.com/news/20220216/health-products.html](http://www qlifepro.com/news/20220216/health-products.html)

健康食品の免罪符型動画広告が、視聴者の認識に与える影響は？

東京大学は2月14日、「免罪符型」の健康食品の動画広告の閲覧によって、視聴者の「健康食品を摂取すれば、不健康な行動をしてもよい、健康行動をしなくてよい」という認識が強まることを実証したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科の冨田奈大学院生、奥原剛准教授、木内貴弘教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Healthcare」に掲載されている。-----

東京大学プレスリリース https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/admin/release_20220214.pdf

■ 安全性関連情報

国産米の無機ヒ素の含有実態調査（平成 29 年～令和元年産）の結果について

農林水産省 - 2022/2/16 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/220216.html>

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 2 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2446>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2447>

素材情報データベース（新規） 2 月 18 日正午時点ではありません

2022 年 1 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2443>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2440>

素材情報データベース（新規） 1 月の新規案件はありませんでした

食品安全情報（化学物質） No.03 (2022.02.02)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202203c.pdf>

別添：<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202203ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする商品等の表示に関する改善要請及び一般消費者等への注意喚起について

消費者庁 - 2022/2/18 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/027528/>

消費者庁は、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大に乘じ、インターネット広告において、新型コロナウイルスに対する予防効果を標ぼうする健康食品、首下げ型空間除菌剤等に対し、緊急的措置として、景品表示法(優良誤認表示)及び健康増進法(食品の虚偽・誇大表示)の観点から表示の適正化について改善要請を行うとともに、SNS を通じて一般消費者等への注意喚起を行いました。-----

消費者庁、アフィリエイト広告検討会 「広告主」の責任明確化 2月中に報告書

健康メディア.com - 2022/2/14 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15857

消費者庁は1月28日、「アフィリエイト広告等に関する検討会」の第6回会合を開催、悪質事業者対策などを盛り込んだ報告書（案）について大筋で合意した。この日の意見を踏まえて、2月中に報告書を確定させる見通し。報告書では、まずは広告主が責任を負うべき主体であるとし、また不当表示未然防止策のひとつとして、アフィリエイト広告に「広告」であることの明記を求めた。-----

アフィリエイト広告等に関する検討会 報告書

消費者庁 - 2022/2/15

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/assets/representation_cms216_220215_01.pdf

■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 海外公的機関情報

以下の5件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/2/9 確認) の中から、気になったものを選定しました。前号までに他のセクションで紹介済みのトピックスも含まれています。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

20. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、ビタミン類及び必須ミネラル類に対する耐容上限摂取量\(UL\)の設定及び適用のためのガイダンスに関する科学的意見書を公表](#)

36. [英国毒性委員会\(COT\)、二酸化チタンに関する暫定的なポジションペーパーを公表](#)

42. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品中の亜硫酸塩の新たな分析法についての最終規則を公表](#)

43. [欧州連合\(EU\)、食品添加物二酸化チタン\(E171\)に関する欧州議会及び理事会規則\(EC\)No 1333/2008 附属書 II 及び III の改正を官報で公表](#)

51. [欧州委員会\(EC\)、食品添加物二酸化チタンの使用禁止を採択したと公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

機能性表示食品、乳酸菌・ビフィズス菌関連受理 400 品に到達（特集／乳酸菌）

健康メディア.com - 2022/2/18

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15899

乳酸菌やビフィズス菌を機能性関与成分とした機能性表示食品の受理品が 400 品に到達した（2022 年 1 月 27 日時点）。

受理総数 4,000 品以上の機能性表示食品の約 8%が乳酸菌やビフィズス菌を関与成分とした商品となっている。-----

富士経済、めん類や米飯類の国内市場の調査、2021 年見込では植物性ヨーグルト市場が 2020 年比 17.1%増の 48 億円・オートミール市場が同 76.9%増の 46 億円に

マイライフニュース - 2022/2/9

<https://www.mylifenews.net/data/2022/02/202120201714876946.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、テレワークの定着によって、仕事の合間の間食需要やプチ贅沢需要を獲得しているデザート、家庭内でのランチ需要を獲得しているめん類や米飯類の国内市場を調査した。その結果を「2022 年 食品マーケティング便覧 No.3」にまとめた。-----

矢野経済研究所、国内のドクターズコスメ市場の調査、2020 年度は前年度比 87.4%の 914 億円に

マイライフニュース - 2022/2/9

<https://www.mylifenews.net/data/2022/02/2020874914.html>

矢野経済研究所は、国内のドクターズコスメ市場を調査し、市場の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、2020 年度は前年度比 87.4%の 914 億円で着地した。

市場を圧倒的な力で牽引してきたトッププレイヤーの売上縮小によって2年連続で市場は縮小となっている。-----

フェムテック市場上昇機運サブリ・コスメ開発加速（連載／話題追跡）

健康メディア.com - 2022/2/14 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15867

女性の健康課題をケアする「フェムテック」をテーマにしたサブリやコスメの商品開発がますます熱を帯びてきた。フェムテックは2019年頃から注目され、当初は吸水ショーツ等アパレルを中心とした動きだったが、市場は一気に広がり、「更年期に減少するエクオール

「ウェルネストレンド予測2022」第1回 女性視点から見た健康意識～ウェルネスはどこまでやさしくなれるか

ウェルネス総研レポート online - 2022/2/10 <https://wellnesslab-report.jp/1509/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所では、健康関連分野の情報をウォッチし続けている有識者に、2022年のウェルネストレンド予測についてインタビューとアンケートを行いました。コロナ禍によってウェルネスの潮流はどのように変化したのか、また、今後どこに向かって生活者の意識は変化していくのか。日頃から幅広い健康関連企業やユーザーと接しているジャーナリストならではの見解を、その背景とともにご紹介していきます。-----

「ウェルネストレンド予測2022」第2回 フィットネスから見た健康意識～ウェルネスは「挑戦する人」を応援できるか

ウェルネス総研レポート online - 2022/2/10 <https://wellnesslab-report.jp/1520/>

【マーケティングレポート②前編】グローバルなトレンド「たんぱく市場」の国内外における動向と発展

ウェルネス総研レポート online - 2022/2/16 <https://wellnesslab-report.jp/1524/>

「たんぱく市場」ではサステナビリティとウェルネスの観点から、プラントベースと呼ばれる植物性たんぱく質などが登場し、世界的に注目を集めています。こうした“次世代たんぱく質”における動向や消費者のニーズは、日本と海外では異なる傾向があることをご存じですか？今、トレンドとなっている“スナッキング”におけるたんぱく質の位置づけや、新しい課題ともいえる「プラントベース・パラドックス」、わが国で求められている次世代た

んぱく質の期待や展望について、グローバルニュートリショングループ代表の武田猛氏にうかがいました。-----

【マーケティングレポート②後編】「次世代たんぱく質」のビジネスにおけるメリット&デメリット

ウェルネス総研レポート online - 2022/2/18 <https://wellnesslab-report.jp/1546/>

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

5-ALA、市場形成本格化（特集／5-ALA）

健康メディア.com - 2022/2/16 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15870

新型コロナ不活化で話題になった5-アミノレブリン酸リン酸塩（5-ALA）。血糖値の上昇抑制、睡眠の質向上、疲労感の軽減、運動効率の改善、ダイエット、美肌など、多種多様なエビデンスも注目を集めている。最終製品はサプリメントはじめ、一般食品や化粧品での商品化も。機能性表示食品は10品の届出が受理されており、5-ALAの市場形成が急ピッチで進んでいる。5-ALAは2013年7月に厚労省の非医薬品リストに「光合成細菌（ロドバクター・セファロイデス）の生成したもの」として記載されており、化学合成法でつくられたものは対象外。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

キリン×ファンケル提携から2年、見え始めた相乗効果、「不の解消」への取り組み

食品産業新聞社 - 2022/2/4

<https://www.ssnpc.co.jp/news/beverage/2022/02/2022-0204-0945-16.html>

キリンホールディングスとファンケルは、2019年8月に資本業務提携を発表し、翌年から徐々に飲料や食、スキンケアなどの商品を発売している。いずれも健康を軸にしたものであることが特徴だ。そして、共同開発した清涼飲料やノンアルコール飲料では、両社のブランドを前面に打ち出している。-----

[第9回] キューピーが、がん発症リスク判定サービス事業化を目指すワケ 食品メーカーだからこそそのアプローチを強みに

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/2/9

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00049/020300010/>

雪印メグミルク大樹工場における ホエイの新たな活用による環境負荷低減の取組みについて

雪印メグミルク株式会社 - 2022/2/3 <https://www.meg-snow.com/news/2022/10181/>

雪印メグミルク株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：西尾 啓治）は、乳資源の有効利用のため、ホエイの新たな活用に向けた検討を開始しており、この取組みの一環として、大樹工場にメタンガス化施設を設置します。-----

【2022年 アサヒグループ食品事業方針】 “多刀流”による様々な「おいしさ+α」の価値を提供することで、社会課題を解決し、お客様の「心とからだの健やかさ」の実現に貢献します

アサヒグループ食品株式会社 - 2022/2/4

<https://www.asahi-gf.co.jp/company/newsrelease/2022/0204/>

アサヒグループ食品株式会社（本社 東京、社長 川原浩）は、2022年1月から再定義した長期ビジョン『私たちは、「おいしさ+α」を追求し、「心とからだの健やかさ」の実現に貢献する企業を目指します』のもと、赤ちゃんから高齢者の方まで幅広い世代の方々のライフステージと、毎日の様々なシーンやライフスタイルに貢献する“多刀流”な商品ラインアップを通じて、お客様のさらなる満足、社会課題の解決を追求していきます。

2022年の事業方針は『“多刀流”による様々な「おいしさ+α」の価値を提供することで、社会課題を解決し、お客様の「心とからだの健やかさ」の実現に貢献します』とします。----

■ 消費者意識等の調査・分析

ウェルネストrend調査でわかった 生活者と提供者のギャップの衝撃

ウェルネス総研レポート - 2022/2/7 <https://wellnesslab-report.jp/1493/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、10代～70代、4800名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストrend白書 Vol.1』を12月7日に刊行しました。本白書ではプロファイリング分析により、生活者を「7つの健康セグメント」に新たに分類。各健康セグメントの特性を明らかにするとともに、各セグメントによる興味関心をヘルスベネフィッ

ト、素材・成分の観点から分析しています。本調査の監修をつとめたグローバルニュートリショングループの武田猛氏に、調査結果から見えてきた気づきや調査の意義をうかがいました。-----

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

食物繊維を多く食べるほど要介護認知症リスク低下、大規模コホート結果－筑波大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/2/14

<http://www qlifepro.com/news/20220214/dietary-fiber.html>

腸内細菌に影響する食物繊維、摂取量とその後の要介護認知症リスクの関連は？

筑波大学は2月10日、国内の3つの地域における住民約3,700人を最大21年間にわたって追跡調査し、中年期に食物繊維を多く取ることで、高齢期の要介護認知症の発症リスクが低下する可能性を、世界で初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大医学医療系ヘルスサービス開発研究センターの山岸良匡教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutritional Neuroscience」に掲載されている。-----

筑波大学プレスリリース（2022/2/10）

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/pdf/p20220210140000.pdf>

シスチン・グルタミン摂取が、激しい運動に伴う腸管バリア機能の低下を抑制－早大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/2/17

<http://www qlifepro.com/news/20220217/cystine-glutamine.html>

シスチン・グルタミン摂取が、激しい長時間の運動後の腸管バリア機能に与える影響は？

早稲田大学は2月16日、一過性の激しい運動が腸管透過性に及ぼす影響を評価し、アミノ酸のシスチン・グルタミンを摂取することで、運動により腸管が受けるダメージおよび守る働きの低下を抑制することを明らかにしたと発表した。この研究は、同大スポーツ科学学術院の宮下政司教授、同大大学院スポーツ科学研究科修士課程2年在籍の田高悠晟氏と、味の素株式会社らの研究グループによるもの。研究成果は、「European Journal of Nutrition」にオンライン掲載されている。-----

早稲田大学プレスリリース（2022/2/16） <https://www.waseda.jp/top/news/78494>

微細藻類ユーグレナの摂取により、心不全の発症にともなう腸内環境の悪化を緩和し、心機能低下を抑えることを示唆する研究結果を発表しました

株式会社ユーグレナ - 2022/2/14 <https://www.euglena.jp/news/20220214/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、東京大学医学部附属病院の梅井正彦特任臨床医、赤澤宏講師との共同研究により、微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ、以下「ユーグレナ」）が、急性心不全モデルマウスの便秘症状を改善し、心機能を改善することを示す研究結果を発表しました。なお、今回の研究成果は、「第84回日本循環器学会学術集会」（2020年7月27～8月2日開催※1）で発表、また、2022年2月10日に『Circulation Reports』オンライン版に掲載されました。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/circrep/4/2/4_CR-21-0094_article/-char/ja

肥満解消は「何を食べるか」に加え「どう食べるか」も大切

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/2/8

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyperson/19/00066/>

以下の3件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年2月7日～18日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

ビタミンDと魚油のサプリが自己免疫疾患のリスクを減らす？

(2022/2/7)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77148&lay=lay&Find.html>

ビタミンDおよびオメガ3脂肪酸サプリメントの毎日の摂取は、自己免疫疾患の発症リスクを下げるようだ、という米国ハーバード大学などからの研究報告。-----

体脂肪が多いのは、思考力と記憶力が低下するリスク因子

(2022/2/10)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77184&lay=lay&Find.html>

体脂肪が増えることは、成人の認知機能の処理速度の低下などのリスク因子であるようだ、というカナダ・マクマスター大学などからの研究報告。-----

問題は脂肪の過剰ではなく機能の喪失である？ (2022/2/16)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77235&-lay=lay&-Find.html>

肥満の問題は、単に脂肪が蓄積しているということではなく、脂肪細胞の機能低下である、という米国ペンシルバニア大学からの研究報告。-----

以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2022年2月7日~18日) から選定したものです。

リコピンだけ摂取 vs トマト全体を摂取、運動時の抗酸化力が優れているのはどっち？ (2022/2/10)

<https://sndj-web.jp/news/001678.php>

トマトの赤い色素「リコピン」には強い抗酸化作用があることから、サプリメントとしても利用されている。このリコピンのみをサプリメントとして摂取する場合と、トマト全体をパウダーにしたものを摂取した場合とで、運動に伴う酸化ストレスや脂質酸化のレベルを比較した研究結果が、国際スポーツ栄養学会 (ISSN) の「Journal of the International Society of Sports Nutrition」に掲載された。-----

持久力パフォーマンスに対する炭水化物摂取の影響 約半世紀にわたる142件の研究のメタ解析 (2022/2/16)

<https://sndj-web.jp/news/001684.php>

■ その他の注目研究・技術情報

人はどのように棒グラフを誤解するか？

リンク DE ダイエット - 2022/2/16 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 2021.2.16, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77227&-lay=lay&-Find.html>

視覚的にシンプルなため、棒グラフはデータを表すための一般的なツールであるが、我々はそれらの読み方を本当に理解しているのだろうか？ 米国ウェルズリー大学の新しい調査によると、棒グラフはしばしば誤解されているという。この調査は、まったく同じグラフを

見た人々が、しばしばそれが表す事実について完全に異なる理解を持って立ち去ることが多いことを示している。-----

冬眠中、なぜ筋肉が衰えない？ 冬眠動物の血清に筋肉細胞量を増やす効果を確認

大学ジャーナルオンライン - 2022/2/10 <https://univ-journal.jp/143589/>

広島大学と北海道大学の共同研究で、冬眠期のツキノワグマ血清をヒト骨格筋培養細胞に添加すると、骨格筋細胞の総タンパク質量が増加することが明らかとなった。-----

脳内での炎症時、ミクログリアが脳神経活動を低下させるメカニズムを解明ー京大

QLifePro 医療ニュース - 2022/2/18

<http://www.qlifepro.com/news/20220218/microglia-2.html>

精神疾患においてミクログリアの異常な活性化による過度な免疫反応

京都大学は2月17日、脳内の免疫細胞であるミクログリアが脳皮質前頭前野の神経活動を制御することを発見し、そのメカニズムを初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大医学研究科博士課程学生の上脇優輝氏、同博士後期の和田弥生研究員、大槻元特定教授、松井茶恵医学部生らの研究グループによるもの。研究成果は、「Current Research in Neurobiology」にオンライン掲載されている。-----

京都大学プレスリリース (2022年2月17日)

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2022-02-17>

脳波から神経活動の加齢効果を推定する解析アルゴリズムを開発

－ 脳波の時間的複雑性と同期性から加齢による神経ネットワーク変質を推定 －

千葉工業大学 - 2022/2/15 https://www.it-chiba.ac.jp/media/pr20220215_3.pdf

学校法人 千葉工業大学 大学院 情報科学研究科 修士課程 2年 安藤 桃、同 情報科学部 情報工学科 (准教授) / 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター (NCNP) 精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 (客員研究員) 信川 創、国立大学法人 金沢大学 医薬保健研究域 医学系/子どものこころの発達研究センター 菊知 充 教授、同大学 子どものこころの発達研究センター (協力研究員) / 国立大学法人 福井大学 学術研究院医学系部門 (客員准教授) / 魚津神経サナトリウム (副院長) 高橋 哲也は、加齢に特異的な脳波の時系列パターンを複数の複雑性指標と機能的結合と呼ばれる神経活動の同期性指標を組み合わせることで、さらに機械学習を講じることで、高い精度で加齢に伴う神経ネットワーク変質を

推定するアルゴリズムを開発しました。この解析アルゴリズムの開発は、脳活動の加齢の効果を捉えるための生物学的指標の確立に寄与できると期待されます。なお、この成果は、スイスに本部を置く科学、工学、医学についての出版社である Frontiers Media SA の査読付き学術雑誌である Frontiers in Aging Neuroscience にて 2 月 4 日に掲載されました。-----

植物の地下での情報のやりとりを発見

ー地下茎で繋がった植物株間でのコミュニケーションー 2022 年 2 月 4 日

名古屋大学

島根大学

新潟大学

理化学研究所 https://www.riken.jp/press/2022/20220204_2/index.html

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学大学院生命農学研究科の榊原均教授らの研究グループは、名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所、島根大学、新潟大学、東京大学、理化学研究所環境資源科学研究センターとの共同研究で、地下茎で繁殖するイネ科植物が、地下茎を介した情報のやりとりにより、不均一な窒素栄養環境に巧みに応答して成長する仕組みを新たに発見しました。----

このことは、複雑な環境下で生き延びる植物の振る舞いの一端を明らかにしたもので、植物バイオマスの生産性向上などへの応用が期待されます。-----

シグナル伝達の「偏り」を生み出すリン酸化機構の解明 ー副作用を切り分けた GPCR 作動薬の開発に貢献ー

2022 年 2 月 10 日

東北大学

理化学研究所

https://www.riken.jp/press/2022/20220210_2/index.html

日本医療研究開発機構

マクニカ、東洋新薬の工場全体の生産状況をリアルタイムに可視化・分析する IoT インフラ基盤を共同開発

IoTNews - 2022/2/4 <https://iotnews.jp/archives/197329>

本日、株式会社マクニカと株式会社東洋新薬は、東洋新薬の健康食品製造工場であるインテリジェンスパーク全体の生産状況をリアルタイムに可視化・分析することができる、IoT インフラ基盤を共同開発したことを発表した。-----

茶葉の品質をスマホで AI 分析、伊藤園が新技術開発

MONOist - 2022/2/15 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2202/15/news102.html>

伊藤園は2022年2月9日、AI（人工知能）の画像解析による荒茶の品質推定技術を開発したと発表した。同年春ごろから同社製品の一部産地で試験運用を開始する。-----

包装ラインでAIと人の感性を融合、「クオリティAIチェッカー」のデモ実機を披露

MONOist - 2022/2/18 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2202/18/news051.html>

日本包装機械工業会の事業組織であるIoT研究会は、包装プロセスの総合展示会「JAPAN PACK 2022」（リアル展、2022年2月15日～18日、東京ビッグサイト）において、「クオリティAIチェッカー」のデモ実機を披露した。-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年3月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

設立記念フォーラム自体は3月9日に開催済みですが、継続的な取組ですのでご紹介いたします。

「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」設立記念フォーラム（オンライン）を開催します

厚生労働省 - 2022/3/4 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24154.html

厚生労働省は、「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書（令和3年6月30日公表）や、東京栄養サミット2021における岸田総理大臣の開会挨拶及び日本政府コミットメントを踏まえ、産学官等連携による推進体制として「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ※」を設立します。

については、以下のとおり、設立記念フォーラムを開催しますので、お知らせします。

※ 本イニシアチブ（正式名称：「健康的で持続可能な食環境づくりのための戦略的イニシアチブ」）は、「食塩の過剰摂取」、「若年女性のやせ」、「経済格差に伴う栄養格差」等の栄養課題や環境課題を重大な社会課題として捉え、産学官等が連携して、誰もが自然に健康になれる食環境づくりを展開するものです。日本はもとより、世界の人々の健康寿命の延伸、活力ある持続可能な社会の実現を目指していきます。

■ 安全性関連情報

より多い化学物質、より少ない言葉：妊娠中の化学混合物が脳の発達に影響する？

リンク DE ダイエット - 2022/2/25（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.2.25, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77325&-lay=lay&-Find.html>

内分泌かく乱物質の複雑な混合物が子供の脳の発達と言語習得に影響を与えるようだ、というイミラノ大学などによる疫学研究を細胞および動物モデルでの実験とリンクさせた国際共同研究報告。-----

「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害微生物のリスト」を更新し、「食品の安全性に関する有害微生物のサーベイランス・モニタリング中期計画（令和4年度～令和8年度）」を策定しました

農林水産省 - 2022/2/25 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/220225.html>

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年3月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2453>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2455>

素材情報データベース（新規） 3月8日11時現在、ありません。

2022年2月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2446>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2447>

素材情報データベース（新規） 2月はありませんでした。

食品安全情報（化学物質） No. 5/ 2022（2022. 03. 02）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202205c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

第4回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/2/21

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/025735.html

■ 行政・法令関連情報（その他）

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部 改正に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/2/25

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495210314&Mode=1>

「大豆ミート食品類の日本農林規格案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/2/24

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003397&Mode=1>

■ 海外公的機関情報

米消費者団体など、包装容器などへのビスフェノール A 使用規制の請願書を FDA に提出（米国）

独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/2/22

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/02/c4faaf0fa7875816.html>

保健省、食品添加物の使用基準の改訂案について意見公募（タイ）

独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/2/22

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/02/517a678ab0a05948.html>

タイ保健省、プラ容器の品質規格の告示案などに対する意見を公募

独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/3/1

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/03/10cc99e418da3660.html>

以下の 6 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報（アクセス日：2022/2/24）の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

- [1. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、様々な食品分類における食品添加物としてのグルコシル化ステビオール配糖体の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)**
- [12. 欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表](#)**

[16. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、「加圧調理により製造された非加熱喫食用加熱調理済みシリアル中のえん麦及び大麦由来のβ-グルカンと摂取後の血糖値上昇の低減に関する健康強調表示の科学的実証」に関するEFSAの「栄養、新食品及び食物アレルギーに関する科学パネル」の科学的意見書に関する意見に対する回答を公表](#)

[20. 米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロヘキサン酸及び関連塩類についての統合リスク情報システム\(IRIS\)毒性評価の意見募集及び外部レビュー用草案を公表](#)

[33. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての乳児用調製乳及びフォローオン調製乳用Schizochytrium sp.\(ATCC 20889 株\)由来オイルの安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[37. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、優先度の高い食品プログラムのガイダンスの題目リストを公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[機能性表示 5 千超 受理迅速化の仕組みを（連載／オピニオン）](#)

健康メディア.com - 2022/3/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15922

2015年4月に機能性表示食品制度がスタートして以降、本紙では機能性関与成分や受理企業などを独自集計している。集計結果については、本紙のほか姉妹紙「健康産業速報」で定期的に記事化しているところである。-----

[矢野経済研究所、国内の健康食品市場の調査、2021年度は8880億3000万円（同2.5%増）を見込む](#)

マイライフニュース - 2022/3/7

<https://www.mylifenews.net/data/2022/03/20218880300025.html>

矢野経済研究所は、国内の健康食品市場を調査し、各セグメント別の動向、参入企業の動向、将来展望を明らかにした。その結果、海外向け健康食品、機能性表示食品を中心に市場が拡大し、2020年度が8659億9000万円（前年度比0.4%増）と推計し、2021年度は8880億3000万円（同2.5%増）の市場規模を見込む。-----

[富士経済、主食におけるウェルネス食品の国内市場調査、2021年は1625億円の2020年比2.5%増を見込む](#)

マイライフニュース - 2022/3/2

<https://www.mylifenews.net/data/2022/03/20211625202025.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、健康に関する消費者ニーズの多様化や新型コロナウイルス感染症流行の影響による健康意識の高まりに伴う、食品メーカーの新たな展開や訴求要素の変化が注目される、主食加工品におけるウエルネス食品の国内市場を調査した。その結果を「主食におけるウエルネス市場の現状と将来展望」にまとめた。トピックスとして、主食におけるウエルネス食品の国内市場の2021年見込（2020年比）は、1625億円（2.5%増）に達する見通しだ。米飯類が好調を維持。パンやシリアルフーズも伸びるとみられる。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

伸長率鈍化も、2年連続で市場回復（特集／青汁）

健康メディア.com - 2022/2/28 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15918

本紙調査によると、2021年通期の青汁製品市場（グリーンスムージー含む）は、前年比約0.5%増の推計1,076億円（小売ベース）となり、2年連続で市場は回復した。前年調査同様、コロナ禍での国民の健康意識の向上が市場回復に寄与したものの、ここ数年好調だった店販チャネルがコロナ禍で苦戦したこともあり、伸長率は前年と比較して鈍化した。-----

有機藻類の日本農林規格制定、待ち構えるハードルは？

健康メディア.com - 2022/3/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15929

農水省は昨年12月、「有機藻類」の日本農林規格を公表した。「使用禁止資材」「水環境」「養殖場」など、藻類の生産に由来する環境負荷をできる限り低減した管理方法が定められる。品質面が向上されることで国内での展開が加速することが予想される。一方で、田畑での栽培と異なり、海洋での生産はコントロールし辛い点や設備面でのコストアップに対する疑問も。サステナブルが世界的潮流となりつつある中、新たな規格制定は藻類市場拡大の契機となるのか。-----

コロナ禍、断食ニーズで再注目 市場は底打ち、490億円に回復（特集／酵素・酵母）

健康メディア.com - 2022/3/3 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15938

昨年の酵素・酵母食品市場は、490億円で前年比を上回った。通販チャネルが堅調に推移したほか、店販チャネルも回復基調にある。長引くコロナ禍で、健康維持・体質改善を目的とした断食（ファスティング）の関心が高まり、関連商材が再注目され、全体の底上げに繋がった。また、“腸活”“免疫維持”を目的とした利用が進むほか、“オートファジーダイ

エット”が話題となる中、若い女性を中心に新たなユーザー獲得もみられる。原料・販売メーカーによるエビデンスのデータ蓄積も進んでおり、市場は回復に向けて動き出している。

アイフレイル、子供の視力低下など深刻化 サプリの需要拡大（特集／アイケア）

健康メディア.com - 2022/3/8 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15941

スマホの普及やVDT 人口の増加で、日本人の視力低下が深刻化。緑内障人口は約 400 万人に達している。民間調査では、中高年の半数以上が目の不調を感じており、中学生の 9 割以上が近視であることが明らかに。健康食品やへの需要も高まっており、ビルベリー、ヘマトコッカス藻、カシス、マリーゴールドなどの活用が広がっている。アイケアを訴求する機能性表示食品は、348 品。昨年は新たに 80 品以上が受理されており、肌、認知機能、血流などのWクレームによる届出が増加傾向にある。-----

【Opinion インタビュー前編】「機能性OYATSU」が今、フレイルに対してできること

ウェルネス総研 online - 2022/2/17 <https://wellnesslab-report.jp/1534/>

心身が弱ることを表す「フレイル」が社会問題になっています。特にコロナ禍においては高齢者だけでなく、運動不足による筋力の低下や、基礎代謝の低下、エネルギー消費の低下、ひいては慢性的な低栄養に至るなど、フレイルのスパイラルがさまざまな世代で引き起こされているといわれます。そんなフレイルに対する食品の機能性成分、中でも「機能性OYATSU」の有効性について、早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門の矢澤一良教授に伺いました。-----

【Opinion インタビュー後編】機能性OYATSU+専門家のアドバイスで、日本人のヘルスリテラシー向上を

ウェルネス総研 online - 2022/2/21 <https://wellnesslab-report.jp/1556/>

食品の機能性を手軽に生活に取り入れられる「機能性OYATSU」は、食のリテラシーを高めるきっかけにもなり得ます。みんなが好きな「おやつ」だからこそ、食品メーカーや食の専門家は様々な方法で生活者にアプローチできると語る、早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門の矢澤一良教授に、前編に続き、その方法について伺いました。-----

「ウェルネストレンド予測 2022」第3回 食品素材・成分業界から見た健康トレンド～新しい生活様式で必要とされる食品の機能性とは

ウェルネス総研 online - 2022/2/22 <https://wellnesslab-report.jp/1567/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所では、健康関連分野の情報をウォッチし続けている有識者に、2022年のウェルネストレンド予測についてインタビューとアンケートを行いました。コロナ禍によってウェルネスの潮流はどのように変化したのか、また、今後どこに向かって生活者の意識は変化していくのか。日頃から幅広い健康関連企業やユーザーと接しているジャーナリストならではの見解を、その背景とともにご紹介していきます。

ご協力いただいたのは西沢 邦浩氏（株式会社サルタ・プレス代表取締役、日経BP総研主席研究員）、大田原 透氏（株式会社クラブビジネスジャパン メディア事業部 編集長、元Tarzan 編集長）、大豆生田 悦雄氏・石川 透氏（株式会社食品化学新聞社 取締役、Food Style21 編集長）、菊池 功氏（朝日新聞 Re ライフ.net 編集長）、奥谷 裕子氏（ウェルネス総研レポート online 編集長、株式会社からだにいいこと代表取締役）です。第3回は大豆生田 悦雄氏・石川 透氏に、食品素材・成分業界から見た健康トレンドを解説してもらいました。-----

「ウェルネストレンド予測 2022」第4回 シニアマーケティングから見た健康トレンド～コロナ禍でシニアのウェルネスはどう変化したか

ウェルネス総研 online - 2022/2/22 <https://wellnesslab-report.jp/1573/>

第4回は菊池 功氏に、シニアマーケティングから見た健康トレンドを解説してもらいました。

シニア層の「コロナフレイル」が深刻化。認知機能にも影響が

朝日新聞のシニア向け紙面「Re ライフ」から飛び出して、ウェブやリアルイベントなどでも情報や体験を提供しようと2016年にスタートしたのが「Re ライフプロジェクト」。菊池様はその編集長をつとめていらっしゃいます。-----

「ウェルネストレンド予測 2022」第5回 エビデンスから見た健康トレンド～幸福な未来のためにウェルネスは今、何をすべきか

ウェルネス総研 online - 2022/2/28 <https://wellnesslab-report.jp/1585/>

最終回の第5回は西沢 邦浩氏に、エビデンスから見た健康トレンドを解説してもらいました。

ウェルネスのテーマは後ろ向きな“治療・予防”からポジティブな“老化抑制”へ

西沢様は2月10日に行われた一般社団法人ウェルネス総合研究所のオンラインセミナー「2022年のウェルネストレンドを紐解く」にも登壇され、市場創造こそがこれからの健康産業の在り方であると述べられました。-----

ストレス社会に進化し続ける「アダプトゲン」の今を知る！

ウェルネス総研 online - 2022/2/28 <https://wellnesslab-report.jp/1594/>

ストレスに対し適応力を高めるハーブや生薬の総称「アダプトゲン」は、ホメオスタシスを最適に維持するとして現代のストレス社会で注目を集めています。その歴史は古く、作用機序は謎に包まれていましたが少しずつ分かってきました。今回は、アダプトゲンの今と注目を集める成分について解説していきます。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

【連載】ベンチャー巡訪記【全記事まとめ】

AnswersNews - 2022/2/22 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/19621/>

製薬業界のプレイヤーとして存在感を高めるベンチャー。注目ベンチャーの経営者を訪ね、創業のきっかけや事業にかける想い、今後の展望などを語ってまいります。-----

「企業の健康経営と従業員への健康支援」についての意識調査

～コロナ禍以前より健康支援の取り組みは6割以上の企業で増加、予算も4割以上の企業で昨年より増加 コロナ禍以降の課題「人材の強化」がトップ 健康支援で従業員のパフォーマンスが向上したと4割が回答 健康支援の内容で従業員のエンゲージメントに差も～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/2/28

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0228_01.html#_ga=2.81252759.1074770165.1646020513-934839978.1646020513

キリンビバレッジ株式会社（社長 吉村透留）は、2022年1月21日（金）～22日（土）の2日間、健康経営に携わる経営層（役員以上）300名、人事等の健康経営に携わる部門担当者300名、健康支援を受ける従業員300名に対して「企業の健康経営と従業員への健康支援」についての意識調査を行いました。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

常盤薬品工業「なめらか本舗」、2022年みんなの！なりたいトレンド肌調査、「なりたい肌」に必要な要素トップ3は"毛穴レス、透明感、潤い"に

マイライフニュース - 2022/2/25 <https://www.mylifenews.net/data/2022/02/20223.html>

ノエビアグループの常盤薬品工業の豆乳スキンケアブランド「なめらか本舗」は、保湿ラインのリニューアルにともない、20歳～39歳の女性830名を対象に、「2022年みんなの！なりたいトレンド肌調査」を実施した。調査では、今みんなが「なりたい」と思う肌のトレンドや肌悩みに加え、マスク生活で肌を隠すようになったり、自撮りをするときに写真アプリのフィルターで加工をしたりすることが増えたことで、実際の肌とのギャップを感じている人が多くいることがわかった。-----

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

オメガ3脂肪酸による健康増進、腸内細菌代謝物 α KetoAが重要な可能性－NIBIOHNほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/2/25

<http://www.qlifepro.com/news/20220225/omega-3-fatty-acids-2.html>

オメガ3脂肪酸は健康増進目的で利用されているが、効果には「個人差」がある

医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）は2月24日、食事で摂取したオメガ3脂肪酸の健康増進作用の新しいメカニズムとして、腸内細菌による代謝が重要な役割を担っていることを明らかにしたと発表した。この研究は、同ワクチン・アジュバント研究センターの國澤純センター長と同・長竹貴広主任研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Mucosal Immunology」にオンライン掲載されている。-----

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 - 2022/2/24

<https://www.nibiohn.go.jp/information/nibio/2022/02/007831.html>

以下の5件は、[リンク DE ダイエット](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/)（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年2月22日～3月8日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

我々は我々が食べたもの、それは腸内細菌を形作るもの（2022/2/22）

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77288&-lay=lay&-Find.html>

酪酸が一部のバクテロイデスを殺傷しないのは、補酵素 A 代謝に影響する遺伝子のわずかな変化によってバクテロイデス菌株間で酪酸に対する感受性が変化するからであるようだ、という米国ボストン小児病院からの研究報告。-----

野菜を食べることは心血管疾患を予防しない？ (2022/3/1)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77337&-lay=lay&-Find.html>

野菜が豊富な食事は、心血管系疾患（CVD）のリスクを下げないかもしれない、という英国オックスフォード大学などからの研究報告。-----

一部の腸内微生物が隣人のゾンビウイルスをどのように目覚めさせるか (2022/3/1)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77336&-lay=lay&-Find.html>

一部の腸内細菌は不気味なスーパーパワーを持っており、他の微生物中に潜む休眠中のウイルスを生き返らせることができるのだという。米国ハワードヒューズ医学研究所の報告。-----

カロリー制限試験が、人間の健康を延ばす上で重要な要素を明らかに (2022/3/2)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77342&-lay=lay&-Find.html>

カロリー制限は、代謝反応と免疫反応を改善し、人間の寿命と健康寿命の両方を延長するのに役立つようだ、という研究報告。エール大学の研究。-----

ビタミン D3 が感染症と戦うために重要である可能性 (2022/3/7)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77380&-lay=lay&-Find.html>

2種類のビタミンDには大きな機能差があるようだ、という英国サリー大学とブライトン大学による共同研究報告。ビタミンD3が人々の免疫システムのバランスを取り、ウイルス感染に対する防御を強化するのに役立つ可能性があるという。-----

以下の6件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年2月19日～3月8日）から選定したものです。

ATP 摂取の急性効果を得るのに必要な最小量は 400mg 筋トレパフォーマンスでの検討（2022/2/19）

<https://sndj-web.jp/news/001687.php>

筋力トレーニングのパフォーマンス向上を目的に、ATP（アデノシン三リン酸）を単回摂取する場合の最小必要量に関する検討結果が報告された。その値は 400mg だという。プラセボ、100mg、200mg という計 4 条件でのクロスオーバー試験として検討された。

緑茶をよく飲む高齢者はフレイルが少ない 女性では前期高齢者でも有意 亀岡スタディの解析結果（2022/2/22）

<https://sndj-web.jp/news/001691.php>

緑茶の摂取頻度が高い高齢者はフレイルリスクが低いという関連が、日本人を対象とする研究から明らかになった。地域住民を対象に行われている疫学研究「亀岡スタディ」からの知見であり、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の南里妃名子氏らによる論文が「Nutrients」に掲載された。-----

クレアチン摂取の影響は朝と夜で異なるのか エリート女性ハンドボール選手で検討（2022/2/23）

<https://sndj-web.jp/news/001688.php>

クレアチンを朝摂取した場合と夜摂取した場合とで、体組成やパフォーマンスへの影響の程度が異なるか否かを検討したデータが報告された。パフォーマンス関連指標については 12 週間の介入でどちらも有意に改善したという。スペインのエリート女性ハンドボール選手対象の研究。-----

パスタの GI 値はどのくらい？ 約 100 製品を 10 のカテゴリーに分類して検討したデータ（2022/2/24）

<https://sndj-web.jp/news/001700.php>

約 100 種類の pasta 製品のグリセミック・インデックス (GI) 値に関するデータが報告された。全体を 10 のカテゴリーに分類して検討した結果、グルテンフリー製品はやや GI が高いものの、総じて低～中程度の GI 値であることがわかったとのことだ。pasta 発祥の国とされるイタリアの研究者の報告だ。-----

アミノ酸「シスチン／テアニン」は運動ストレス軽減だけでなく外科手術後の早期回復にも有用 (2022/3/2)

<https://sndj-web.jp/news/001706.php>

運動トレーニングのストレスの軽減のために利用されている、シスチンとテアニンというアミノ酸の組み合わせは、外科手術後の早期回復を促す目的においても有用性が高いことが近年注目され始めている。また、抗がん剤の副作用抑制目的での使用なども試みられている。それらのエビデンスを総括した、仙台オープン病院の土屋誉氏、味の素株式会社の栗原重一氏によるレビュー論文が、「Nutrients」に掲載された。その要旨を紹介する。-----

チーズを食べた後の筋タンパク合成刺激作用は、濃縮乳タンパクを摂取した場合と同レベル (2022/3/8)

<https://sndj-web.jp/news/001715.php>

濃縮乳タンパク質の摂取による筋タンパク質の合成が亢進するが、チーズを摂取した場合もそれと同レベルの筋タンパク合成刺激作用が認められるとするデータが報告された。血漿アミノ酸濃度は濃縮乳タンパク質摂取後のほうが有意に高値だが、筋タンパク質の合成率には有意差が認められないという。-----

■ その他の注目研究・技術情報

タンパク質の進化から生命誕生の謎に挑む

理化学研究所 - 2022/2/21 https://www.riken.jp/pr/closeup/2022/20220221_1/index.html

どのようにして地球上に生命が誕生したのか——これは生命科学の最も大きな謎の一つです。分子工学の手法を用いて古代のタンパク質を再現する試みを通して、この謎の解明に取り組んでいる田上俊輔チームリーダー (TL) に話を聞きました。

細菌一つを見分ける細菌叢計測法の開発

一木 (個々の細菌) と森 (細菌叢) を同時に見る革新的手法

理化学研究所 - 2022/2/22 https://www.riken.jp/press/2022/20220222_1/index.html

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター細胞システム動態予測研究チームの金堅石研究員、山本れいこテクニカルスタッフ、城口克之チームリーダーらの共同研究グループは、多種・多数の細菌で構成される細菌叢中の個々の細菌を一つ一つ区別して極めて正確に細菌の種類と数を計測する手法を開発し、ビタミンA欠乏によるマウス腸内細菌叢の微少な変化を捉えることに成功しました。-----

スプレーで植物を改変 ー簡便な非遺伝子組換え植物改変法の開発ー

理化学研究所（2022年2月23日）

https://www.riken.jp/press/2022/20220223_1/index.html

京都大学

宇都宮大学

東京大学

科学技術振興機構

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センターバイオ高分子研究チームのチョンパラカン・タゲン特別研究員（研究当時、現京都大学大学院工学研究科特定助教）、小田原真樹研究員、児玉豊客員主管研究員（宇都宮大学バイオサイエンス教育研究センター教授）、沼田圭司チームリーダー（京都大学大学院工学研究科教授）、東京大学大学院新領域創成科学研究科の大谷美沙都准教授らの共同研究チームは、開発した担体と核酸をスプレーで噴霧することで、植物を簡便に改変する手法の開発に成功しました。-----

今、老化制御で「オートファジー」が注目されるワケ

大阪大学・生命機能研究科／医学系研究科教授の吉森保氏に聞く 取材・文／荒川 直樹

Beyond Health - 2022/2/22

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/021500008/>

【研究成果】細胞のタンパク質工場(小胞体)が正常な神経回路を作り上げる仕組み～工場員 Meigo と工場製品 Toll-6 が織り成す神経のパートナー探し～

国立大学法人広島大学 - 2022/2/18 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/69389>

神経回路の形作りに関与する小胞体分子 Meigo の機能を、ショウジョウバエの遺伝学的手法を用いることで明らかにしました。ニューロンの内部構造である小胞体の分子 Meigo が、どのようにしてニューロンの外部構造(突起の長さや方向)を調節し、神経回路を作り出すかは長年の謎でした。今回の研究で Meigo は、ニューロンの表面に存在する Toll-6 受容

体の量を調節することで神経回路作りを制御していることが明らかになりました。さらに、小胞体分子 Gp93 も神経回路作りに関与することを見出しました。

本研究は、広島大学大学院統合生命科学研究科の博士課程後期の亀村興輔さん、千原崇裕教授らの研究グループと、東京大学大学院薬学系研究科の三浦正幸教授、森谷浩幸さん(当時大学院修士課程)との共同研究による成果で、2月5日、アメリカ発生学会誌「Developmental Biology」にオンライン掲載されました。-----

生物界で最速のミオシンの発見とその構造解析に成功 植物の成長促進やナノマシン開発に期待

国立大学法人千葉大学 - 2022/2/21

https://www.chiba-u.ac.jp/others/topics/info/post_1057.html

生物の体内に存在するタンパク質「ミオシン」は、動植物の様々な運動の原動力となっています。千葉大学大学院理学研究院（膜タンパク質研究センター・分子キラリティ研究センター・植物分子科学研究センター兼務）伊藤光二教授、村田武士教授らは早稲田大学、神戸大学、金沢大学の研究グループと共同で、生物界最速のミオシンの遺伝子（シャジクモ ミオシン CbXI-1）を発見しました。さらに、最速のミオシンのクラスであるミオシン XI（シロイヌナズナ ミオシン AtXI-2）の高解像度結晶構造解析に世界で初めて成功しました。得られた AtXI-2 の立体構造情報から最速ミオシン CbXI-1 の 3 次元立体構造モデルを作成したところ、最速ミオシンの秘密はアクチンとの結合領域にあることを明らかにしました。

これにより、作物などの私たちの生活に必要な植物である資源植物の大型化が期待でき、効率よく植物を栽培することが可能になります。

この研究成果は、米国科学雑誌「米国科学アカデミー紀要（PNAS）」に 2022 年 2 月 22 日（日本時間 2 月 21 日）に掲載されました。-----

花王の新たな“道しるべ”となるか、PFN と仮想人体生成モデルを共同開発

MONOist - 2022/3/1 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2203/01/news067.html>

花王と Preferred Networks（以下、PFN）は 2022 年 2 月 28 日、オンラインで会見を開き、健康診断などで得られる身体データから、食事、運動、睡眠などのライフスタイルや性格傾向、嗜好性、ストレス状態など 1600 以上の項目を網羅し、ある項目のデータを入力すると別の項目の推定データを出力できる「仮想人体生成モデル」を開発したと発表した。花王は、PFN の協力を得て、仮想人体生成モデルを API 経由で提供する新規デジタルプラットフォーム事業の開始に向けた準備を進める方針で、最初の協業パートナーとして NTT ドコモとヘルスケア領域で連携していくことを明らかにした。-----

■ その他

【コラム|新規】2022年3月掲載情報一覧

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 - 2022/3/1

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2454>

2022年3月新規掲載のコラムは下記の通りです。

● 専門家に聞きました【第6回】

「食と栄養による予防医学」の実践について考えてみる

矢澤 一良先生

(早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門)

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報 (2022年3月号 No.2)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報 (記事見出し、出典・日付、URL) と (情報元の下承が得られた場合は) 冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

自然に健康になれる持続可能な食環境づくり

厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/syokuji_kijyun_00005.html

「自然に健康になれる持続可能な食環境づくりの推進に向けた検討会」報告書(2021年6月公表)や東京栄養サミット2021における日本政府コミットメントを踏まえ、産学官等連携による推進体制として、「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」を設立します。---

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ 特設サイト

<https://www.nttdata-strategy.com/hsfe/>

参画事業者一覧 <https://www.nttdata-strategy.com/hsfe/members-list/>

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年3月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2453>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2455>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2461>

- 「シャジン、沙参、ツリガネニンジン」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4912.html>

- 「シシウド」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4911.html>

- 「センソウ、仙草、リョウフンソウ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4910.html>

- 「ガルシニアインディカ、コクム」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4909.html>

- 「ヒイラギモチ、クコツ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4908.html>

- 「アサガオ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4907.html>

- 「アケビ、モクツウ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4906.html>

- 「ブラッククミン、クロタネソウ、ニゲラ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4905.html>

- 「食用ホオズキ、プルイノサ」 (220317)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4904.html>

- 「シークワサー、シークワサー、シークワシャー」 (220315)

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4897.html>

2022年2月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2446>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2447>

素材情報データベース (新規) 2月はありませんでした。

食品安全情報 (化学物質) No.06 (2022.03.16)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202206c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など (行政機関情報、その他)

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に 対する要請について (令和3年 10月~12月)

消費者庁 - 2022/3/8

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_220308_01.pdf

消費者庁では、令和3年10月から12月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している228事業者による231商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善を要請するとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を要請しました。

消費者庁では、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じてまいります。-----

第5回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/3/10

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/026634.html

消費者庁では、令和3年10月から12月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している228事業者による231商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善を要請するとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を要請しました。消費者庁では、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じてまいります。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

今回、特に見当たりませんでした。

■ 海外公的機関情報

以下の8件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/3/9~3/22 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

- [2. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての Coffea arabica L.由来の乾燥コーヒー・ハスク\(coffee husk\(cascara\)\)の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- [3. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品由来のパーフルオロ及びポリフルオロアルキル化合物\(PFAS\)を理解し、PFAS へのばく露を低減するための FDA の継続的な取り組みに関する最新情報を公表](#)
- [5. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、プラスチック製食品接触材料に用いる物質「ナノ粒子のコロイド炭酸カルシウム」の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)
- [13. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、プラスチック製食品接触材料に用いる物質「脂肪酸で被膜したナノ粒子のコロイド炭酸カルシウム」の安全性評価に関する科学的意見書を公表](#)

- [21. オーストリア保健・食品安全局\(AGES\)、乳児用補完食、コーヒー等におけるフラン及びアルキル化フラン化合物のモニタリング結果を公表](#)
- [22. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、香料グループ評価 7 改訂 6 に関する科学的意見書を公表](#)
- [29. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、香料グループ評価 63 改訂 4 に関する科学的意見書を公表](#)
- [30. 欧州委員会\(EC\)、欧州連合\(EU\)市場向けの食品成分として三番目の昆虫となるヨーロッパ・イエコオロギ\(Acheta domesticus\)の認可を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

2022 年成長のシナリオはどこに？ウェルネスのメガトレンドとキート トレンドを紐解く

ウェルネス総研レポート Online - 2022/3/8 <https://wellnesslab-report.jp/1614/>

エイジングという言葉聞いて老化や加齢を思い浮かべるのは、もはや時代遅れ。オートファジーや長寿遺伝子などサイエンスに関する解明と、多くの研究結果に基づくアプローチ方法の発見で、人びとのウェルネスに対する関心は大きく変革しています。一般社団法人ウェルネス総合研究所は、「2022 年のウェルネストrendを紐解く」について、2022 年 2 月 10 日（木）にメディア向けオンラインセミナーを開催しました。本総研理事の藤田康人氏と武田猛氏による登壇に加えて、ゲスト講演には健康医療ジャーナリストの西沢邦浩氏をお招きし、ご解説いただきました。その内容をレポートします。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報

（市場予測・動向等）

「免疫対策」「フェムケア」テーマに 市場規模 300 億円にリーチ（特集／高麗人參

健康メディア.com - 2022/3/15

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15969

高麗人参市場が拡大している。コロナ禍の「免疫対策」素材として再評価されたことに加えて、血流改善作用を介した美容・冷え対応など、「フェムケア」領域において高麗人参の機能が評価された格好だ。「フェムケア」分野では、“高麗人参＝滋養強壮・疲労回復”の認知・イメージに依存する事なく、サプライヤー各社がエビデンス蓄積・原料開発に注力してきたことが結実した。『くらしの和漢 高麗人参＋（プラス）サプリメント』（永谷園）、『フローナエクオール』（メタボリック）など、女性をターゲットとした美容商材が市場に数多く流通している。-----

「植物性の健康観」「美味しさ」等 ブランディング戦略が本格化（特集／プラントベース）

健康メディア.com - 2022/3/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15973

植物由来のプラントベース食品が世界的なトレンドとなっている。この潮流はここ数年で日本国内にも波及、「日本人がもつ植物性たんぱくのイメージの良さ」「大豆に馴染みある食文化」「アレルギーをもつ人の代替需要」「食事摂取基準改定によるたんぱく質摂取量の引き上げ」「低脂質・低カロリーなヘルシー感」など、日本の市場特性を考慮したブランディング戦略が本格化している。サプライヤーサイドでは、ヴィーガン対応のみならず、“ゆるベジ層”向けなどの商品開発を強化していく動きが進んでいる。-----

TPC マーケティングリサーチ、「DHA・EPAの摂取実態と商品ニーズ」について調査、DHA・EPA サプリメントユーザーの中心層は60～70代

マイライフニュース - 2022/3/15

<https://www.mylifenews.net/data/2022/03/tpcdhaepadhaepa6070.html>

TPC マーケティングリサーチは、DHA・EPAの摂取実態とニーズを探るべく、週に1回以上の頻度でDHA・EPAのサプリメントを摂取している20～70代の男女624人を対象に調査を実施、その結果を発表した。その結果、DHA・EPAサプリメントユーザーの中心層は60～70代の高年層で、生活習慣病関連の症状に悩む人が多いことがわかった。-----

“整えたい”時代の求める「CBD」とは？

ウェルネス総研レポート Online - 2022/3/18 <https://wellnesslab-report.jp/1623/>

近年、大麻に含まれるカンナビノイド「CBD」の生体内作用が紐解かれ、医薬品としての開発が進むとともに海外の健康産業では“グリーンラッシュ”と呼ばれるブームを起こしています。今回は、大麻が古代から治療に用いられてきた理由と時代が求めるニーズ、国内外の動向について解説していきます。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

AMED、エビデンスに基づく予防・健康づくりの支援事業開始

主要医学会とタッグを組み質の高いヘルスケアサービスの提供を後押し

庄子 育子=Beyond Health 2022.3.18

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00004/031700347/>

■ 消費者意識等の調査・分析

食品購入のポイントは低価格と国産、主食は朝がパン・夜がご飯がトップ 農水省「食生活・ライフスタイル調査」

スポーツ栄養 WEB - 2022/3/18 <https://sndj-web.jp/news/001723.php>

農林水産省の「食生活・ライフスタイル調査」の結果が報告された。消費者が重視することのトップは、「できるだけ安いこと」で、「できるだけ日本産であること」がそれに続いた。1週間の食事調査から把握したカロリーベースの食料自給率は40%であり、前年度の37%を若干上回った。-----

更年期やPMSが女性のキャリアに及ぼす影響を調査、PMSで昇進辞退18%—大塚製薬

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/9

[http://www.qlifepro.com/news/20220309/pms-woman-career.html](http://www qlifepro.com/news/20220309/pms-woman-career.html)

女性特有の健康課題はキャリアにどう影響しているか
大塚製薬株式会社は3月8日「女性の健康推進プロジェクト」として、全国の20歳から59歳の女性を対象に、「働く女性の健康意識調査」を実施し、その結果を発表した。同調査は2021年9月に実施されたもので、2万人を対象としたスクリーニング調査と、年代・雇用状態・自覚症状等に応じたグループごとの本調査が実施された。-----

大塚製薬株式会社プレスリリース (2022/3/8)

https://www.otsuka.co.jp/company/newsreleases/2022/20220308_1.html

■ 食品、食品素材・成分関連情報（科学的知見中心）

日本酒などで使われる麹菌が作る成分にがん細胞を死滅する作用、月桂冠などが確認

マイナビニュース - 2022/3/10

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220310-2290128/>

認知機能と関連する朝食の“質”とは 国立長寿医療研究センターと味の素の共同研究 (HealthDay News 2022.3.15)

Beyond Health - 2022/3/15

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/domestic/00156/>

以下の6件は、リンクDEダイエット(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所)掲載記事(2022年3月9日~22日)から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

カカオは運動関連の消化器系の痛みを軽減しない？(2022/3/10)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77403&lay=lay&Find.html>

カカオの長期的な摂取は、男性アスリートの運動関連の消化器問題を改善するようには見えず、腸内細菌叢に最小限の変化しか引き起こさないようだ、というスペインのエウロペア・デ・マドリード大学からの研究報告。-----

飲むほどに縮む：1杯のビールでも脳に影響？(2022/3/11)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77411&lay=lay&Find.html>

1日の飲酒を1杯から2杯に増やすことは、2年の加齢に相当する脳の変化と関連しており、より多くの飲酒はさらに大きな変化をもたらすようだ、という米国ペンシルバニア大学からの研究報告。-----

高齢者の葉酸低下は認知症と死亡リスクの上昇に関連している？(2022/3/16)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77445&lay=lay&Find.html>

血中葉酸レベルが低い高齢者は、認知症の発症リスクや全死因による死亡リスクが高まる可能性がある、という米国マウントサイナイ医科大学などからの研究報告。-----

腸内細菌のアンバランスと心臓病 (2022/3/17)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77447&-lay=lay&-Find.html>

不健康な生活習慣により腸内細菌叢のバランスが崩れると、腸内細菌により心臓病を誘発する物質が産生されてしまう可能性があるという。デンマーク・コペンハーゲン大学などの研究。-----

たんぱく源の多様性、高血圧のリスク低下か (2022/3/18)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77454&-lay=lay&-Find.html>

多種多様なたんぱく源を採り入れた、バランスのよい食生活は、高血圧の発症リスクを下げる可能性があるという。また、総たんぱく質摂取量が多い場合・少ない場合の両方とも高血圧発症リスクは高まることが明らかに。中国・南部医科大学南方病院の研究。-----

高コレステロール血症と心臓病の「一貫性のない」関連性 (2022/3/18)

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77453&-lay=lay&-Find.html>

LDL-コレステロール (LDL-C) と、心臓発作や脳卒中などの健康状態の悪化との関連は、以前考えられていたほど強くない可能性がある、というアイルランド王立外科医学院 (RCSI) によるメタ分析。-----

以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2022年3月9日~22日) から選定したものです。

スポーツ、軍事、航空宇宙領域における倦怠感への栄養介入の効果 メタ解析からわかったこと (2022/3/10)

<https://sndj-web.jp/news/001717.php>

航空宇宙や軍事、そしてスポーツでは、精神的倦怠感に適切に対処せずに作業や戦闘、競技を続けた場合、結果に重大な影響が及ぶ可能性がある。では、精神的倦怠感を栄養介入で改善できるだろうか？ この疑問をシステマティックレビューとメタ解析により検討した結果が発表された。エナジードリンクには、反応時間を短縮する効果が認められたという。---

運動によるお腹のダメージ「腸管バリア機能低下」をアミノ酸のシスチン/グルタミンが抑制（2022/3/19）

<https://sndj-web.jp/news/001726.php>

激しい長時間の運動後に生じる腸管バリア機能の低下を、アミノ酸のシスチンとグルタミンの摂取により抑制されるとする研究結果が報告された。早稲田大学と味の素株式会社の研究グループの研究によるもので、「European Journal of Nutrition」に論文が掲載されるとともに、早稲田大学のサイトにニュースリリースが掲載された。著者らは、「アスリートが抱える日々の激しい運動の反復により生じるコンディショニング低下に対する抑止策として、活用が期待される」と述べている。-----

■ その他の注目研究・技術情報

睡眠の健康を多角的に測る質問票「RU-SATED」の日本語版を開発ー京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/8

<http://www qlifepro.com/news/20220308/ru-sated-j.html>

英語、ポルトガル語、フランス語版が作成され諸外国で用いられている「RU-SATED」

京都大学は3月7日、米国ピッツバーグ大学で開発された、睡眠の健康を多角的に測定するための睡眠質問票「RU-SATED」の日本語版（RU-SATED-J）を作成、その信頼性と妥当性を検証し、RU-SATED-Jの信頼性と妥当性が確認されたことを発表した。この研究は、同大環境安全保健機構附属健康科学センターの降旗隆二准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Sleep Medicine」に掲載されている。-----

関連リンク（京都大学 - 2022/3/7）

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2022-03-07-0>

活性硫黄分子を高産生する腸内細菌が、酸化ストレス防御能を高めることを発見ー慶大

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/10

<http://www qlifepro.com/news/20220310/oxidative-stress-4.html>

生体の活性硫黄分子の新たな供給源として「腸内細菌」に着目
慶應義塾大学は3月9日、腸内細菌叢が抗酸化物質である活性硫黄分子の生体内の量的維持および上昇に寄与していることを発見したと発表した。この研究は、同大薬学部薬学科の内

山純氏、秋山雅博特任講師、金倫基教授を中心とする研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」の電子版に掲載されている。-----

動かないと筋肉減少のメカニズム解明、細胞内カルシウム濃度低下が関連 - 神戸大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/17

<http://www.qlifepro.com/news/20220317/piezo1-klf15-il-6.html>

筋肉が減ると運動しにくくなり、運動しなくなるとさらに筋肉が減る悪循環

神戸大学は3月16日、動かないと筋肉の量が減少するメカニズムを世界で初めて明らかにしたと発表した。この研究は、同大神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌内科学部門の小川渉教授ら、名古屋大学、静岡県立大学、東京医科歯科大学、長崎県立大学の研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Clinical Investigation」にオンライン掲載されている。-----

骨が長く伸びるための新たな仕組みを発見 - 京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/17 <http://www.qlifepro.com/news/20220317/cnp.html>

骨が伸びるためには軟骨細胞における TRPM7 を介した自発的 Ca²⁺流入が必要

京都大学は3月16日、軟骨細胞内カルシウムイオン (Ca²⁺) 動態を独自の手法で解析することによって、強力な骨伸長促進作用を持つ C 型ナトリウム利尿ペプチド (CNP) が軟骨細胞内の Ca²⁺シグナルを活性化していることを発見したと発表した。この研究は、同大薬学研究科の市村敦彦助教、宮崎侑博士課程学生らの研究グループが、同医学研究科、同メディカルイノベーションセンター、同工学研究科および岐阜大学医学部との共同研究として行ったもの。研究成果は、「eLife」にオンライン掲載されている。-----

細胞内のミトコンドリア機能異常と加齢に伴う 認知機能障害の関連性を発見

芝浦工業大学 - 2022/3/10 <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002156.html>

芝浦工業大学(東京都港区)学長 山田純)システム理工学部生命科学科・福井浩二教授ら研究チームは、アルツハイマー病の遺伝子改変マウスを用いて、細胞内にあるミトコンドリアの酸化による損傷と認知機能障害の間に決定的な関連性があることを発見しました。-----

「幸福感の表れた顔」を評価する新規技術開発

年齢に関係なく、幸福そうに見える顔の要素は、頬と口周りの見た目の肌状態

株式会社ポーラ - 2022/3/16

<https://www.pola.co.jp/company/news/po20220315/un1llu000000fwi0-att/po20220315.pdf>

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：及川美紀）は、顔画像データから得られる空間周波数の強度と幸福感の表れた顔の評価値との相関解析に基づいて、顔画像データから「幸福感の表れた顔」の度合いを高精度に評価する新規技術を開発し、年齢に関係なく、幸福そうに見える顔の3要素は、頬と口周りの見た目の肌状態であることを明らかにしました。本研究成果は、化粧品、健康食品等の幸福感評価や幸せの研究に活用される予定です。-----

常識を覆す糖の再排出メカニズムの発見 ー代謝スパイスへの応用ー

2022年3月9日

神戸大学

理化学研究所 https://www.riken.jp/press/2022/20220309_1/index.html

東北大学

神戸大学大学院工学研究科の田中勉准教授、理化学研究所環境資源科学研究センターの藤原良介特別研究員、野田修平研究員ら、東北大学大学院工学研究科の梅津光央教授らの研究グループは、大腸菌が一度取り込んだグルコースを、グルコース6リン酸にして菌体外に再放出するという新たなメカニズムを発見しました。

植物の細胞分裂期の代謝物質を解明

ー 1 細胞解析で高精度に捉えられた細胞の中身 ー

理化学研究所 - 2022/3/18 https://www.riken.jp/press/2022/20220318_1/index.html

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター合成ゲノミクス研究グループの大窪（栗原）恵美子研究員、松井南グループディレクター、生命システム研究センター細胞質量分析研究チーム（研究当時）のアフメド・アリ研修生（研究当時、現生命機能科学研究センター無細胞タンパク質合成研究チーム客員研究員）、川井隆之研究員（研究当時、現生命機能科学研究センター無細胞タンパク質合成研究チーム客員研究員）らの研究チームは、植物細胞の有糸分裂[1]期のサブフェーズ（前期・中期・後期・終期）における細胞内代謝物質の変動を1細胞レベルで明らかにしました。-----

老化細胞（ゾンビ細胞）の除去、ワクチンで成功

順天堂大学大学院教授の南野徹氏に聞く

取材・文／福島安紀＝医療ライター

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/3/9

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/030300009/?P=1>

デンソーテン、脳波や心拍波形に基づいた独自の感情推定モデルを構築

IoTNEWS - 2022/3/11 <https://iotnews.jp/archives/199095>

株式会社デンソーテンは、心理学（心の働き）ではなく、脳や心臓の働きと感情との関係による医学的アプローチ（身体の働き）に基づいた独自の感情モデルを構築し、新たな感情推定技術を開発した。-----

走化性を持つバクテリアを用いた新たな化学情報識別技術を開発 ～大腸菌の化学物質センシング能力と機械学習を活用～

大学プレスセンター - 2022/3/15 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47774.html>

法政大学生命科学部 川岸郁朗教授、曾和義幸教授は、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT（エヌアイシーティー）、理事長：徳田英幸）未来 ICT 研究所バイオ ICT 研究室の田中裕人主任研究員、小嶋寛明室長らの研究グループ、東京大学 岡田真人教授らと共同し、走化性を持つバクテリアを用いた化学情報識別技術を開発しました。

【ポイント】

- 走化性を持つバクテリアを用いた新たな化学情報識別技術を開発
- 大腸菌の化学物質センシング能力と機械学習とを組み合わせる走化性応答を解析
- 様々な化学物質を識別するケミカルバイオセンサーの開発に期待

成人の睡眠パターンは 16 種類、約 10 万人の睡眠データから東大が分類

マイナビニュース - 2022/3/17

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220317-2295202/>

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報（2022 年 4 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

ブラックコホシユ関連情報

スペイン食品安全栄養庁(AESAN)、「Cimicifuga racemosa の根/根茎を原材料に含む食品サプリメントの消費に関連するリスクについての報告書」を公表

食品安全委員会 食品安全関係情報（2022/3/23）より

<https://www.fsc.go.jp/fsciis/foodSafetyMaterial/show/syu05790660307>

「令和4年度食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画」を策定しました

農林水産省 - 2022/3/31 <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/220331.html>

農林水産省は、食品の安全性に関するリスク管理に不可欠なデータを得るため、農畜水産物、加工食品、飼料中の有害化学物質や有害微生物の実態調査等を実施しています。この度、「令和4年度食品の安全性に関する有害化学物質及び有害微生物のサーベイランス・モニタリング年次計画」を策定しました。-----

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年4月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2464>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2467>

素材情報データベース（新規） 4月7日10時半時点ではありませんでした。

2022年3月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2453>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2455>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2461>

食品安全情報（化学物質） No.07 (2022.03.30)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202207c.pdf>

（別添） <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202207ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

第6回アフィリエイト広告等に関する検討会の議事録を公表しました。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_03/026907.html

2022年1月28日開催分です。

認知機能に係る機能性を標ぼうする機能性表示食品の表示に関する改善
指導及び一般消費者等への注意喚起について

消費者庁 - 2022/3/31 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/028137/>

消費者庁は、インターネット広告において認知機能に係る機能性を標ぼうする機能性表示食品に対し、届出後の事後チェックとして、景品表示法(優良誤認表示)及び健康増進法(食品の虚偽・誇大表示)の観点から表示の適正化について改善指導を行うとともに、SNSを通じて一般消費者等への注意喚起を行いました。-----

株式会社 W-ENDLESS に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2022/4/5 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/028234/>

消費者庁は、本日、株式会社 W-ENDLESS に対し、同社が供給する「Dr.味噌汁」と称する食品に係る表示について、景品表示法に違反する行為(同法第 5 条第 1 号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

健康食品の不適正な表示・広告にご注意!~令和 3 年度健康食品試買調査結果~

東京暮らし WEB (東京都) - 2022/3/29

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/torihiki/hyoji/keihyo/220329kenkosyokuhin.html>

■ 行政・法令関連情報 (その他)

「食薬区分における成分本質 (原材料) の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/3/23

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495210477&Mode=0>

第 99 回コーデックス連絡協議会 (開催案内)

厚生労働省 - 2022/4/5 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24437.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和 4 年 4 月 26 日 (火曜日) に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第 99 回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回はウェブ上での傍聴を受け付けます。-----

「みその日本農林規格案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/3/31

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003416&Mode=1>

食品表示基準等の一部改正案に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/3/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080061&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080061&Mode=1)

食品添加物の不使用表示に関するガイドライン案に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/3/30

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080063&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235080063&Mode=1)

魚の鮮度の試験方法に関する JAS を制定！

農林水産省 - 2022/3/31 <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/ninsyo/220331.html>

～分析によって魚の鮮度を数値で「見える化」し、日本産水産物の輸出促進が期待されます～

魚類の科学的な鮮度評価指標である「K 値」の試験方法について、JAS が新たに制定されましたのでお知らせします。日本産の生鮮水産物の鮮度を科学的に評価することで、輸出促進を図る効果が期待されます。-----

「令和 3 年度特別用途食品(特定保健用食品を除く。)に係る栄養成分、特定保健用食品に係る関与成分及び機能性表示食品に係る機能性関与成分に関する検証事業(買上調査)」の調査結果について

消費者庁 - 2022/3/25

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/assets/foods_with_function_claims_220325_0001.pdf

■ 海外公的機関情報

2023 年 1 月の食品表示法改正に向け、消費期限の定義新設（韓国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/4/5

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/04/f2cf14e0cd64863b.html>

以下の 11 件は、[食品安全委員会 食品安全総合情報システム](#)

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/3/23、4/6 確認) の中から、気になったものを選定しました。[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

2022/3/23

- 3. [アイルランド食品安全庁\(FSAI\) 、ライスミルクを乳幼児に与えないよう注意喚起](#)
- 8. [スペイン食品安全栄養庁\(AESAN\)、 「Cimicifuga racemosa の根/根茎を原材料に含む食品サプリメントの消費に関連するリスクについての報告書」 を公表](#)
- 16. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品の高圧処理\(HPP: High-Pressure Processing\) の有効性及び安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- 29. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)及び世界保健機関\(WHO\)、微生物学的リスク評価シリーズ 27 「香辛料及び乾燥ハーブに含まれる微生物学的ハザード」 を公表](#)
- 41. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表](#)
- 50. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食事性糖類の耐容上限摂取量に関する科学的意見書を公表](#)

2022/4/6

- 8. [スペイン食品安全栄養庁\(AESAN\)、エナジードリンク摂取に関する勧告及び対策を公表](#)
- 19. [台湾衛生福利部、 「食品原料アロエの使用制限と表示規則」 の制定について公表](#)
- 20. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、内分泌かく乱物質に関する FAQ を公表](#)
- 38. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表](#)
- 39. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、特定の食品安全強化法\(FSMA\)規則の執行裁量方針に関するガイダンスを公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[富士経済、調味料・調味食品の市場調査、2021年のレトルトカレー市場は2020年比2.8%増の932億円の見込み](#)

マイライフニュース - 2022/3/29

<https://www.mylifenews.net/data/2022/03/2021202028932.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、家庭での調理機会の増加と調理疲れなどから再び簡便性の高い商品の需要が高まっている調味料、調味食品の国内市場を調査した。その結果を「2022年 食品マーケティング便覧 No.5」にまとめた。「2022年 食品マーケティング便覧」では、27 カテゴリー408品目の加工食品市場を6回に分けて調査・分析する。その結果、レトルトカレー市場の2021年見込では932億円（2020年比：2.8%増）に達し、2026年は1045億円（2020年比：15.2%増）を予測する。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

市場規模 300 億円まで回復（特集／ローヤルゼリー）

健康メディア.com - 2022/3/29 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/15998

健康食品の黎明期から定番素材に数えられるローヤルゼリー。高い知名度を誇り、多くの健康食品、サプリメントに利用されている。また、エネルギッシュなイメージの高さから、栄養炭酸やエナジー飲料に採用されるケースも多い。ここ数年は、市場縮小が続いていたが、コロナ禍での疲労回復・巣ごもりニーズを捉え、21年の市場規模は、約300億円（前年比7%増）まで回復。作用している成分の特定が難しいという素材特性上、機能性表示食品は1品に留まるが、関連メーカーにより脳機能改善、免疫賦活、肌保湿、コレステロール低下、筋肉疲労回復など様々なエビデンスの蓄積が進んでいる。-----

妊活保険適用で、サプリ追い風（特集／妊活サポート）

健康メディア.com - 2022/4/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16019

近年、妊活は医療機関への通院のみならず、栄養管理や運動、サプリメントの利用等幅広い方法が取り入れられている。妊娠しやすい健康な体作りに向けて活用されるサプリでは、葉酸、鉄など定番素材に加えて大豆イソフラボン、マカ、オリーブ葉抽出物、サポニンなど、多様な素材の利用が進む。さらに、エビデンスを構築した製品は医療機関向けサプリとして採用が進み、医薬品と併せて利用される例も増えている。4月より人工授精等「高度不妊治療」が保険適用となるが、クリニックへ通う人の費用負担が軽減され、妊活全体への関心が一層高まることから、サプリ利用者の増加や妊活市場の活性化が期待される。-----

果実酢が若者のニーズ掴む（特集／健康酢）

健康メディア.com - 2022/4/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16035

健康酢市場が様々な施策により健闘している。本紙編集部は、全国の食酢メーカー、サプリメントメーカー及び原料サプライヤー約50社に取材およびアンケート調査を実施。市場

を牽引する黒酢は、体感の高さやリピーター層に支えられ、安定市場を維持。また、機能性研究を通じて、「内臓脂肪の減少作用」「抗疲労作用」「血圧低下作用」などの健康機能が幅広い層に浸透している様子がうかがえた。

KIRIN マーケターが注目「ウェルネストレンド白書」の活用法

ウェルネス総研レポート online - 2022/3/31 <https://wellnesslab-report.jp/1649/>

ウェルネスに関する生活者の意識と行動分析によって得られた7つの健康セグメントからヘルス・トレンドシナリオを洞察する「ウェルネストレンド白書」について、マーケティングのプロが考える見所と活用法、今後のマーケティングにおける展望や課題をご紹介します。

マーケティングリサーチや商品開発、コミュニケーションプランなどに従事する人にとって「ウェルネストレンド白書」の意義や価値は、どのように受け止められているのでしょうか？今回は、キリンホールディングス株式会社でおよそ40年に渡りマーケティング全般と事業戦略策定に従事されている太田 恵理子氏へ、人生100年時代でウェルビーイングの波がもたらすマーケットへの影響や、リサーチ、アプローチの変化、ウェルネストレンド白書の見所と活用法、今後のウェルネス関連におけるマーケティングの展望や課題について伺いました。

ウェルビーイング時代のヘルスケアフーズで要となるのは「細胞」と「タンパク質」

ウェルネス総研レポート online - 2022/3/31 <https://wellnesslab-report.jp/1633/>

「ウェルビーイング時代のヘルスケアフーズを考える」セミナーレポート

ウェルビーイングを叶える具体的な手段として何を思い浮かべますか？オートファジーやサーチュイン遺伝子といった細胞再活性のメカニズムが解明されてきた現代では、毎日摂る“食”についても人々の関心や市場の動向が大きく変革しています。一般社団法人ウェルネス総合研究所は、「ウェルビーイング時代のヘルスケアフーズを考える」について、2022年3月4日（金）にメディア向けオンラインセミナーを開催しました。本総研理事の藤田康人氏による登壇に加えて、ゲスト講演には株式会社ダイセルの卯川裕一氏と、森永乳業株式会社の内門将彦氏をお招きし、ご解説いただきました。その内容をレポートします。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

明治、カカオの殻を活用し健康食品や容器を開発

株式会社オルタナ/オルタナオンライン（無断転載を禁じます） - 2022/3/28

<https://www.alterna.co.jp/47456/>

明治は3月28日、カカオ豆だけではなく、果肉や殻を使った健康食品や皮を原料にした容器の開発など、「ホールカカオ」の活用を進める方針を発表した。同社は、カカオ農家支援の一環で、2026年度までに農家支援を実施した地域で生産した「サステナブルカカオ豆」の調達100%を目指す。（オルタナ副編集長＝吉田広子）-----

これが世界の老化制御ベンチャー事情　グーグルが設立した「キャリアコ」の他にも続々

早野 元詞＝慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 特任講師、他 2022.3.24

Beyond Health（日経BP総合研究所） - 2022/3/24

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/032300010/>

NECとウイングアーク1st、製造業の現場改善に向けてデータ利活用の事業連携を強化

IoTNews - 2022/3/22 <https://iotnews.jp/archives/199492>

近年、DXの加速や増加する自然災害への対応、脱炭素への対応など、製造業を取り巻く環境もますます複雑化している。こうした中、リアルタイムに状況を把握し最適な状態へ継続的に変化するため、保有するデータを活用した変動対応力の向上や変革力の強化が求められている。-----

FRONTEO、創薬のプロセスイノベーションとなる新規AIシステム「liGALILEO」によるAI創薬ビジネスを開始

IoTNews - 2022/3/23 <https://iotnews.jp/archives/199568>

蓄積されたコア技術を活かすために必要なDXや人材・組織づくり ―住友化学 猪野氏・金子氏インタビュー

IoTNews - 2022/3/24 <https://iotnews.jp/archives/199409>

凸版印刷、デベロッパーなどへ向けた生活の動線上で健康情報を収集・蓄積・管理を行う「cheercle」を発表

IoTNews - 2022/3/24 <https://iotnews.jp/archives/199598>

凸版印刷株式会社は本日、生活の動線上で健康情報を収集・蓄積し、個人の健康状態の確認や、様々なヘルスケアサービスに連携することができる「cheercle（チアクル）」を開発し、2022年3月24日よりハウスメーカーやデベロッパー向けに本格的に販売を開始することを発表した。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

第一三共ヘルスケア、働く人の健康とセルフケアの実態調査 2022、出社と在宅のハイブリッドワーカーは睡眠トラブルが増加傾向に

マイライフニュース - 2022/4/4 <https://www.mylifenews.net/data/2022/04/2022.html>

第一三共ヘルスケアは、自分自身で健康を守り対処する「セルフケア」という考え方が、人生100年時代の日本に重要なテーマになることを見据え、昨年3月の調査に続き3回目となる働く人の「健康とセルフケアの実態調査」を行った。その結果、出社と在宅のハイブリッドワーカーは要注意で、睡眠トラブルが増加傾向にあることがわかった。また、生活リズムが乱れやすく、社会的時差ボケという新たな課題が明らかになるなど、セルフケアと「睡眠」の関係性が見えてきた。-----

SDGsに「関心ある」6割超 「食品ロス」など身近な問題に集中

IT Media - 2022/3/31 <https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2203/31/news146.html>

食品大手の明治は、全国の16歳以上の男女を対象に「サステナブルな社会実現に向けた社会課題」に関する意識調査を実施した。この結果、「食の安全・安心」や「食品ロス削減」など身近な社会課題に7割を超える関心が集まった。SDGs（持続可能な開発目標）への社会的関心が高まっている傾向が明らかになった。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

朝食を食べないと体重が増え、筋肉量も低下する 名古屋大学が解明

大学ジャーナルオンライン - 2022/3/29 <https://univ-journal.jp/149755/>

名古屋大学大学院の小田裕昭准教授らの研究グループは、朝食欠食が、体重を増加させてメタボリックシンドロームの可能性を大きくするだけでなく、筋肉を萎縮させてロコモティブシンドローム（運動器障害による移動機能の低下）やサルコペニア（加齢性筋肉減弱症）の危険性も増大させることを発見した。-----

「絶食時」と「老化時」に同様のメカニズムで肝脂肪症が進む 大阪大学が発見

大学ジャーナルオンライン - 2022/3/25 <https://univ-journal.jp/149577/>

大阪大学のグループは、絶食により脂肪組織のオートファジー（細胞内の不要な構造物の分解機構）が活性化することで、肝臓での脂肪蓄積とケトン体産生が誘導されることを明らかにした。同グループによる以前の研究で、老化した脂肪組織でもオートファジーが過剰となり脂肪肝を引き起こすことが判明していることから、今回、絶食と老化で共通するしくみが明らかになったといえる。-----

大阪大学プレスリリース

<https://www.med.osaka-u.ac.jp/activities/results/2022year/yoshimori2022-3-17>

スーパーセンテナリアン調査で見えてきた「超健康長寿」の機序

慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター・新井康通教授に聞く

取材・文／福島 安紀＝医療ライター 2022.4.6

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/4/6

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/040100011/?P=1>

DHA や EPA の摂取が老化予防因子を増加させる、浜松医科大などがマウスで確認

マイナビニュース - 2022/3/23

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220323-2300358/>

細胞が若返るオートファジー機能 活性化で老いを抑制

Nikkei Style - 2022/3/28

https://style.nikkei.com/article/DGXZQOLM222780S2A320C2000000?n_cid=LMNST020

プロポリスエキス等配合サプリメント摂取で脳年齢が平均 4.27 歳若返るという結果に 脳活総研がモニター調査を実施

株式会社脳活性総合研究所 - 2022/3/28

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000049268.html>

株式会社脳活性総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役：太田 芳徳、以下「脳活総研」）は提供する「脳活性度定期検査（略称「脳検」）」を用いて、プロポリスエキス

等配合サプリメントを 30 日間摂取したことによる「脳検スコアの変化」を検証するモニター調査を実施いたしました。-----

細胞が無駄なエネルギーを消費しないための遺伝子スイッチ停止機構の解明ーブドウ糖飢餓時におけるリボソーム遺伝子の発現抑制機構

東京大学 - 2022/3/28 https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/z0109_00037.html

順天堂大学、花粉症患者 1 万 1284 名の医療ビッグデータを検証

大学ジャーナルオンライン - 2022/3/27 <https://univ-journal.jp/149155/>

順天堂大学大学院医学研究科眼科学の猪俣武範准教授らの研究グループは、iPhone アプリ「アレルサーチ®」によるクラウド型大規模臨床研究を実施した結果、スマホアプリから収集した個々人の花粉症患者の特徴、花粉症のある人の特徴や花粉症症状の強さと関連する特徴を明らかにした。-----

微小な脳領域「前障」の抑制が、マウスの不安やうつ様行動を改善ー阪大

QLifePro 医療ニュース - 2022/3/28

<http://www.qlifepro.com/news/20220328/claustрум.html>

どの神経細胞の活動がストレス応答に重要なのか？

大阪大学は 3 月 19 日、精神的なストレスを受けた直後のマウスの脳全体の神経細胞の活性化を機械学習によって判別分析し、「前障」という微小な脳領域の活性化が最も特徴的であることを見出したと発表した。この研究は、同大学院薬学研究科の大学院生の丹生光咲氏、笠井淳司准教授、橋本均教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science Advances」にオンライン掲載されている。-----

大阪大学プレスリリース (2022/3/19)

https://resou.osaka-u.ac.jp/ja/research/2022/20220319_1

AI が食品の健康度を判定する「FoodScore(フードスコア)」Android 版リリース

株式会社シグナルトーク - 2022/3/23 <https://www.signaltalk.com/press/20220323.php>

株式会社シグナルトーク(代表取締役：栢 孝文、所在地：東京都大田区、<https://www.signaltalk.com/>)は、2021 年に iOS 版でリリースした世界初の食品健康度判定

サービス「FoodScore(フードスコア)」(<https://food-score.tech/lp>)の Android 版を本日から開始します。これまで健康度判定や商品投稿は iOS 版のみのサービスでしたが、Android 版でも利用可能になりました(利用は無料)。-----

以下の4件は、リンク DE ダイエット (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 掲載記事 (2022年3月23日~4月7日) から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

カカオフラバノールサプリが心血管リスクを軽減する可能性

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77532&-lay=lay&-Find.html> (2022/3/31)

大規模なランダム化試験で、心血管系死亡の27%の減少を含む、カカオフラバノールの予防的心血管系効果の兆候がみられたが、主要な結果である総心血管系イベント低下は10%で、統計的に有意ではなかった、という米国ブリガムアンドウィメンズ病院からの報告。-----

軽度の飲酒が心臓に良いという理論に異議

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77533&-lay=lay&-Find.html> (2022/3/31)

軽度の飲酒が心血管系の健康利益をもたらすことはないかもしれない、という米国ハーバード大学などからの研究報告。-----

緑の地中海型食は腸内細菌叢を介して体重と心臓リスクを減らす

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77542&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/1)

緑色地中海型 (G-MED) 食は、ヒトの腸内細菌叢に強く影響する。大規模臨床介入試験 DIRECT-PLUS において、G-MED 食は、ヒトの体重と血糖値制御に有意な好ましい変化をもたらすことが知られている細菌を豊富にした。この G-MED 食による健康増進効果は、腸内細菌叢の変化を介したものであることが明らかになったという。イスラエル・ネゲブベングリオン大学などからの報告。-----

果物や野菜ではなく、穀物の繊維がより低い炎症と関連している？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77570&lay=lay&-Find.html> (2022/4/7)

果物・野菜ではなく、穀物の食物繊維が、より低い炎症、より低い心血管系事象と関連しているようだ、という米国コロンビア大学からの研究報告。-----

以下の3件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年3月23日～4月7日）から選定したものです。

n-3PUFA 強化鶏卵は、通常鶏卵よりもアスリートの血管内皮機能を改善する可能性

<https://sndj-web.jp/news/001729.php> (2022/3/23)

アスリートを対象に、n-3系多価不飽和脂肪酸（n-3PUFA）の含有量が多いn-3PUFA強化鶏卵を摂取することのメリットを検討した研究結果が報告された。通常の鶏卵を摂取するよりも、血管内皮機能が改善され、酸化ストレスが軽減される可能性があるという。-----

唾液で免疫能や代謝の変化がわかる？ 唾液分析をパフォーマンス向上につなげる包括的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/001733.php> (2022/3/28)

非侵襲的に検体を採取できる唾液を用いて、運動の心身への影響を評価する試みが進んでいる。その現状をまとめた、唾液組成に対する運動の影響に関するレビュー論文がギリシャから報告された。エネルギー代謝にかかわる乳酸や抗菌性タンパク質、免疫能にかかわるIgAなど10項目以上について、既報論文からの考察が述べられている。要旨をピックアップして紹介する。-----

追記：「低カロリー」の情報があると、ダイエットが必要な状況の人々では、安心してむしろ摂取量が増えてしまい（同じ量を食べても満足感が低いようです）、フレイル予備軍のような高齢者では摂取を促す（望ましい方向）可能性があるとのこと。

「低カロリー」が強調されている食事は過食しやすいので注意！ ただし、フレイル対策には有効かもしれない

<https://sndj-web.jp/news/001737.php> (2022/4/1)

低カロリーのメニューでも、量を多く摂れば高カロリーになる。当たり前のことなのだが、頭で理解することと実際の行動がイコールで結ばれないこともまた、誰もが知っている事実である。料理のメニューの横に「低カロリー」と表示しておく、人々は食べ過ぎてし

まいやすいことを示すデータが報告された。論文の著者らは、減量中の人に購入されることを想定している製品に、安易に「低カロリー」などの言葉を添えることには注意が必要だと述べている。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

東大と日清、「食べられる培養肉」の作成に成功 国内初

財経新聞 - 2022/4/3 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220403/666666.html>

東京大学とJST（科学技術振興機構）、日清食品ホールディングスによる共同研究グループは、2017年度から共同で実用化に向けた研究を進めてきた「培養ステーキ肉」のための、「食べられる培養肉」を日本で初めて作成することに成功したと発表した。----

3D プリントで培養肉を生産、島津製作所など 3 者連携

株式会社オルタナ/オルタナオンライン（無断転載を禁じます） - 2022/3/28

<https://www.alterna.co.jp/47436/>

島津製作所、シグマクシス、大阪大学大学院は3月28日、3D バイオプリント技術による培養肉の自動生産装置を、3者共同で開発していくと発表した。牛肉の筋・脂肪・血管の繊維組織を立体的に再現する技術により、本物の肉に劣らない培養肉の生産を目指す。2025年を目処に自動生産技術を実用化し、将来は医療や創薬への展開も視野に入れる。（オルタナ副編集長・長濱慎）-----

さまざまな香りを再現できる嗅覚ディスプレイ、東工大が開発

マイナビニュース - 2022/4/6 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220406-2314102/>

味をデジタル化する「電気味覚」の可能性（前編） 「味を SNS へ投稿する」を実現するための研究

IT Media - 2022/3/31 <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2203/31/news065.html>

音や空間をデジタル化し音楽や映像が生まれたように、味をデジタル化できればどうなるだろうか。「味を記録し、味を編集し、味を SNS へ投稿する」、このような画像や動画で現在行っている一連のタスクが行え、また味見する側も、スマートフォンやタブレット、VR 機器で画像や動画内の食品、もしくはバーチャル食品を味わえるかもしれない。

このような突拍子もない体験が世界中の研究室では探究され、その成果が論文で多数報告されている。これら研究の基盤となっているのが、味のデジタル化において重要な要素であ

る「電気味覚」という現象だ。今回は、そんな電気味覚をこれまでの多様な研究成果と交えながら掘り下げていきたい。-----

KDDI など、御茶ノ水で日本酒の嗜好性に関する一般参加型実証実験を実施

マイナビニュース - 2022/3/25

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220325-2304061/>

AIが“やみつきになる味”を発見！「おにぎりせんべい AI せんべい」がローソンで先行発売

TECHABLE - 2022/3/23 <https://techable.jp/archives/175650>

ロングセラー商品「おにぎりせんべい」を販売する株式会社マスヤ（以下、マスヤ）は、データアーティスト株式会社（以下、データアーティスト）のAIを活用した新商品「おにぎりせんべい AI せんべい」を開発。3月22日（火）より全国のローソン（一部店舗および沖縄を除く）にて先行発売します。-----

ポテトサラダを自動で盛る！ 粘着性の高い惣菜を盛り付けるロボットの实用化へ向けた実験成功

TECHABLE - 2022/3/23 <https://techable.jp/archives/175697>

TechMagic 株式会社（以下、TechMagic 社）は、ポテトサラダのような、やわらかく粘着性の高い惣菜を、高い重量精度で連続的に容器に盛り付けることができるロボットを実現しました。

これにより、従来では手作業でおこなっていた惣菜の盛り付け工程が自動化できるといいます。-----

■ その他の科学・技術情報

動機付けを司る脳領域の活性化が運動のパフォーマンスを高める、医学研が確認

マイナビニュース - 2022/3/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220328-2306093/>

種子の油を合成する新しい代謝経路を発見

ーバイオ燃料を創成する代謝改変技術への応用に期待ー

理化学研究所 - 2022/4/4 https://www.riken.jp/press/2022/20220404_1/index.html

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター植物脂質研究チームの中村友輝チームリーダーらの国際共同研究チームは、種子の油の主成分であるトリアシルグリセロール（TAG）を合成する新しい代謝経路を発見しました。

本研究成果は、バイオディーゼル[2]などの原料を植物内で大量生産するための代謝エンジニアリング[3]に貢献すると期待できます。-----

神戸大学など3者、人工知能による酵素を発見

ICT教育ニュース - 2022/3/28 <https://ict-enews.net/2022/03/28kobe-u/>

【京都産業大学】クライオ電子顕微鏡を使いV/A-ATPaseが回転する仕組みを解明--英国科学雑誌「Nature Communications」（オンライン版）に掲載

大学プレスセンター - 2022/3/26 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47859.html>

京都産業大学生命科学部 横山謙教授らの研究グループは、クライオ電子顕微鏡を用いて回転分子モータータンパク質である V/A-ATPase が回転する様子をクライオスナップショットとして捉え、複数の中間体構造をつなげることで回転分子モータータンパク質が回転する仕組みを解明した。この研究で用いられたクライオ電子顕微鏡によるスナップショット撮影は、他のタンパク質の仕組みの解明や創薬にも応用できることから、新しいタンパク質研究の領域を開拓するだけでなく、新たな感染症に対処する強力な手法としても期待される。-----

副作用の少ないバイオ医薬品の血中安定性の向上技術に進展 -- 汎用性とコストに優れた大腸菌による製造手法を確立 -- 東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2022/3/30 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47911.html>

東京工科大学（東京都八王子市、学長：大山恭弘）応用生物学部の佐藤淳教授らの研究グループは、副作用リスクの少ないバイオ医薬品の血中安定性の向上手法として期待される、IgG Fc 融合タンパク質の技術について、より汎用性やコストに優れた大腸菌による製造手法を確立しました。

本研究成果は、日本薬学会の学会誌「Biological and Pharmaceutical Bulletin」3月号に掲載されました。-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年4月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

他の報道によると今回 100 社以上の企業が参加するようです。14日にインターネットで検索したところ、日本を代表する大手食品・飲料関連企業数社がプレスリリースを出していました。

生物多様性のための 30by30 アライアンス設立についてーネイチャーポジティブ取組み推進に向けてー

独立行政法人国際協力機構 - 2022/4/14

https://www.jica.go.jp/activities/issues/natural_env/biodiversity/20220411.html

SDGs な食事の実現には、全粒穀類の摂取を増やし、清涼・アルコール飲料と肉類の削減が必要

スポーツ栄養 WEB - 2022/4/17 <https://sndj-web.jp/news/001769.php>

日本人集団において、より持続可能性が高い食事を実現するための方向性が示された。清涼・アルコール飲料、牛肉・豚肉・加工肉、調味料類、砂糖・菓子類の摂取量は削減し、その一方で、全粒穀類、乳製品、豆・種実類、果物類、鶏肉の摂取量の増加が必要だという。東京大学などの研究グループの研究によるもので、「British Journal of Nutrition」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 4 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2464>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2467>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2472>

- 「イグサ、トウシンソウ」（220418）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4920.html>

- 「サキシマボタンヅル、イレイセン、シナボタンヅル」（220418）

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4921.html>

- 「ウド」（220418） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4922.html>

2022 年 3 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2453>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2455>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2461>

食品安全情報（化学物質） No.08 (2022.04.13)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202208c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

厚生労働省が食品衛生法に違反する CBD 製品の自主回収情報を公表 (220419)

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2022/4/19

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4923.html>

■ 行政・法令関連情報（その他）

今回、特に見当たりませんでした。

■ 海外公的機関情報

米 FDA、規制対象外のアレルギー原因物質の評価指針案を公表（米国）

独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/4/19

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/04/f04d344e91af1555.html>

食品栄養成分表示を義務化、保健省草案 - NNA ASIA・ベトナム・食品・飲料

NNA Asia - 2022/4/8 <https://www.nna.jp/news/show/2320959>

一番上の見出しです

[EFSA]意見等 -新規食品としてのβ-ラクトグロブリンの安全性

3番目の見出しです

新規食品としてのシイタケ(Lentinula edodes) 菌糸で発酵した豆と米のタンパク質の安全性

食品安全情報 blog2 - 2021/4/11

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/04/11/175313>

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回、特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

素材との組み合わせで高機能化をアシスト（特集／カプセル技術）

健康メディア.com - 2022/4/14 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16052

カプセルタイプのサプリメント開発が増加傾向にある。免疫対策や腸活、ダイエットといったカテゴリー向けの製品開発が進む中、耐酸性や崩壊遅延防止といったカプセル技術の需要は、乳酸菌市場の拡大や、崩壊性が義務化された機能性表示食品を中心に伸長。液体充填やリポソーム（ナノ化）、三層シームレス、植物由来といったカプセル技術は、機能性素材との組み合わせでさまざまな機能改善や付加価値化が期待できる。“二酸化チタンフリー”など新開発のカプセルも登場した。-----

「SDGs」「旨味」「栄養価」で新たな市場開拓を（特集／昆虫食）

健康メディア.com - 2022/4/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16047

昆虫食がサステナブルフードへと新たなステージへの歩みを進めている。世界的なサステナブル志向で市場規模は拡大傾向にあり、2030年度は8,000億円に到達するとの試算もある。国内では昆虫食を資源循環や未利用資源で生産することでフードロスや廃棄物の削減につながる取り組みが始まった。サプライヤーサイドでは、昆虫食の旨味成分や豊富な栄養素を訴求する動きが本格化、小麦粉の代替として麺類やパンなどに添加する提案も進んでいる。-----

ピント調節、目の潤い、スマホ老眼、ブルーライト対策… 高齢者、若年層、アスリート、受験生まで、広がるターゲット（特集／ブルーベリー）

健康メディア.com - 2022/4/12

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16040

アイケア対策の代表格として君臨するブルーベリー。多種多様なアイケア素材が流通する中、認知度・エビデンス・体感性を武器に、堅調な市場を形成している。機能性表示食品の

受理実績は90品を越え、「ピント調節のサポート」「一時的な首・肩の負担軽減」「目の潤い感の維持」「目の疲労感軽減」まで、多面的なアイケア素材として再評価が進んでいる。-----

「肌バリア機能の維持」で圧倒的存在感 新たに美白、認知機能領域での研究も進展(特集／セラミド)

健康メディア.com - 2022/4/15

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16075

グルコシルセラミドを配合した機能性表示食品が130品を超え、「肌の保湿、肌バリア機能の維持」のテーマで関与成分トップを快走している(3月31日時点)。昨今、マスク着用やアルコール消毒の多用など、肌ストレスリスクが増加。ニューノーマル時代特有の肌ケア素材としても関心が寄せられる。また、認知機能領域へのアプローチなど、肌以外の機能性研究も進んでおり、セラミドの新たな魅力が引き出されている。

「エビデンス」「汎用性」で新需要開拓 研究会設立も(特集／ニンニク)

健康メディア.com - 2021/4/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16080

滋養強壯の伝統食材として古くから親しまれてきたニンニク。圧倒的な知名度と優れた体感で健康食品業界でも底堅いニーズがある。最終製品ではサプリメントのみならず、ドリンクや菓子類など一般食品の商品開発も進む。サプライヤーサイドでは、「高い汎用性」「国産」「機能性」を訴求するなど、新たな需要掘り起こしに向けた取り組みを加速させている。昨年はニンニク成分・SACの研究会が設立されるなど、機能性をエビデンスベースで訴求する動きも活発化している。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

希少アミノ酸の量産技術確立に向け長瀬産業と日立が協業、化粧品や健康食品向けで

MONOist - 2022/4/20 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2204/20/news061.html>

長瀬産業と日立製作所、日立プラントサービスは2022年4月19日、バイオテクノロジーとデジタル技術を組み合わせたスマートセルの生産能力を高めるプロセスの確立に向けて共同開発を開始したと発表した。2022年度(2023年3月期)中に化粧品向け、2023年度(2024年3月期)中に健康食品向けの量産成功を目指す。-----

キリン、「ローカル」軸に生物多様性を強化へ

オルタナ - 2022/4/13 <https://www.alterna.co.jp/47913/>

キリンホールディングスは「ローカル」を軸に生物多様性の取り組みを強化する。気候変動に対しては国際イニシアティブの「SBT」や「TCFD」などのグローバルな視点から対応する一方で生物多様性に関しては生産地を含めたローカルな視点を重視する。同社製品の主な原料である水と農作物は最も気候変動と生物多様性の影響を受けやすい。これらのリスクをビジネスの機会ととらえ、持続可能な経営につなげていく。(オルタナS編集長=池田真隆) -----

FSC・NTT データ MSE・小林製薬、尿から健康状態を見える化し行動変容を促す実証実験「健康見える化プロジェクト」を開始

IoTNews - 2022/4/11 <https://iotnews.jp/archives/200276>

■ 消費者意識等の調査・分析

今回、特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

褐色脂肪の熱産生を障害する抗酸化ホルモンを発見—金沢大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/4/7

[http://www.qlifepro.com/news/20220407/selenoprotein-p.html](http://www qlifepro.com/news/20220407/selenoprotein-p.html)

糖尿病患者で褐色脂肪の熱産生低下、抗酸化ホルモン「セレノプロテインP」に着目

金沢大学は3月30日、糖尿病で高まる抗酸化ホルモンであるセレノプロテインPが活性酸素を過剰に消去することで、褐色脂肪組織での熱産生を障害することを発見したと発表した。この研究は、同大総合技術部生命部門の高山浩昭技術専門職員、医薬保健研究域医学系内分泌・代謝内科学の篁俊成教授らと、東北大学、北海道大学、天使大学の研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」オンライン版に掲載されている。-----

肉や乳製品などに含まれるアミノ酸の摂取が寿命を延ばす、広島大が線虫で確認

マイナビニュース - 2022/4/8 <https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220408-2316206/>

資生堂、老化によるマクロファージのバランスの崩れがコラーゲン代謝に影響することを発見

株式会社 資生堂 - 2022/4/8

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003374>

資生堂は、光老化した皮膚において、2種類のマクロファージのバランス(M1/M2 バランス)が、コラーゲンの産生や分解、除去など、一連のコラーゲン代謝に関与していることを明らかにしました。コラーゲン代謝への悪影響による皮膚中のコラーゲン量や性質の変化は、肌の弾力性低下などを引き起こす可能性が考えられます。これまで当社では皮膚での“インフラマエイジング (Inflammaging: 炎症老化)”に着目し、皮膚内のマクロファージのバランス(M1/M2 バランス)が、光老化によって崩れ、M1 マクロファージが増加し M2 マクロファージが減少すること、さらに、それによって真皮線維芽細胞の老化が引き起こされることを明らかにしています。-----

コーセー、「脳波」と心と体の変化を左右する「ホルモン」に着目し、より永続的でパーソナルな美容と健康への価値提案 ～脳波信号解析の第一人者、慶應義塾大学満倉靖恵教授との共同研究を本格始動～

株式会社コーセー - 2022/4/8

<https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2022/04/20220408.pdf>

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林 一俊）は、この度、慶應義塾大学理工学部 システムデザイン工学科 兼 大学院医学研究科委員の 満倉 靖恵（みつくら やすえ）教授との共同研究を本格始動し、化粧品を使用したときの脳波の変化に加え、新たに、ホルモンの作用から心身の状態を捉える研究を進めます。この取り組みを当社が長年培ってきた知見と掛け合わせることで、新たな美容提案や商品開発につなげていきます。----

日本メナード化粧品、オオムギから抽出したエキスに歯ぐきの幹細胞の機能を高める効果を発見！

財経新聞 - 2022/4/19 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1640358/>

オオムギ・ラフマ・ジュンサイのエキスの組み合わせが歯ぐきの炎症と口臭を予防

日本メナード化粧品株式会社（愛知県名古屋市中区丸の内 3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一）は、愛知学院大学 歯学部（愛知県名古屋市千種区末盛通 2-11）歯周病学講座（教授：三谷 章雄）との共同研究から、オオムギエキスに歯ぐきの幹細胞（歯肉幹細胞）の機能を高める因子を増やす効果を発見しました。また、オオムギ、ラフマ、ジュンサイを組み合わせたエキスに、歯ぐきの炎症とコラーゲンの分解を抑える効果、口臭成分の発

生を抑制する効果を見出しました。これらの植物エキスは、新しいオーラルケアへの応用が期待されます。-----

概日リズムを制御する主時計と従時計の分子機構の違いを解明 韓国 KAIST

SciencePortal Asia Pacific - 2022/4/6

https://spap.jst.go.jp/korea/news/220402/topic_nk_03.html

神経細胞への栄養輸送に関わるアストロサイトの分岐形成過程を明らかに -- 昭和女子大学

大学プレスセンター - 2022/4/14 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-48012.html>

昭和女子大学（東京都世田谷区／学長：小原奈津子）食健康科学部管理栄養学科の林真理子准教授らによる研究グループはこのほど、「神経細胞によるアストロサイトの成熟誘導」についての研究成果を、分子に関わる生物学研究をカバーする査読付きのオープンアクセス科学ジャーナル「International Journal of Molecular Sciences」で発表しました。

この研究は、神経細胞をサポートする細胞「アストロサイト」が重なりなく空間を敷き詰めるように突起を伸ばす様子を明らかにしたもので、健康な神経の働きの維持を目指す今後の研究に繋がります。この研究成果は、東京大学、国立医薬品食品衛生研究所との共同研究です。-----

最新のライフサイエンスによる「細胞再活性化」はどこまで老化をコントロールできるか

ウェルネス総研レポート online - 2022/4/19 <https://wellnesslab-report.jp/1676/>

-----。そんなSFのような未来がすぐそこまで来ていることを示して世界中でベストセラーになったのが、『LIFESPAN(ライフスパン) 老いなき世界』（デビッド・A・シンクレア著 梶山あゆみ訳／東洋経済新報社）です。

著者のデビッド・シンクレア博士はハーバード大学医学大学院教授で、老化研究の第一人者。最新の生物学、遺伝学から導き出した驚くべき結論が全編にちりばめられており、老化に対する考え方が180度変わることでしょう。-----

腸は「体内の庭」。その食は腸内の微生物の庭園を耕すことにつながっているか

ウェルネス総研レポート online - 2021/4/19 <https://wellnesslab-report.jp/1681/>

-----。そもそも人間の目に見えるのは世界の半分であり、もう半分の見えない世界の
の主演＝微生物なしでは私たちの健康も生活も 1 日として成り立たないことを深く認識させ
てくれるのが『土と内臓 微生物がつくる世界』（デイビッド・モントゴメリー＋アン・ビ
クレー著 片岡夏実訳／築地書館）です。-----

**以下の 6 件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立
健康・栄養研究所）掲載記事（2022 年 4 月 8 日～20 日）から選定したものです。**

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

植物ベースのオメガ 3 は心臓病のリスクを減らす可能性

[https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-
Format=detail.htm&kibanID=77586&-lay=lay&-Find.html](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77586&-lay=lay&-Find.html) (2022/4/8)

植物に含まれるオメガ 3 脂肪酸である α -リノレン酸（ALA）は、心臓の健康に役立ち、
魚介類を食べない人の心臓病リスクを減らす可能性がある、という米国ペンシルベニア州立
大学からの研究レビュー。----

食生活で性格も変わる？

[https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-
Format=detail.htm&kibanID=77602&-lay=lay&-Find.html](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77602&-lay=lay&-Find.html) (2022/4/11)

腸内細菌の特徴と性格特性には関係があることが示唆された。米クラークソン大学の研
究。それぞれの性格特性ごとに、関連する細菌とメタボロームがあることが示唆された。---

**3 月 25 日付けの「食品安全情報 blog2」に「SMC UK -甘味料とがんリスクの観察研究へ
の専門家の反応」の見出しで取り上げられていますので、そちらもご覧下さい。**

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/03/25/171132>

人工甘味料は安全な砂糖の代替品とはいえない？

[https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-
Format=detail.htm&kibanID=77609&-lay=lay&-Find.html](https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77609&-lay=lay&-Find.html) (2022/4/12)

人工甘味料、特にアスパルテームとアセスルファム K を大量に摂取する者は、摂取しな
い者と比べて、全体的ながんリスクが高いようだ、という仏ソルボンヌパリノール大学から
の研究報告。-----

睡眠不足は不健康な腹部脂肪を増加させる？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77634&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/14)

十分な睡眠の欠如に食物への自由なアクセスが組み合わさると、カロリー摂取量が増加し、その結果、脂肪の蓄積、特に腹部内の不健康な脂肪が増加するようだ、という米国メーヨークリニックからの研究報告。-----

スーパーで人々をより健康的な食品の購入に誘導する

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77648&-lay=lay&-Find.html>

スーパーや食料品店で健康的な食品の入手可能性を高め、チョコやキャンディを目立たないように配置することは、健康に良い影響をもたらす可能性がある、という英国オックスフォード大学からの研究報告。-----

心血管系アウトカムに対する塩代替物の費用対効果

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77665&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/18)

食塩を、ナトリウムを減らしカリウムを加えた代用塩（塩代替物）に置き換えることは、脳卒中のリスクが高い人々の死亡や病気を防ぐ安価な方法かもしれない、という中国ジョージグローバルヘルス研究所からの研究報告。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年4月8日～20日）から選定したものです。

筋力トレーニングのパフォーマンスに対する炭水化物摂取の影響 システマティックレビュー

<https://sndj-web.jp/news/001750.php> (2022/4/11)

筋力トレーニングのパフォーマンスに対する炭水化物摂取の影響に関する研究を対象とした、システマティックレビューの結果が報告された。炭水化物摂取のパフォーマンスへの影響は、主として持久系スポーツで検討されていることもあり、著者らによると、これまでの筋力トレーニング時の炭水化物摂取に関する推奨は、ナラティブレビューに基づくものにとどまっていたとのことだ。-----

低炭水化物食 vs 高炭水化物&低脂質食、有酸素パフォーマンスへの影響に違いはあるか？

<https://sndj-web.jp/news/001752.php> (2022/4/11)

低炭水化物ダイエットのスポーツパフォーマンスへの影響はいまだ十分なエビデンスがない。しかし、低炭水化物ダイエットに期待し、実践を試みるアスリートも増えている。そうしたなか、低炭水化物ダイエットと、高炭水化物で低脂質のダイエットによる、有酸素パフォーマンスや体組成、血清脂質プロファイルへの影響を比較検討した結果が報告された。---

プロバイオティクスはアスリートの有酸素パフォーマンスを改善するか？ メタ解析が示す結果は…

<https://sndj-web.jp/news/001755.php> (2022/4/14)

プロバイオティクスの有酸素パフォーマンスへの影響を検討した研究を対象とする、システマティックレビューとメタ解析の結果が報告された。結論は、わずかではあるが有意であるという。ただし、サブ解析からは、効果を期待できる期間、摂取方法、対象などが限られる可能性も示されている。-----

朝食を食べないと、体重が増え、筋肉量が低下する可能性を示唆 名古屋大学の研究

<https://sndj-web.jp/news/001768.php> (2022/4/16)

朝食を食べないことが、体重を増加させてメタボリックシンドロームのリスクを高めやすいことが知られている。しかし影響はそれだけでなく、筋肉を萎縮させてしまう可能性もあるという研究結果が報告された。名古屋大学大学院生命農学研究科の研究グループの研究によるもので、「British Journal of Nutrition」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

多様な香りの簡便自在な再現法、東京工業大学が開発

大学ジャーナルオンライン - 2022/4/13 <https://univ-journal.jp/152287/>

東京工業大学の中本高道教授らの研究グループは、多数の香りを分析し、基本となる複数の香り要素を選定して「要素臭」として作成。調合比率を変えることで多様な香りを再現する技術を開発した。-----

～ 減塩食をよりおいしく、「健康」課題の解決に向けた大きな一歩 ～
世界初！電気刺激の活用で塩味が約 1.5 倍に増強される効果を確認 --
「味を調整できる食器」の開発につながる新技術 --

大学プレスセンター - 2021/4/11 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-47979.html>

明治大学（学長：大六野耕作）総合数理学部先端メディアサイエンス学科の宮下芳明研究室と麒麟ホールディングス株式会社（社長：磯崎功典、以下麒麟）は、共同研究の結果、減塩食品の味わいを増強させる電気刺激波形と箸型デバイスを開発しました。さらに、減塩の食生活を送る方々を対象にした臨床試験で、宮下研究室と麒麟が共同開発した箸型デバイスを用いると、減塩食を食べたときに感じる塩味が 1.5 倍程度に増強されることを世界で初めて確認しました。-----

東工大、I 型コラーゲンの可視化に成功 定説と異なる事象などを確認

マイナビニュース - 2022/4/13

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220413-2320479/>

深層学習と表面増強ラマン分光法を組み合わせ、細菌を同定する技術開発 韓国 KAIST

SciencePortal Asia Pacific - 2022/4/8

https://spap.jst.go.jp/korea/news/220402/topic_nk_06.html

■ その他の科学・技術情報

色認識における脳 PFC の活動場所が、現実と記憶の色で異なると発見
—新潟大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/4/14 <http://www.qlifepro.com/news/20220414/pfc.html>

PFC が心的体験と知覚体験をどのように表現しているかは不明だった

新潟大学は 4 月 13 日、マカクザルの大脳皮質、前頭前野領域（prefrontal cortex、PFC）で、知覚と記憶の想起によって引き起こされる脳活動に違いがあるか検証した結果、PFC では、異なる周波数で振動的に活動する神経集団の局所的な空間配置によって知覚と内部イメージの違いが表現されていることを発見したと発表した。この研究は、中国・浙江大学系統神経認知科学研究所の谷川久副教授、新潟大学大学院医歯学総合研究科神経生理学

分野の長谷川功教授、川崎圭祐准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「cell reports」に掲載されている。-----

関連リンク（新潟大学） <https://www.niigata-u.ac.jp/news/2022/134463/>

AIで軽度認知障害からADへの進行を高精度に予測する技術を開発— 富士フイルムほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/4/14 <http://www.qlifepro.com/news/20220414/ai-mci.html>

AD新薬開発、対照群と統計的有意差を証明できないことが一因で成功に至らず

富士フイルム株式会社は4月13日、進行予測AI技術（以下、AD進行予測AI技術）を用いて、2年以内に軽度認知障害（MCI）患者がアルツハイマー病（AD）へ進行するかどうかを最大88%の精度で予測することに成功したと発表した。この研究は、同社と国立精神・神経医療研究センターが共同で実施したもの。研究成果は「npj Digital Medicine」に掲載されている。-----

堀場、試薬投入が全自動かつ24検体を2.5時間で測定できる微生物検査装置を発表

マイナビニュース - 2022/4/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220415-2322351/>

■ その他

城西大学経営学部、ビッグデータを活用しドラッグストアの売り場を企画提案

大学ジャーナルオンライン - 2022/4/6 <https://univ-journal.jp/151146/>

城西大学は、埼玉県を中心にドラッグストアを展開している株式会社セキ薬品、ビッグデータプラットフォームを運営する株式会社 True Data の2社と連携して「ビッグデータマーケティング教育」を実施する。-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年5月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年5月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2481>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2480>

素材情報データベース（新規） 5月6日正午時点ではありません。

2022年4月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2464>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2467>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2472>

食品安全情報（化学物質）No. 9/ 2022（2022. 04. 27）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202209c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

厚生労働省が食品衛生法に違反する CBD 製品の自主回収情報を公表 (220426)

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2022/4/26

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/contents/detail4927.html>

■ 行政・法令関連情報（その他）

食薬区分改正案、「非医リスト」候補に2成分「白首烏」「D-β-ヒドロキシ酪酸」

健康メディア.com - 2022/4/22 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16101

厚生労働省は3月23日、2成分を新たに「非医薬品リスト」に加える食薬区分の一部改正案を発表した。4月21日まで意見を募集する。

「医薬品の効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）リスト」（非医薬品リスト）の追加候補は、①コイケマ（塊根）、②D-β-ヒドロキシ酪酸——の2成分。-----

■ 海外公的機関情報

以下の2件は、2022年4月21日付けの食品安全情報 blog2 に掲載されています。1番目と2番目の見出しです。

[FDA]FDA はボトル入り飲料水の添加フッ化物濃度に関する最終規則を発表する

[FDA]FDA は主要食物アレルギー以外の食物アレルギーの公衆衛生上の重要性を評価するガイダンス案を発表する

食品安全情報 blog - 2022/4/21

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/04/21/174955>

以下の10件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/4/27 確認) の中から、**気になったもの**を選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

220427 確認

6. [米国農務省\(USDA\)、「米国民向け食事ガイドライン 2025年～2030年」を作成するために提案された科学的課題を公表](#)

32. [欧州化学品庁\(ECHA\)、加盟国と148種のビスフェノール類を評価し、30種以上のビスフェノール類がホルモン又は生殖毒性に影響を及ぼす可能性があるため、規制が必要であると勧告](#)

34. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのシイタケ菌糸体により発酵させたエンドウ豆タンパク質及び米タンパク質の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

35. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象期間:2022年4月6日～4月12日\)](#)

54. [米国環境保護庁\(EPA\)、飲料水での過塩素酸塩から国民を保護する計画を公表](#)

56. [英国食品基準庁\(FSA\)、認可に向けてカンナビジオール製品のリストを公表](#)

58. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのガラクトオリゴ糖の用途拡張の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

71. [世界保健機関\(WHO\)、「食物アレルギーのリスク評価:Part1:コーデックス委員会の優先的アレルギーリストに関して行われたリスク評価に基づくレビュー及び検証:会議報告」を公表](#)

89. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する欧州議会の決議を官報で公表\(公表日 2022年3月24日\)](#)

93. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(対象期間:2022年3月23日～4月5日\)](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は、特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

「快眠」機能性表示食品、400品に迫る

健康メディア.com - 2022/4/20 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16097

睡眠分野における機能性表示食品の流通が拡大、昨年の受理数は100品を超え、累計受理数は400品に迫る勢いと、市場は盛り上がりを見せている。

制度開始以降、「睡眠の質の向上」「すっきりとした目覚めをサポート」など、機能性を明確に謳える商品が増加。また、長引くコロナ禍に伴うストレス増加から良質な睡眠を求めるユーザーが増え、商品開発に拍車がかかっている。-----

疲労、口腔、睡眠など機能性表示食品 50品到達（特集／コエンザイムQ10）

健康メディア.com - 2022/4/26

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16105

食薬区分改正から食品利用が可能になり20年が過ぎたCoQ10。体感、認知度の高さに加え、豊富なエビデンスデータの蓄積を背景に安定市場を形成する。還元型、酸化型原料を用いたサプリメントや飲料、ゼリー、グミなど、様々な形態の商品が流通。近年は、機能性表示食品が続々受理されている。これまでの「疲労感の軽減」に加え、-----

プラズマに続く機能性表示の実現は？（特集／免疫サポート）

2022/4/28 特集

健康メディア.com - 2022/4/28 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16109

コロナ禍が長引く中で、免疫サプリへの需要は高い。乳酸菌、ビタミン、キノコ類、プロポリスなど、様々な免疫素材の活用が進む。民間調査では、年代を問わず約8割の人が免疫に関心を持っているというデータも。機能性表示食品分野では一昨年、業界初となる「免疫機能の維持に役立つ」のヘルスクレームが実現した。昨年9月には、日本抗加齢協会が届出

資料の科学的根拠に関する指針を公開。素材メーカー各社は、積極的なエビデンス研究が進めている。免疫は消費者の関心が高く、サプリア業界への期待も高い分野だけに、次なる機能性表示食品の受理が待たれる。-----

ロコモ・フレイル対策、機能性表示など 国内流通量、1350t 超に(特集／グルコサミン)

健康メディア.com - 2022/4/29

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16120

関節サポート素材の代表格・グルコサミン。原料サプライヤー各社への取材から国内流通量は1,350tを超えたと推測される。長引くコロナ禍で、ロコモ・フレイル対策の重要性が増す中、グルコサミンを使用した新商品やリニューアル品が増えた。スポーツニュートリション向けやペット向けへの利用も進む。また、発酵グルコサミンは、SDGsの観点から関心が高まっている。-----

高齢者向け食品市場の拡大と共に進化する介護食、家庭で無理なくおいしく健康に食べ続ける介護食のポイントとは

マイライフニュース - 2022/4/28

<https://www.mylifenews.net/medical/2022/04/post-152.html>

近年、高齢者向け食品市場が急拡大している。富士経済の「高齢者向け食品市場の将来展望 2019」によると、2025年は2018年と比較して、全体で25.5%増の2046億円、中でも在宅向けやわか食の市場は80.7%増と大幅に拡大し、75億円となる見込み。一方で、キューピーが2018年に行った「介護食に関する調査」では、全体の25.5%の人が日常の支援・介護の中で困っている動作として「食事」に関すること（「食事の準備」「食品の買い物」「食事の介助」「食事の片づけ」等）を挙げている。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

花王と日清食品が「仮想人体生成モデル」の活用に向けた協業に合意 「完全栄養食」の喫食者の健康状態を可視化し、栄養バランスや量をパーソナライズ化した商品やサービスの開発をめざす

花王株式会社 - 2022/4/20

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/business-finance/2022/20220420-001/>

フレイルリスク検知の高度化・予防サービスの開発に向け協業 ～イワタニゲートウェイを活用した行動可視化の実証実験を開始～

岩谷産業株式会社 - 2022/4/20

https://www.iwatani.co.jp/jpn/news/files/2022/20220420_news3.pdf

ミツカングループと日本女子大学『にっぽん食プロジェクト』始動 -- これからの日本の食を探求し、新しい食の価値を共創する産学連携協定 を締結 --

大学プレスセンター - 2022/4/20 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-48038.html>

■ 消費者意識等の調査・分析

コカ・コーラシステム、アクティブシニアの水分補給に関する調査、水 分補給は「水」「コーヒー」「炭酸飲料」がトップ

マイライフニュース - 2022/4/26

<https://www.mylifenews.net/data/2022/04/post-112.html>

コカ・コーラシステムの熱中症対策飲料売上 No.1（熱中症対策飲料市場における 2021 年度のブランド別売上実績（TPC マーケティングリサーチ調べ））の「アクエリアス」は、熱中症対策には欠かせない水分補給を呼び掛ける啓発活動を行っている。

今回、体を動かす趣味（運動、散歩、旅行など）を持つ 60～79 歳を「アクティブシニア」とし、男女 100 人ずつ、計 200 人を対象に、「アクティブシニアの水分補給に関する調査」を行った。……

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

大麦の摂取がビフィズス菌と酪酸産生菌の量と関係 日本人の腸内細菌 叢との関係を横断研究で解析

株式会社はくばく - 2022/4/19 <https://www.hakubaku.co.jp/news/484/>

[hakubaku_【news release】20220419_大麦の摂取がビフィズス菌と酪酸産生菌の量と関係](#)

穀物のリーディングカンパニー株式会社はくばく（本社：山梨県中央市、代表取締役社長：長澤 重俊）は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチン・アジュバント研究センターの國澤純センター長（ヘルス・メディカル連携研究センター併任）および山

梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座山縣然太朗教授との共同研究により、大麦の摂取量が多い日本人の腸内細菌叢において、ビフィズス菌および酪酸産生菌の1つであるブチリシコッカス菌の量が多いことを横断研究にて明らかにしました。日本人の集団において大麦の摂取量と腸内細菌叢の関係 200名を超える規模で評価した貴重な研究成果と言えます。本研究成果は科学雑誌『BMC Nutrition』（BMC Nutr. 2022 Mar 14;8(1):23）に 2022年3月14日に掲載されました。-----

世界初「NMNを産生する乳酸菌」の発見および機能性の開発について

株式会社大阪ソーダ - 2022/3/31

http://data.swcms.net/file/osaka-soda/ja/release/index/auto_20220331514727/pdfFile.pdf

当社は、静岡大学工学部 吉田信行准教授との共同研究において、抗老化物質として近年注目されるニコチンアミドモノヌクレオチドを産生する乳酸菌（以下、NMN乳酸菌）を世界で初めて発見し、特許を出願しました。

当社は、2020年にNMN乳酸菌を発見して以来、工業生産プロセスの確立と新たな機能性の解明を目的に研究を行っています。このたび開発した工業生産プロセスでは、乳酸菌内で効率的にNMNを蓄積させる方法と、生体内でエネルギー代謝を活性化させる重要な化合物でNMNから生合成されるニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（以下、NAD）を高蓄積させる培養方法を確立しました。機能性の解明では、NMN乳酸菌が皮膚細胞でコラーゲンとヒアルロン酸の両成分を産生できる機能を持つことを発見しました。-----

「NMN」の経口接種が高齢者の歩行などの運動機能を改善させる、東大が確認

マイナビニュース - 2022/4/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220426-2329766/>

腸内フローラと免疫の相関関係についての考察レポート：コロナ後遺症患者の腸内フローラの特徴が判明

～腸内フローラの多様性や健全性をチェックできる腸内フローラ検査を活用し、免疫力維持強化につなげよう～

アトラス日本合同会社 - 2022/4/21

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000075534.html>

世界で唯一、遺伝子と腸内フローラの検査結果を統合したレポートを提供しているパーソナライズドヘルスソリューション企業、アトラスバイオメッド（本社：英国 ロンドン、CEO：セルゲイ・ムシエンコ、子会社：アトラス日本合同会社（住所：東京都渋谷区、代表

者：セルゲイ・ミュシエンコ、以下 アトラスジャパン <<https://atlasbiomed.co.jp/>>は、アトラスバイオメッドに所属する、人と微生物の関係を研究しているロス・カーヴァー・カーターが3月25日に執筆した、「腸内細菌叢と免疫の相関関係：腸内細菌は免疫の健康にどのような影響を与えるのか？」と題する考察レポート <https://atlasbiomed.com/blog/the-microbiota-immune-axis/> の抄訳を発表しました。

このレポートでは、腸内細菌が免疫細胞とどのように相関しているのか、また、それがコロナ後遺症や炎症性疾患のリスクにどのように影響するかを考察しています。-----

腸内フローラを利用してマウスの健康状態を迅速に判定する技術を開発

—細菌と接触させたポリマーの蛍光パターンを機械学習により解析—

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 - 2022/4/26

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2022/pr20220426/pr20220426.html

ポイント

- 腸内フローラと混ぜるだけで、細菌表面の特性を青色の蛍光に変換できるポリマー群を開発
- 蛍光強度のパターンを機械学習で解析することで、睡眠障害によるマウス腸内フローラの乱れを判定
- 患者を傷つけることなく、迅速・簡易・安価に健康状態をモニタリングする技術への応用が期待

乳由来「βラクトペプチド」が持つアンチエイジング作用について、新たなメカニズムを解明！「日本農芸化学会 2022 年度大会」トピックス賞を受賞 ～脳の老化に関わる「ミトコンドリア」の機能を改善～

キリンホールディングス - 2022/4/27

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0427_03.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）のキリン中央研究所（所長 矢島宏昭）は、乳由来の「βラクトペプチドの1つである GTWY ペプチド（以下、βラクトペプチド）」が、脳の老化に重要な役割を果たすミトコンドリア※3 機能を改善するメカニズムによって、脳神経を保護することを世界で初めて明らかにしました。

当社はこの研究成果を、2022年3月15日（火）から18日（金）に公益社団法人日本農芸化学会が主催した「日本農芸化学会 2022 年度大会」で発表し、一般演題 1346 件の中から選定された 29 演題に贈られるトピックス賞を受賞しました。当社の脳科学研究の成果が評価され、日本農芸化学会で賞を受けるのは4度目となります。

日本メナード化粧品、霊芝から抽出したエキスに血管をしなやかにして血流をスムーズにする効果を発見！

日本メナード化粧品株式会社 - 2022/4/26

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000037.000048666.html>

日本メナード化粧品株式会社（愛知県名古屋市中区丸の内 3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一）は、これまでに老化に大きく関わる血管の機能低下に対して、これを改善する生薬の探索を行ってまいりました。この度、古くから生薬として珍重されてきた「霊芝」に、血管の老化を防ぎ、血管をしなやかにして血流を改善する効果を確認しました。-----

鶏卵アレルギー起こしにくい卵白分解物を発見 アレルギー予防に期待 国立成育医療研究センター

財経新聞 - 2022/5/1 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220501/670527.html>

国立成育医療研究センターなどの研究グループは、酵素で分解した卵白数種類のうち、すでに食物アレルギーを発症していてもアレルギー症状を起こしにくく、食物アレルギーの発症を予防できるもの 2 種類を発見したと発表。今後安全なアレルギー予防法の開発につながる可能性がある。-----

脳腸相関 心理的ストレスが腸内細菌叢を破綻させ、うつを悪化

(柳本 操＝ライター 2022.4.21)

Beyond Health (日経 BP) - 2021/4/21

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00161/>

ほ乳類の概日時計リズムは 2 種類の仕組みによることを山口大などが発見

マイナビニュース - 2022/4/22

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220422-2327105/>

暗黒の細胞死の発見 一腸の恒常性維持の仕組みに迫る、従来の定説を覆す発見

理化学研究所 - 2022/4/26 https://www.riken.jp/press/2022/20220426_2/

神戸大学

生理学研究所

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター動的恒常性研究チームのユ・サガンチームリーダー（理研開拓研究本部 Yoo 生理遺伝学研究室主任研究員、神戸大学大学院医学研究

科客員准教授)、開拓研究本部 Yoo 生理遺伝学研究室のハンナ・シエシエルスキー国際プログラム・アソシエイト(研究当時、現神戸大学大学院医学研究科博士課程学生)、西田弘特別研究員(研究当時、現ハーバード大学研究員)、生理学研究所の古瀬幹夫教授らの共同研究グループは、腸の細胞を新陳代謝させる分子機構として、これまでに知られていなかった新しいタイプの細胞死を発見しました。-----

【知っておくべき!学会レポート】フードサイエンスの最前線「日本農芸化学会 2022 年度大会」①

ウェルネス総研 online - 2022/4/22 <https://wellnesslab-report.jp/1688/>

機能性を含む“食”の作用は様々な領域の知識と技術を持つ研究者たちによって立証され、数値化することが可能になってきました。フードサイエンス(食品科学)の研究で進展を見せる複合的アプローチについて、日本農芸化学会 2022 年度大会で発表された中からレポートします。フードサイエンスの研究成果を知れば、身近な食品への見方が変わってくるかもしれません。-----

【知っておくべき!学会レポート】農芸化学の今を知る「日本農芸化学会 2022 年度大会」②

ウェルネス総研 online - 2022/4/22 <https://wellnesslab-report.jp/1693/>

公益社団法人 日本農芸化学会は例年、発表演題数は 2000 題、参加者は 5500 人を超えるという科学・生物学系の学会の中でも非常に規模の大きい集会です。3月16日(水)~18日(金)にオンラインで開催された 2022 年度大会の最終日には、実行委員会による企画シンポジウム「今こそ聞きたい農芸化学」が行われました。その中から、99%が未だ解明されていないという微生物の可能性を示した講演「まだまだ広がる微生物の世界」をレポートします。-----

以下の4件は、リンク DE ダイエット(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所)掲載記事(2022年4月21日~5月6日)から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

飽和脂肪が糖尿病を悪化させる可能性についての重要な細胞メカニズム

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77681&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/21)

シンガポールの南洋理工大学の研究チームは、飽和脂肪が糖尿病の発症に寄与し、糖尿病を悪化させる可能性があることを示す新しい細胞経路をマッピングし、代謝性疾患におけるその役割を強調している。-----

ビタミン K2 が神経細胞を修復する？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77700&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/22)

中国科学院（CAS）インテリジェントマシン研究所の研究グループは、ビタミン K2 の新しい機能を発見したという。ミトコンドリア膜電位を調節し、酸化ストレスを緩和し、それによって 6-ヒドロキシドーパミン（6-OHDA）によって引き起こされるミトコンドリア機能障害を修復し、神経細胞の損傷を抑制するのである。-----

腸内細菌叢と脳の間直接対話を解読する

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77719&-lay=lay&-Find.html> (2022/4/25)

動物モデルの視床下部ニューロンが、細菌の活動の変化を直接検出し、それに応じて食欲と体温を適応させることを発見した、という仏パスツール研究所などからの研究報告。この発見は、腸内細菌叢と脳の間で直接の対話が起こることを示している。これは、糖尿病や肥満などの代謝障害に取り組むための新しい治療アプローチにつながる可能性のある発見であるという。-----

超低カロリー食は免疫系にもプラスの効果？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77809&-lay=lay&-Find.html>

カロリーを減らした食事は、代謝性疾患の発症を遅らせるだけでなく、免疫系にもプラスの効果をもたらすかもしれない、という独シャリテ・ベルリン医科大学などからの研究報告。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年4月21日～5月6日）から選定したものです。

減量後のリバウンドの犯人は加工肉か？ 動物性食品に焦点を当てた研究

<https://sndj-web.jp/news/001759.php> (2022/4/21)

減量後のリバウンドや心血管代謝リスク因子の悪化に影響を与える動物性食品は加工肉であって、未加工の赤身肉や鶏肉、および肉類の総摂取量、そして乳製品などは、リスク因子の悪化と関連がないとする研究結果が報告された。また、加工肉を他の動物性タンパク質に置き換えて摂取すると、リバウンドを抑制できる可能性も示された。-----

クレアチンを含むさまざまなサプリメントで、安全性や有効性のエビデンスが豊富なのは？

<https://sndj-web.jp/news/001760.php> (2022/4/23)

クレアチンを含むサプリメントはさまざまな形態 (form) があるが、それらの中で生物学的利用能、安全性、有効性などのエビデンスが最も豊富なのはクレアチン-水和物 (CrM) であるとするレビュー論文が発表された。米国の研究者による論文で、末尾には、クレアチンサプリに関する 11 項目の推奨事項も掲げられている。-----

魚を食べると頭が良くなるのは本当だった!? 子どもの認知発達に対する栄養介入試験の検討結果

<https://sndj-web.jp/news/001765.php> (2022/4/28)

魚を食べると頭が良くなると言われるが、確かに認知機能にプラスの影響のある可能性が、就学前の子どもを対象とする栄養介入試験のシステマティックレビューから示された。米国の研究者らが 2000 年以降に実施された無作為化比較試験を抽出して検討した結果である。-----

朝食で良質なタンパク質を摂ることが認知機能低下を防ぐ可能性 日本人 541 人を 4 年間追跡

<https://sndj-web.jp/news/001774.php>

アミノ酸スコアの高い朝食を摂取することが、認知機能低下を予防するかもしれない。国立長寿医療研究センターと味の素 (株) との共同研究グループが行った、地域住民対象長期縦断疫学研究のデータを解析して明らかになった。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

キリン、飲料の商品開発における品質アセスメント業務をサポートする「アセスメント AI」を開発

IoTNEWS - 2022/5/2 <https://iotnews.jp/archives/201086>

■ その他の科学・技術情報

香料開発に自動化技術導入で開発期間をスピードアップ

ライオン株式会社 - 2022/4/20 <https://www.lion.co.jp/ja/company/press/2022/3880>

ライオン株式会社(代表取締役社長・掬川 正純)は、株式会社ヤナギヤ(代表取締役社長・柳屋 芳雄)と、“香料の調合”を、高精度で短時間かつ全自動で行う自動調合ロボットを共同開発し、ハミガキの香料開発に導入いたしました。本技術と当社がすでに開発している「熟達者思考 AI※」とを併せて活用することで、最大約 20%のハミガキの香料開発時間削減を見込んでおり、開発のスピードアップが期待されます。

ライオンと日立が DX で製品開発時間を短縮 ハミガキの製造プロセス上の課題を事前予測し、最適組成を自動提案するシステムを開発

ライオン株式会社 - 2022/4/20

<https://lion->

[corp.s3.amazonaws.com/uploads/tmg_block_page_image/file/8064/20220420.pdf](https://lion-corp.s3.amazonaws.com/uploads/tmg_block_page_image/file/8064/20220420.pdf)

ライオン株式会社(代表取締役社長 掬川 正純 以下、ライオン)と株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO 小島 啓二 以下、日立)は、研究所で開発した新たなハミガキの組成をもとに、実際に工場で生産する際に生じる課題を事前に予測し、製造プロセス上最適な組成情報や物性情報の案を自動提案するシステムを開発しました。先進デジタル技術を活用した本システムをさらに他の課題にも適用して運用することで、最大約 40%の製造プロセス検討時間の削減が見込まれるため、ハミガキの製品開発のスピードアップが期待されます。-----

肌の内部構造を可視化し、色ムラが生じるメカニズムを解明 紫外線による局所的な毛細血管の消失と拡張が 赤色のムラを生じさせる

日本メナード化粧品株式会社 - 2022/4/21 <https://www.atpress.ne.jp/news/306915>

日本メナード化粧品株式会社(愛知県名古屋市中区丸の内 3-18-15、代表取締役社長：野々川 純一)は、藤田医科大学医学部(愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98)の応用細胞再生医学講座(教授：赤松 浩彦)及び皮膚科学講座(教授：杉浦 一充)と共同で、肌の色ムラ(特に赤色のムラ)が生じるメカニズムについて研究を進めました。その結果、色ムラのある肌では局所的な毛細血管の消失と拡張が起こっていることを発見しました。さらに、その原因は紫外線によるものであることを突き止めました。今後は、今回の結果をもとに肌の色ムラを改善する美容技術や治療法の開発に役立ててまいります。-----

色褪せない蛍光タンパク質 ー細胞微細構造やウイルスの定量的観察を可能にする技術ー

理化学研究所 - 2022/4/26 https://www.riken.jp/press/2022/20220426_1/index.html

東北大学

北里大学

花王株式会社

理化学研究所（理研）脳神経科学研究センター細胞機能探索技術研究チームおよび光量子工学研究センター生命光学技術研究チームの宮脇敦史チームリーダー、平野雅彦研究員、安藤亮子研究員、杉山真由研究員、理研脳神経科学研究センター細胞機能探索技術研究チームの下菌哲研究員、黒川裕研究員、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターの竹田典代助教（研究特任）（研究当時、現日本学術振興会特別研究員）、北里大学大村智記念研究所の片山和彦教授、花王株式会社安全性科学研究所らの共同研究グループは、明るく極めて褪色しにくい蛍光タンパク質「StayGold」を開発し、生細胞で細胞小器官の微細構造の動態を速く長く解析する定量的観察法を確立しました。また、StayGoldとVHH抗体[2]の融合タンパク質を作製し、固定感染細胞における新型コロナウイルスのスパイクタンパク質[3]の詳細な分布を明らかにしました。

本研究成果は、褪色による制限を取り払うことで、蛍光観察の時空間の幅を飛躍的に拡張し、定量性を求める創薬開発研究に貢献すると期待できます。-----

窒素がなくてもアミノ酸はできる！

—生命を構成するアミノ酸の起源に新しい可能性—

理化学研究所 - 2022/4/27 https://www.riken.jp/press/2022/20220427_1/index.html

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター健康・病態科学研究チームの福地知則研究員、渡辺恭良チームリーダー、分子標的化学研究チームの丹羽節副チームリーダー（研究当時）、細谷孝充チームリーダーの研究チームは、放射性同位体[1]の崩壊により、窒素を含まない化合物からアミノ酸が直接生成される新しい反応経路を提案し、これを計算機シミュレーションにより検証しました。-----

■ その他

JADMA、景表法関連の問い合わせは前年度比 23.6%増の 257 件 2021 年度の事業者相談件数を発表

マイナビニュース - 2022/4/25

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220425-2329240/>

テクノロジーでウェルビーイングを叶える「フェムテック&メルテック」

女性や男性に特有の健康課題について、テクノロジーで解決する製品やサービスのことを示す「フェムテック（Femtech）」と「メルテック（Maletech）※」。2016年頃から始まったこれらの市場は様々な製品やサービスの開発を通じてその規模が急成長し、産官学で連携した研究も行われています。今回は、個々のウェルビーイング実現に加え、経済全体へも改進をもたらし得るフェムテックとメルテックについて解説していきます。

※「メルテック」は「メンテック」と呼ばれることもあります

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年5月号 No. 2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

アニマルウェルフェアに言及、変わる日本企業

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022年5月12日
<https://www.alterna.co.jp/48637/>

【連載】アニマルウェルフェアのリスクとチャンス（16）

日本企業のアニマルウェルフェアへの対応力は世界と比べて大きく遅れを取っていることは事実だ。だが、数年前と比較すると、着実に対応力は上がってきた。かつては言及すらしていなかった企業が多い中で、味の素や日本ハム、日清食品などアニマルウェルフェアへの考え方を公表する大手企業が増えてきた。（認定 NPO 法人アニマルライツセンター代表理事＝岡田 千尋）

サステナ経営に向けて企業が気にすべき「マーク」「認証」

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022年5月20日
<https://www.alterna.co.jp/48813/>

サステナビリティ領域は環境、人権、ダイバーシティ、働き方改革などと幅広い。企業がサステナ領域での取り組みを進め、具体的な施策を進めるにあたっては、日本の官庁や国内外の NGO などの「マーク」「認証」「イニシアティブ」を取得するのも一手だ。国内外のサステナ関連「マーク」「認証」などをまとめた。（オルタナ S 編集長＝池田 真隆）

食の価値観・知識・技術と性別・年齢との関連、日本人成人対象質問票調査で解明－東大

QlifePro 医療ニュース - 2022/5/12

[http://www.qlifepro.com/news/20220512/food-selection.html](http://www qlifepro.com/news/20220512/food-selection.html)

日本と欧米諸国の間では栄養に関する懸念事項が異なることが示唆されていた。東京大学は5月11日、日本人成人2,231人を対象に詳細な質問票調査を実施し、食品選択における価値基準、栄養知識、料理技術、食全般に関わる技能には、男女間、世代間で大きな差があることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科社会予防疫学分野の村上健太郎助教、佐々木敏教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載されている。-----

東京大学大学院医学系研究科・医学部 広報・プレスリリース最新情報

<https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/press.html>

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年5月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2481>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2480>

素材情報データベース（新規） 5月24日正午時点ではありません。

2022年4月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2464>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2467>

素材情報データベース（新規） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2472>

食品安全情報（化学物質）No. 10/ 2022（2022. 05. 11）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202210c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する要請について（令和4年1月～3月）

消費者庁 - 2022/5/12

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_220513_01.pdf

消費者庁では、令和4年1月から3月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している98事業者による117商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善を要請するとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を要請しました。

消費者庁では、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じてまいります。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

ベジタリアン又はヴィーガンに適した加工食品の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/5/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003481&Mode=0>

ベジタリアン又はヴィーガン料理を提供する飲食店等の管理方法の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/5/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003482&Mode=0>

低たん白加工処理玄米の包装米飯の日本農林規格案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/5/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003483&Mode=0>

■ 海外公的機関情報

[FDA]FDA は NDI 執行裁量のガイダンス案を発表

食品安全情報 blog2 - 2022/5/23

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/05/23/184921>

上から 3 番目の見出しです。この後、暫く関連情報が続きます。

健康的でない食品に関する規制の延期発表、店内配置規制は予定どおり導入（英国）

日本貿易振興機構（JETRO） - 2022/5/23

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/05/879acaefd5ccd037.html>

以下の7件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/5/18 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

220518 確認分

6. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての牛乳由来オステオポンチンの安全性に関する科学的意見書を公表](#)
8. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、アクリルアミドの遺伝毒性の評価に関する科学的報告書を公表](#)
9. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、乳児用食品サプリメントに使用する新食品としての2'-フコシルラクトース\(2'-FL\)及びラクト-N-ネオテトラオース\(LNnT\)の用途拡張の安全性に関する科学的報告書を公表](#)
17. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、腸内細菌叢におけるビスフェノール類のリスク及び肥満を誘発する表現型におけるその役割を評価するためのバイオマーカーを探索する知識プラットフォームに関する科学的報告書を公表](#)
29. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、ジュース中の鉛の措置基準に関する業界向けガイダンス案を公表](#)
53. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、ボトル入り飲用水中の添加フッ化物イオンレベルの最終規則を公表](#)
56. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、アレルゲンを含む主要食品以外の、食物アレルゲンの公衆衛生上の重要性を評価するためのガイダンス案を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

機能性表示で目覚めた“快眠”市場（連載／オピニオン）

健康メディア.com - 2022/5/11 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16136

睡眠分野における機能性表示食品の「HACCP 導入のためのハード&ソフト」流通が広がっている。「睡眠の質の向上」「すっきりとした目覚めをサポート」など、機能性を明確にうたえる商品が販売チャネルを問わず見かけるになった。-----

未病・治療中心に利用拡大 活用ハーブ 6,000 種超、日印記念事業イベントも（特集／アーユルヴェーダ）

健康メディア.com - 2022/5/12 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16143

長い歴史の中で培われたアーユルヴェーダの理論体系は、未病から治療まで広範囲におよび、活用されるハーブは 6,000 種超といわれる。世界的な高齢化、医薬品の副作用の問題、生活習慣病の増加などを背景に、代替医療分野で活用が進行。コロナ禍においては、インド・AYUSH 省による国際振興の取り組みや、WHO 推奨などの影響などから、伝統医療の診断や用語の国際的な標準化に向けた取り組みも進んでいる。国内でも、コロナ禍の治療分野で科学的検証が進むほか、ハーブの持つ機能性をエビデンスで裏付けし、使用するシーンや人の状態に応じた効果的な訴求提案に活用されている。-----

「血糖値」「腸内細菌叢」等、エビデンス構築活発 大麦の可能性広げる“食べ方”提案も（特集／大麦）

健康メディア.com - 2022/5/20

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16164

大麦の新たな機能性研究や食べ方提案が進んでいる。機能性研究は、糖尿病患者の食後高血糖抑制や血糖変動の抑制で新たな知見が報告された。食べ方提案では、大豆粉を使ったレシピ提案のほか、オーダーメイドシリアルで需要を喚起していく動きがはじまった。最終製品では、豊富な食物繊維や低糖質訴求など、高まる健康需要に応える付加価値型の商品開発が進んでいる。-----

矢野経済研究所、国内の嚥下食・咀嚼困難者食・介護予防食市場調査、介護高齢者の増加や調理現場の人手不足で高齢者の低栄養に注目

マイライフニュース - 2022/5/19 <https://www.mylifenews.net/data/2022/05/post-115.html>

矢野経済研究所は、国内の嚥下食、咀嚼困難者食、介護予防食市場を調査し、セグメント別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。

その結果、介護高齢者の増加、調理現場の人手不足、高齢者の低栄養が注目され、市場は拡大するとみられる。今後は市販用ルートの拡大、在宅使用の増加がカギとなる。-----

メンタルヘルスや睡眠と密接な関係 必須アミノ酸「トリプトファン」

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/20 <https://wellnesslab-report.jp/1793/>

トリプトファンは、たんぱく質を構成する必須アミノ酸の一つで、ホルモンや酵素、抗体や血液なども作り出す重要な成分です。不安やうつ、睡眠障害などとも関係が深く、「コロナうつ」「コロナ不眠」といった言葉が聞かれる昨今、「メンタルヘルス」「睡眠の質」に深く関与するトリプトファンは、個々のウェルビーイングの実現に不可欠な成分として、その重要性が改めて見直されています。-----

免疫もホルモンも。筋肉や肌だけでない「たんぱく質の機能」に集まる注目

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/20 <https://wellnesslab-report.jp/1796/>

アスリートや運動習慣のある方のみならず、美容や健康のために積極的に食事時に取り入れられるようになった「たんぱく質」。中でも、新型コロナウイルスの流行や健康に対するニーズの拡大により、体の組織や器官の調整、免疫システムの促進・維持など体の機能を整える働きのある「機能性たんぱく質」に今注目が集まっています。今後、「機能性たんぱく質」の機能性を付加した商品は増えていくと予想され、商品市場の成長が期待されています。-----

腸脳皮膚相関とアンチエイジング「第7回アイメック RD 業界研究セミナー」

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/20 <https://wellnesslab-report.jp/1786/>

近年、腸と脳との関連性を示す“腸脳相関”が注目を集めていますが、これに皮膚も加えた“腸脳皮膚相関”における興味深いデータが研究により明らかになってきました。食品素材が持つ新しい分野の可能性や最新の知見、将来への期待について専門家が解説する第7回アイメックRD業界研究セミナーの中からレポートします。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

これからの三大栄養素と国内外のトレンドを分析！「ウェルネストレンド白書 Vol.2」

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/17 <https://wellnesslab-report.jp/1771/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代、約4,600名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.2』を2022年5月31日に刊行しました。Vol.2の目玉として新しく加わった「三大栄養素」では、国内外の動向と共に、リアルな日本人の消費者における傾向をVol.1に続き各健康セグメントで細分化。さらにヘルスベネフィットに対する関心度や、“ムード&マインド”といったトレンドワードについても分析しています。本調査の監修をつとめたグローバルニュートリショングループの武田猛氏に、調査を重ねての気づきや国内外でのトレンドについてうかがいました。-----

新事業「メタボローム解析サービス」開始

Noster 株式会社 - 2022/5/10

<https://www.noster.inc/wp/wp-content/uploads/2022/05/7033b09b32ff716c96291c974c29000f.pdf>

2022年5月より新事業として腸内細菌の脂質代謝物に特化した「メタボローム解析サービス」を企業・アカデミア向けに開始いたしました。

本サービスでは、NOSTERが独自の腸内細菌培養・合成技術により構築したオリジナルの腸内細菌脂質代謝物ライブラリーを活用し、食事由来の油に含まれるリノール酸、 α リノレン酸、 γ リノレン酸を基質とする腸内細菌脂質代謝物に特化したメタボローム解析を提供します。-----

楽天と日清食品、「完全栄養食」事業など包括的なパートナーシップ協定締結 「楽天市場」でも展開予定

マイナビニュース - 2022/5/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220511-2343267/>

アステラス製薬が唯一無二の技術「DAIMON」で目指す未来の医薬品のモノづくり

MONOist - 2022/5/10 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2205/10/news062.html>

国内製造業のさまざまな業種で取り組みが進んでいるDX（デジタルトランスフォーメーション）だが製薬業もその例外ではない。コストがかさむ新薬の開発を成功させ、それらの

高効率かつ高品質の生産を行うためにデジタル技術は欠かせない。国内大手製薬メーカーであるアステラス製薬も DX 戦略を強力に推進している。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

電通、SDGs に関する生活者調査、認知率は 8 割超で"Z 世代"は発信・消費・市民活動への参加に積極的

マイナビニュース - 2022/5/6 <https://www.mylifenews.net/data/2022/05/sdgs8z.html>

電通は、電通グループ横断で SDGs（SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟 193 カ国が 2016～30 年の 15 年間で達成するために掲げた目標。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した 17 の目標と 169 のターゲットからなる）に関するプロジェクトを推進する「電通 Team SDGs」のもと、全国 10～70 代の男女計 1400 人を対象に、第 5 回「SDGs に関する生活者調査」（以下「同調査」）を実施した。その結果、SDGs の認知率は 8 割超で、“Z 世代”は発信・消費・市民活動への参加に積極的であることがわかった。-----

日本生協連、みんなにやさしい商品についてのアンケート、買い物時に「不要な添加物が入っている」食品を避ける人が過半数に

マイライフニュース - 2022/5/7 <https://www.mylifenews.net/data/2022/05/post-113.html>

日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）は、「みんなにやさしい商品についてのアンケート」の調査を実施した。その結果、買い物時に「不要な添加物が入っている」食品を避ける人が過半数に達した。コロナ禍の内食需要増の影響では、食品保存で不便な点は「冷凍庫内でかさ張る」（67.6%）がダントツ 1 位となった。-----

「イオン、業務スーパー、オーケー」他、主力チェーン利用女性に聞く、「食品値上げ」による買い方と意識の変化

株式会社 mitoriz - 2022/5/9 <https://www.sbfield.co.jp/press/20220509-17717/>

-----。そこで今回は「食品の値上げに関する意識調査」を 2022 年 4 月 21 日～22 日に実施しました（エリア：全国、インターネットリサーチ）。特に主力チェーン利用者の「値上げに対する買い物行動と消費者意識の変化」をあぶりだすために、イオン（224 人）、業務スーパー（119 人）、マックスバリュ（106 人）、オーケー（102 人）、ライフ（98 人）を

日頃メーン利用すると回答した女性 649 人（平均年齢 46 歳）を対象に結果をまとめました。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

ニコチンアミドモノヌクレオチド経口摂取の P1 試験で高齢男性の運動機能改善－東大病院

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/9

<http://www.qlifepro.com/news/20220509/nmn-sarcopenia.html>

NMN 摂取で加齢に伴う NAD+ の低下を回復、動物実験で

東京大学医学部附属病院は 5 月 1 日、健常な高齢男性を被験者として、ニコチンアミド腺ニンジヌクレオチド (NAD+) の前駆体であるニコチンアミドモノヌクレオチド

(NMN) を経口摂取した場合に、筋力低下を始めとした老化現象に与える影響についての無作為化プラセボ対照二重盲検並行群間比較試験を行い、その結果を発表した。この研究は、同大病院糖尿病・代謝内科の五十嵐正樹助教、中川佳子医師、三浦雅臣医師、山内敏正教授の研究グループによるもの。研究成果は、「NPJ Aging」オンライン版に掲載されている。

・東京大学医学部附属病院 プレスリリース

<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/20220501.html>

食事時刻が睡眠覚醒リズムを調節することを証明、世界初－北大

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/10

<http://www.qlifepro.com/news/20220510/sleep-wake-rhythm.html>

ヒトの生物時計に対する食事スケジュールの影響は不明だった

北海道大学は 5 月 9 日、時間隔離実験により、食事時刻が睡眠覚醒リズムを調節していることを発見したと発表した。この研究は、同大学院教育学研究院の山仲勇二郎准教授と本間研一同大名誉教授の研究グループによるもの。研究成果は、「American Journal of Physiology-Regulatory, Integrative and Comparative Physiology」にオンライン公開されている。-----

・北海道大学 プレスリリース <https://www.hokudai.ac.jp/news/2022/05/post-1035.html>

AI 食事管理アプリ「あすけん」・早稲田大学時間栄養学研究室の共同研究で明らかに 昼食の野菜不足と夕食の高脂質な食事が高血圧と関連

共同研究論文が学術誌『Frontiers In Nutrition』に掲載

株式会社 asken - 2022/5/10

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000052.000058653.html>

AI 食事管理アプリ「あすけん」を開発・運営する株式会社 asken(東京都新宿区、代表取締役社長 中島洋、以下「当社」)は、早稲田大学 理工学術院 柴田重信教授の時間栄養学研究室との共同研究において、食事のナトリウム、カリウム、脂質の摂取量と血圧との関連性について調査を行い、その結果、昼食の高カリウム・高食物繊維摂取が高血圧の抑制と、夕食の高脂質摂取が高血圧の促進と関連することが明らかになりました。本調査結果は、学術誌『Frontiers In Nutrition (<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/35308273/>)』にて公開されました。-----

ビタミン E の一種であるトコトリエノールに 抗肥満効果があることを発見

芝浦工業大学 - 220523 <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002359.html>

芝浦工業大学(東京都港区ノ学長 山田 純)生命科学科・福井 浩二教授、同研究室奨励研究員・加藤 優吾氏らの研究チームは、ビタミン E の一種であるトコトリエノールに抗肥満効果があることを発見しました。

肥満およびそれに伴う様々な疾患の増加は、世界中で大きな社会問題となっています。本研究で、ビタミン E の一種であるトコトリエノールが体重増加を著しく抑制し、同時に悪玉コレステロールのレベルも低下させることが明らかになりました。今後はさらなる研究を進め、最終的には、肥満に起因した病気にかかる人の数を減らしていきたいと考えています。

【Opinion インタビュー前編】日本初の腸内細菌データが、腸と寿命の関係をひもとく

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/10 <https://wellnesslab-report.jp/1705/>

長寿や健康に大きな影響を及ぼす菌として注目を集める「腸内細菌」。40 兆個も存在するといわれる腸内細菌の種類や構造は複雑で、未解明な部分も多いとされていますが、近年、驚きの研究結果が次々に報告されています。今回は、長年、日本人の腸内細菌の研究に取り組む京都府立医科大学の内藤裕二先生に、腸内細菌の最新情報を教えていただきました。-----

【Opinion インタビュー後編】注目が高まる腸内細菌代謝物～腸活最前線～

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/13 <https://wellnesslab-report.jp/1715/>

近年、腸内細菌研究において注目を集める「腸内細菌代謝物」。口から小腸に届いた栄養を分解・吸収しエネルギーに変換して作りだすさまざまな物質で、内藤先生は、「さまざまな生存シグナルに影響を与える、いうなれば、生命共同体と位置付けられる」といいます。後編では、腸内細菌代謝物に秘められた可能性、そして、最新の腸活のポイントを伺います。-----

両親の糖摂取量が子の健康に及ぼす複雑な影響を解明 豪モナシュ大学

大洋州科学技術ニュース - 2022/5/12

https://spap.jst.go.jp/oceania/news/220502/topic_no_05.html

IL-22 と IL-18 による、免疫強化に関わる新たな回路を解明 台湾・中央研究院

大洋州科学技術ニュース - 2022/5/13

https://spap.jst.go.jp/other_asia/news/220502/topic_nt_03.html

DHA と EPA に胃の過剰収縮を抑制する効果、東邦大が確認

マイナビニュース - 2022/5/11

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220511-2343464/>

脳内ヒスタミン、一部の神経細胞に働き記憶・学習促進の可能性 名古屋市立大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/16

<http://www.qlifepro.com/news/20220516/brain-activity-2.html>

脳内ヒスタミンは覚醒状態の維持や、認知機能に関わると考えられている

名古屋市立大学は5月12日、脳内のヒスタミン量を増やす薬によって、脳活動が調節される仕組みを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科脳神経科学研究所の野村洋寄附講座教授ら、北海道大学大学院薬学研究院の南雅文教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されている。-----

・名古屋市立大学 プレスリリース <https://www.nagoya-cu.ac.jp/press-news/20220512/>

ここまで進んだ「老化制御サイエンス」

老化と腸に密接な関係、「老腸相関」を追う 京都府立医科大学・内藤裕二教授に聞く

取材・文／福島 安紀＝医療ライター 2022.5.23

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/5/23

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/051700012/>

以下の7件は、リンク DE ダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年5月7日～24日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

すべての食物繊維が等しいわけではない

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77828&lay=lay&Find.html> （2022/5/10）

食物繊維の健康上の利点は個人によって異なり、繊維の種類と摂取量に依存する可能性があるようだ、という米国スタンフォード大学からの研究報告。-----

食べる「量」と「時間」が長寿のカギ

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77841&lay=lay&Find.html> （2022/5/11）

低カロリー食、かつ活動時間帯のみに食事した者は、睡眠時間帯にも食事をした者に比べて寿命が大幅に延びることが明らかに。このことは、両者に体重差がなくても見られる現象だったという。米・テキサス大学による動物実験から。-----

うつ症状、健康的な食事で改善か

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77880&lay=lay&Find.html>

不健康な食生活を送っていたうつ病患者が、色とりどりの野菜や豆類、全粒穀物や魚介類などを豊富に摂取する食生活に切り替えたところ、うつ病の症状に有意な改善が見られたという。若年男性を対象とした豪・シドニー工科大学の研究。-----

フレイルの高齢者のより良い可動性と食事指導・定期的な運動

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77879&lay=lay&Find.html>

定期的な運動と専門家の食事アドバイスは、フレイルの高齢者の可動性の問題を減少させることに関連しているようだ、というイジエメリ大学総合病院などからの研究報告。-----

次の研究は、4月22日発信の英文記事情報（2022年4月号 No.2）で紹介済みですが、改めてご紹介いたします。

キサントガムは腸内でどのように処理されるか

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77840&-lay=lay&-Find.html> (2022/5/11)

米国ミシガン大学などの研究チームは、キサントガムを代謝する腸内細菌を同定し、それが非工業国の人々には稀であることを『ネイチャー微生物学』誌に発表した。-----

腸内の薬剤耐性菌と食事

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77884&-lay=lay&-Find.html> (2022/5/17)

健康リスクが懸念される薬剤耐性菌が腸内に少ない人は、バラエティ豊かな食生活を送っていることが明らかに。多様な食品から水溶性食物繊維を摂取することの重要性が示唆されている。米国農務省農業研究事業団の研究。-----

「長寿ダイエット」の特徴をまとめると

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77883&-lay=lay&-Find.html> (2022/5/17)

動物実験から疫学研究まで、さまざまな研究を検討することで、栄養がより長く健康的に生きるための最良の機会を提供するかをより明確に把握できる、という南カリフォルニア大学からの研究報告。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年5月6日～24日）から選定したものです。

重量挙げ五輪金メダリストの腸由来プロバイオティクスがマウスの体組成を改善し運動能を向上

<https://sndj-web.jp/news/001780.php> (2022/5/9)

オリンピックの女子重量挙げ金メダリストの腸から分離されたプロバイオティクス菌株をマウスの飼料に添加して飼育したところ、体組成が改善し運動パフォーマンスが向上したと

いうデータが発表された。著者らは、「将来的にはヒトでの検証も行うべきだ」と述べている。台湾の研究者らの報告。-----

ナトリウムで筋痙攣を防げる？ 持久系アスリートの健康やパフォーマンスと Na 摂取のレビュー

<https://sndj-web.jp/news/001787.php> (2022/5/16)

ナトリウム摂取とアスリートの健康やパフォーマンスとの関連をまとめた、ギリシャの研究者によるレビュー論文が発表された。2021年までに報告された130報の研究報告を基に、ナトリウム摂取量が多すぎる場合と少なすぎる場合の影響と、ナトリウムレベルを適切に保つための戦略について述べられている。-----

身体活動・多様な食品摂取・社会交流の3要素が要介護リスクを大きく低減 高齢者7,822名を3.6年追跡

<https://sndj-web.jp/news/001789.php> (2022/5/17)

中高強度身体活動、多様な食品摂取、社会交流行動という3つを組み合わせ実践するほど、要介護リスクが大きく低減するという研究結果が発表された。東京都健康長寿医療センター研究所の研究グループの研究によるもので、「Journal of Epidemiology」に論文が掲載されるとともに、同研究上のサイトにニュースリリースが掲載された。-----

藻類（スピルリナ、クロレラ）による運動パフォーマンス向上の可能性を探る

<https://sndj-web.jp/news/001788.php>

スピルリナやクロレラという藻類のエルゴジェニックエイドとしての可能性を検討した論文が報告された。英国の研究者らの報告であり、これらの藻類が多くの可能性を秘めていることは確かだという。ただし、それらに関する研究は緒についたばかりであり、今後より多くの研究が必要とされる段階のようだ。一部を抜粋して要旨を紹介する。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

食品中の毛髪やビニールなど0.1mmの異常を検出。アラヤ、外観検査AI装置セット提供開始

TECHABLE - 220520 <https://techable.jp/archives/178966>

株式会社アラヤ（以下、アラヤ）は、従来の検査機や AI では検出が難しかった 0.1mm 程度の異常を検出できる、外観検査用の AI ソフトとハードウェアのセット（以下、外観検査 AI 装置セット）の提供を開始しました。-----

■ その他の科学・技術情報

嗅覚情報処理が脳内のどこで、いつ行われているのかをデコーディングで解明－東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/23

<http://www qlifepro.com/news/20220523/smell-information-processing.html>

匂いによる知覚の要素は、時間的にどのような順序で生じているのか？

東京大学は 5 月 19 日、嗅覚誘発脳波に対してデコーディング・表象類似度解析を適用することにより、ヒトの嗅覚情報処理が脳内のどこで、いつ行われているのかを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院農学生命科学研究科の岡本雅子特任准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS)」オンライン版に掲載されている。-----

・東京大学大学院農学生命科学研究科・農学部 研究成果

https://www.a.u-tokyo.ac.jp/topics/topics_20220519-1.html

世界初、リソソームから薬物を取り出す輸送体を発見～新規創薬モダリティ開発への応用に期待～

大学プレスセンター - 2022/5/23 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-48201.html>

【ポイント】

機能未知リソソーム膜タンパク質 SLC46A3 が、リソソーム内の有機アニオン化合物や抗体-薬物複合体 (ADC) から産生される薬物を細胞質内へ排出することを世界で初めて同定しました。さらに本発見により、現在、乳がん治療薬として用いられる ADC、トラスツズマブ エムタンシンの作用機序の一端が明らかになりました。本知見は、新規 ADC 開発やエンドサイトーシスを介した様々な創薬モダリティの薬物送達への応用に役立つことが期待されます。-----

■ その他

メディア選択の優先度まで 見えてきた「7つの健康セグメント」を活用したマーケティング戦略

ウェルネス総研オンライン - 2022/5/10 <https://wellnesslab-report.jp/1717/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代、約4600名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.2』を2022年5月31日に刊行します。Vol.2ではVol.1に続き生活者を「7つの健康セグメント」に分け、Vol.1からさらに細分化した「健康情報源」の解析と、新しいテーマとして「トレンドワード」と「三大栄養素」を追加しています。本調査の設計、調査、分析を行ったウェルネス総合研究所の首席アナリストである青木健氏と白井俊行氏に、調査を重ねることで分かった新たな発見や活用法についてうかがいました。-----

自社研究と外部リソースの活用について製薬企業の研究者が考えていること | コラム：現場的にどうでしょう

AnswersNews - 2022/5/19 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/23193/>

4月18日にAnswersNewsに掲載された「重要性増す『エクスターナル・リサーチ』…ニッポンの創薬研究はどこへ向かうのか—Axcelead DDP・池浦社長に聞く」の記事を興味深く読みました。記事の中身は創薬支援サービスを手掛ける側の視点で語られたものですが、製薬企業で創薬研究に携わる者としては色々と思うところがあり、今回はエクスターナル・リサーチとインターナル・リサーチという観点から、日本の創薬研究の近未来について考えてみたいと思います。もちろん、これから書くことはあくまで私個人の考えであり、アクセリードさんの考えを否定するものではないことはあらかじめお断りしておきます。

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年6月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

米国、サプリの事前登録求める法案提出 業界で賛否分かれる CRN「賛成」 NPA「反対」

健康メディア.com - 2022/6/2 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16316

米国の Dick Durbin 上院議員は 4 月 26 日、Mike Braun 上院議員とともに、栄養補助食品の製造業者に FDA へ「必須製品リスト」の提出を求める法案を提出した。

法案では製造業者に対し、全ての製品名、成分、ラベルの画像などの情報の提出を販売前に求めるとしている。

法案が成立すれば、サプリメントに問題が生じた場合、米国食品医薬品局（FDA）は同じ成分を含む他の製品を確認し、消費者に警告することができる。-----

消費行動の基準にも、狙い目は Z 世代（特集／SDGs）

健康メディア.com - 2022/5/30 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16300

国内外で SDGs（Sustainable Development Goals／持続可能な開発目標）の波が広がっている。欧米では、SDGs 貢献が企業間の取引や、投資家が企業価値を見定める基準となっている。日本でも、その認知度は 8 割を超え、実際に商品の購入動機やサービスの利用意向に繋がる例も。特に 15～25 歳のいわゆる Z 世代は、その傾向が強いようだ。こうした中、SDGs への貢献を考える健食メーカーも少なくない。商品を開発する際の原料選択の基準とまでは至っていないが、包装や容器の見直しや、クリーンエネルギーに取り組む例が増加。

コロナ禍で若年層の健康意識も高まったこともあり、SDGs をマーケティングに取り入れる企業も見受けられる。-----

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年6月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2494>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2493>

素材情報データベース（新規） 6月7日正午時点では、ありませんでした。

2022年5月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2481>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2480>

素材情報データベース（新規） 5月はありませんでした。

食品安全情報（化学物質）No.11（2022.05.25）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202211c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

リップサ株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2022/5/24 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/028704/>

消費者庁は、本日、リップサ株式会社に対し、同社が供給する「ラクトフェリン濃縮物加工食品」と称する食品に係る表示について、消費者庁及び公正取引委員会(公正取引委員会事務総局九州事務所)の調査の結果を踏まえ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

沖縄特産販売株式会社に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2022/6/1 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/028836/>

消費者庁は、沖縄特産販売株式会社に対し、同社が供給する「養力珪素」と称する食品に係る表示について、消費者庁及び内閣府沖縄総合事務局の調査の結果を踏まえ、景品表示法に違反する行為(同法第5条第1号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第7条第1項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

第100回コーデックス連絡協議会（開催案内）

厚生労働省 - 2022/5/24 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_25708.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和4年6月14日（火曜日）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第100回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、今回は、ウェブ上での傍聴を受け付けます。-----

食物アレルギー表示制度に関する実態調査業務調査報告書を公表しました。

消費者庁 - 2022/6/7

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2021/assets/food_labeling_cms204_20220607_01.pdf

令和3年度食物アレルギーに関連する食品表示に関する調査研究事業報告書を掲載しました。

消費者庁 - 2022/6/7

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/food_sanitation/allergy/assets/food_labeling_cms204_220601_01.pdf

■ 海外公的機関情報

2023年1月1日から包装材に鉱物油の使用禁止（フランス）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/5/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/05/35108f752ec762d9.html>

英政府、農業食品の遺伝子編集研究促進に向け法案提出（英国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/6/1

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/aa7c017c4b22c088.html>

以下の9件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/6/2 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

- [1. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品包装での特定のフタル酸エステル類の使用を制限し、最新の食品接触材料用途及び安全性に関する情報提供依頼\(RFI\)を公表](#)
- [2. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品と接触する材料および製品におけるプラスチックとして使用される可能性のあるフタル酸エステル類、構造類似物質および代替物質のリスク評価のための化合物の同定と優先順位付けに関する科学的意見書を公表](#)
- [3. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品と接触する材料および製品におけるプラスチックとして使用される可能性のあるフタル酸エステル類、構造類似物質および代替物質のリスク評価の一環としてのばく露評価のプロトコルに関する技術的報告書を公表](#)
- [13. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品添加物としてのポリグリセリン脂肪酸エステル類\(E475\)の再評価のフォローアップに関する科学的意見書を公表](#)
- [14. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、酵素により生産されるステビオール配糖体\(E960c\):ステビア葉の精製抽出物を酵素による生物変換で産生したレバウジオシドDの規格の改正案の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- [17. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての大腸菌 BL21 \(DE3\)誘導株により生産されるラクト-N-テトラオースの安全性に関する科学的意見書を公表](#)
- [25. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのヨーロッパイエコオロギ\(Acheta domesticus\)の部分脱脂粉末の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

[26. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、第三国由来伝統的食品としての *Canarium ovatum* Engl.の堅果に関する通知についてテクニカルレポートを公表](#)

[42. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、色素添加物証明書免除リストに南極オキアミミールを追加する最終規則を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、H・Bフーズの国内市場、2021年市場見込は2兆5507億円で2020年比3.4%増に、生活習慣病予防や栄養バランスなどが続伸

マイライフニュース - 2022/6/3

<https://www.mylifenews.net/data/2022/06/hb202125507202034.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の流行を受け、需要が変化する健康志向食品（明らか食品・ドリンク類）と機能志向食品（サプリメント）を対象としたH・Bフーズの国内市場を総括した。生活習慣病予防や栄養バランスなど訴求効能別で市場を捉えたほか、ストレス緩和や睡眠サポートなどのコンセプト別や形状別、チャネル別など横断的に分析した。また、パーソナライズが進むサプリメントや、食生活の改善、食の行動変容につなげるために運用、活用されている検査サービスの動向についても明らかにし、その結果を「H・Bフーズマーケティング便覧 2022 総括・パーソナライズ編にまとめた。-----

富士経済、27 カテゴリー408品目の加工食品の国内市場調査、新型コロナの影響による減少から2021年以降拡大も2019年の規模まで回復せず

マイライフニュース - 2022/6/2

<https://www.mylifenews.net/data/2022/06/2740820212019.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、2021年7月から6回に分けて行ってきた27 カテゴリー408品目の加工食品の市場調査結果を総括・分析した。その結果を「2022年食品マーケティング便覧 総市場分析編」にまとめた。その結果、新型コロナの影響による減少から2021年以降拡大も、2019年の規模まで回復しないことがわかった。-----

地域インフラとなった DgS、次の一手は「機能性表示食品」（連載／話題追跡）

健康メディア.com - 2022/5/31 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16307

ドラッグストア（DgS）の健食販売が好調だ。4月28日付「商業動態統計速報」（経産省）によると、健康食品の売上は前年度比3.2%増の2,322億円と7年連続で拡大。一般食料品の売場拡大に伴い健康食品の売上も引き上げられている。主要チェーン各社では、売上増を背景に新規出店や食品拡充などを積極的に行っており、さらなる業容拡大を狙う。（一社）日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）では、DgS市場について2025年10兆円産業化を視野に入れており、セルフメディケーション領域を重点施策に機能性表示食品の実証実験なども進行中だ。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

中性脂肪抑制、アイケア、脳機能改善ほか新ヘルスクレームも(特集／DHA・EPA)

健康メディア.com - 2022/5/25 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16196

DHA・EPAの市場拡大が続いている。米国EPA・DHAオメガ3業界団体Global Organization for EPA and DHA (GOED)によると、2020年の世界市場規模は14億9,000万ドル（前年比3.6%増）。国内では2021年度、前年度の31品を上回る49品が新たに機能性表示食品として受理された。医薬品やトクホなどの実績を背景に、健食素材でも群を抜いた論文数を誇るDHA・EPAは、中性脂肪抑制、アイケア、脳機能改善など代表的なヘルスクレームを中心に、素材の機能が明確な点がアドバンテージに。末梢体温やレム睡眠などに着目した新たなヘルスクレームの届出受理や、スポーツニュートリション、美肌、抗メタボ市場へのアプローチも進んでいる。-----

プロテイン、2ケタ成長続く (特集／スポーツニュートリション)

健康メディア.com - 2022/5/27

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16292

国民の健康意識の高まりに加え、コロナ禍での運動不足や巣ごもり太りなどから、運動意欲に対する関心は高い。原料サプライヤー、販売メーカーでは、アスリートだけでなく、スポーツ愛好家や健康美を望む女性、アクティブシニアなど、ライトユーザーの需要に応えた素材研究・商品開発に注力している。なかでもプロテインは人気で、ユーザーの裾野が広がり、ブームから定番アイテムに定着。粉末品は2ケタ増の成長率で推移しており、粉末品の市場は700億円台もみえてきた。また近年は、市場の将来性を見据え、eスポーツ分野に提案を進める事業者も目立つ。-----

血流改善・温活サポート市場、成長続く（特集／血流改善サポート）

健康メディア.com - 2022/6/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16311

年齢はもとより、栄養バランスの偏った食事や運動不足、不規則な睡眠時間、喫煙、過度なストレス——など、生活習慣の乱れに起因する生活習慣病と密接な関係がある血管・血流の健康に注目が集まっている。血管の健康が低下することは、血流の停滞を生み、生命活動を支える免疫系や代謝系にまで悪影響を及ぼす。こうした中、血流改善をサポートする商材へのニーズは年々高まりを見せている。-----

【マーケット】4つの次世代プラントベースたんぱく質： FoodNavigator-USA ウェビナー

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/27 <https://wellnesslab-report.jp/1819/>

ポンガミア、ヘンプ、オオムギ、ヒヨコマメの4つが、次世代のプラントベースたんぱく質として熱い視線を浴びているという。FoodNavigator-USAのウェビナー「Plant-based protein in focus」で、パネリストらが紹介した。

これからのプラントベースたんぱく質開発事業では、たんぱく質含有量や機能性の増大を実現することが新しい機会への扉を開けるカギになるという。-----

【サイエンス】ポストバイオティクス研究がブーム

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/27 <https://wellnesslab-report.jp/1816/>

ポストバイオティクスの研究は目覚ましい勢いで進んでいる。腸内の善玉細菌を利用するのがプロバイオティクス、それを増やすのがプレバイオティクスであり、現在、最も熱い視線を浴びているのがポストバイオティクスだ。これは、腸内細菌の代謝産物を利用して、心身の健康をサポートしようとするものである。論文、論説などさまざまな文献、資料を検索するサービス、Google Scholarに収められているポストバイオティクス関連の論文（2022年3月時点）のほぼ半分は2021年以降に発表されたものだという。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は特に見当たりませんでした。

■ 消費者意識等の調査・分析

【腸活と発酵食品に関する調査 2022】『腸活』のために食生活へ今後新たに取り入れたい発酵食品・発酵調味料 TOP3 に「塩こうじ」がランクイン！～ 腸活と発酵食品に関する調査 2022～

ハナマルキ株式会社 - 2022/5/17

<https://www.hanamaruki.co.jp/news/2022051714363.html>

ハナマルキ株式会社（本社：長野県伊那市、代表取締役社長 花岡俊夫）は、2022年4月6日～4月7日の2日間、15歳～69歳の女性を対象に「腸活と発酵食品に関する調査 2022」を実施し、1,000名の有効サンプルを集計しました。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）-----

コロナ流行後の冷凍食品の利用に関する自主調査（2022年2月調査）

株式会社日本リサーチセンター - 2022/6/6 <https://www.nrc.co.jp/report/220606.html>

株式会社日本リサーチセンター（本社：東京都墨田区、代表取締役社長 杉原 領治）は、市場調査、世論調査、海外調査を数多く手がけております。

今回、コロナ流行後の冷凍食品の利用実態・意識、利用頻度変化、利用が増えた理由などを把握することを目的として、自主調査を実施致しました。本調査で利用した「NOS」（ノス：日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ）は、全国15～79歳の方1,200名を対象に定期実施している乗り合い方式の訪問留置調査です。アンケートモニターやWeb調査ではなく、広く一般生活者に依頼し、「全国の縮図」になるようにデータ収集しており、「リアル」な結果をご覧ください。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

老化した腹腔細胞を回復させると、低下した認知機能も改善 東邦大学など

大学ジャーナルオンライン - 2022/5/25 <https://univ-journal.jp/161701/>

東邦大学、京都大学、立命館大学らの研究グループは、腹部内腔に存在する腹腔細胞の老化を改善することが、認知機能の老化の改善につながることを明らかにした。

研究グループの発表によると、免疫細胞の遊走を制御するケモカインの一つ「CX3CL1」を高年齢マウスの腹腔に投与すると、老化によって変化した腹腔細胞の性質が部分的に回復すると同時に、老化した認知機能が改善したという。-----

インスリン分泌を促進する新たな因子の発見

国立大学法人群馬大学 - 2022/5/24 <https://www.gunma-u.ac.jp/information/131286>

今回、細胞構造分野の三枝慶子 研究員（現職 群馬医療福祉大学講師）、佐藤健 教授らの研究グループと遺伝生化学分野の泉哲郎 教授、松永耕一 助教は、秋田大学医学部との共同で、血糖値を低下させる作用のある内分泌ホルモン的一种、インスリンが細胞外に分泌される際に働く新規因子として Surf4 というタンパク質を同定し、この因子が細胞内の小胞体というところからインスリンの元となる前駆体タンパク質（プロインスリン）を効率的に運び出すことがインスリンの分泌に必須であることを明らかにしました。-----

米糠由来フェルラ酸の機能性に関する研究成果を論文発表 – 築野食品工業株式会社 | 公式企業サイト (tsuno.co.jp)

築野グループ株式会社 - 2022/5/17

築野グループ株式会社（本社：和歌山県伊都郡 代表取締役社長 築野富美 <https://www.tsuno.co.jp/>）は米糠由来フェルラ酸の美容機能性に関する研究成果を論文で発表し、その内容が学術誌「応用薬理」に掲載されました。-----

大麦摂取による脂質代謝改善効果には個人差 機械学習により効果が期待できる人の腸内細菌叢も明らかに -200名規模の腸内環境コホート調査-

株式会社はくばく - 2022/6/7

[hakubaku【news-release】20220607 大麦摂取による脂質代謝改善効果の個人差には腸内細菌が関係.pdf](#)

穀物のリーディングカンパニー株式会社はくばく（本社：山梨県中央市、代表取締役社長：長澤 重俊）は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所ワクチン・アジュバント研究センターの國澤純センター長（ヘルス・メディカル連携研究センター併任）および山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座山縣然太郎教授との共同研究により、大麦摂取による脂質異常症リスク低減効果が期待できる人、期待できない人が存在する「個人差」に、腸内細菌が関係していることを明らかにしました。さらに、大麦摂取による脂質異常症リスク低減効果が得られる人を腸内細菌から予測する、機械学習を用いたモデルを構築することに成功しました。

構築したレスポンス予測モデルは、脂質異常症に対する大麦の効果の有無を腸内細菌の組成から事前に予測し、パーソナライズされた食事指導戦略を立てるなど新しい栄養指導方法として将来的につなげていくことが今後期待できます。

本研究成果は2022年3月24日、科学雑誌『Frontiers in Nutrition』(Front Nutr. 2022 Mar 24;9:812469)に掲載されました。-----

「タンパク質」は筋肉の領域を超えてヒトの心身を維持する唯一無二の栄養素【前編】

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/27 <https://wellnesslab-report.jp/1831/>

近年、タンパク質の市場は伸び続けています。その注目の背景にあるのは、タンパク質の捉え方の変化です。従来の筋肉を維持増進するために必要なものという考え方から、免疫や脳、神経や細胞などヒトの身体の根本として隅々で多くの機能を左右する重要な栄養素であるという考え方へと変わってきました。そんなタンパク質の正しい知識について、立命館大学スポーツ健康科学部の藤田 聡教授に伺いました。-----

「良質なタンパク質」の選び方+効率を上げる取り入れ方を押さえる！【後編】

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/31 <https://wellnesslab-report.jp/1847/>

筋肉合成の枠を超えて生理活性に欠かせないタンパク質を取り入れるには、良質なタンパク質を見極め、効率の良いタイミングや方法で摂取することが必要です。食事で摂ったタンパク質の5割は小腸で利用されるという現実や必須アミノ酸の中で注目しているロイシン、推奨するタンパク質の取り入れ方について、前編に続き、立命館大学スポーツ健康科学部の藤田 聡教授に伺いました。-----

食の果てしない可能性を活かすために必要な“木を見て森を見る”視点

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/26 <https://wellnesslab-report.jp/1822/>

栄養素や成分についての研究が進む中、「〇〇さえ摂れば健康でいられる」と思わせられるような研究発表やメディアの喧伝も少なくありません。そうした視点は「木を見て森を見ず」、つまり体内で栄養が代謝されて人体に関与する気が遠くなるような複雑な化学反応の全体を見ることなく部分だけを取り出して突き詰める「リダクショニズム(細分主義)」であり、その結果、栄養と健康・医療について最も大切なことが抜け落ちてしまっていると警鐘を鳴らし、その背景にある栄養学界や医学界の仕組みにまで踏み込んだ大著が『WHOLEがんとあらゆる生活習慣病を予防する最先端栄養学』(T・コリン・キャンベル著 鈴木晴恵監修 丸山清志訳/ユサブル社)です。-----

科学的に証明された「100 年脳トレ」で脳に良いライフスタイルがわかる

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/5/26 <https://wellnesslab-report.jp/1826/>

“人生 120 歳時代”を迎えると言われる中、長生きが幸せなものになるかどうかを分けるのは、いつまで心身ともに健康でいられるかどうかでしょう。どうすれば「よぼよぼ」ではなく「はつらつ」と老いることができるのか。衰えは浦島太郎の玉手箱のように突然訪れるのではなく、無数の細流が集まりやがて巨大な流れになるアマゾン川のように、小さな流れが集まって脳に作用した結果であること。そして、どんな「小さな流れ」が脳に作用するかを一つひとつ、査読済みの科学論文をもとに解説したのが『ブレイン・ルール』（ジョン・メディナ博士著 野中香方子訳／東洋経済新報社）です。-----

腸内細菌が作る低酸素環境で、独特な腸炎抑制細胞が誘導維持されると発見－慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/30 <http://www qlifepro.com/news/20220530/dpiel.html>

腸管上皮ユニークな炎症抑制細胞 DPIEL、発生維持の仕組みは？

慶應義塾大学は 5 月 27 日、小腸の上皮直下に存在する免疫細胞が、腸内細菌によって形成される低酸素環境に適応することで誘導維持されることを発見したと発表した。この研究は、同大医学部内科学教室（消化器）の原田洋輔特任助教、内視鏡センターの筋野智久専任講師、内科学教室（消化器）の金井隆典教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」に掲載されている。-----

慶應義塾大学 プレスリリース

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2022/5/27/28-124077/>

運動能力に関わる腱細胞メカノセンサーを発見、健康寿命増進へ期待－東京医歯大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/6/3

<http://www qlifepro.com/news/20220603/mechanosensor.html>

腱や靭帯組織の維持機構における PIEZO1 の役割とは

東京医科歯科大学は 6 月 2 日、機械刺激応答性カルシウムチャネルである PIEZO1 を腱細胞のみで恒常活性させることで、個体のジャンプ力・走行速度といった運動能力が向上することを見出したと発表した。この研究は、同大大学院医歯学総合研究科システム発生・再生医学分野の浅原弘嗣教授、中道亮非常勤講師、スクリプス研究所、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の福典之先任准教授、北海道大学大学院先端生命科学研究院の野々山貴

行准教授、広島大学、英ブライトン大学、ジャマイカの National Commission on Science and Technology、岡山大学の共同研究グループによるもの。研究成果は、「Science Translational Medicine」にオンライン掲載されている。-----

東京医科歯科大学 プレスリリース (2022/6/2)

<https://www.tmd.ac.jp/press-release/20220602-1/>

AI を活用し、言語を使わず「認知機能低下」を検出するツールを開発、世界初ー筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2022/6/3

<http://www qlifepro.com/news/20220603/cognitive-decline.html>

認知機能検査は「利用できる人が限定的」という問題があった

筑波大学は6月2日、高齢者自身が気軽に実施でき、国や地域に関わらず利用可能な、言語を用いた回答を必要としない、認知機能低下検出のための新しいツールを開発したと発表した。この研究は、同大医学医療系 新井哲明教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「JMIR Formative Research」に掲載されている。-----

筑波大学 TSUKUBA JOURNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/pdf/p20220602141500.pdf>

ヤグルマギクにシミ抑制に関わる真皮の「SDF-1」を増やす効果を発見

第75回日本酸化ストレス学会学術集会にて発表

ノエビアグループ - 2022/5/30 https://www.noevir.co.jp/new/ir_info/pdf/per52/220530.pdf

ノエビアグループではシミ研究を重ね、真皮線維芽細胞に存在するタンパク質「SDF-1」がシミの発生に関わる重要因子「MITF 177I-I7」を減少させる効果を発見するとともに、ヤグルマギクの花から抽出したエキスに「SDF-1」を増やす効果があることを明らかにしました。この研究成果の一部を2022年5月25日~26日に開催された「第75回日本酸化ストレス学会学術集会」にて発表いたしました。-----

以下の3件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年5月26日-6月8日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

でんぷん質の野菜は、非でんぷん質の野菜と同様の栄養を提供する？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=77952&-lay=lay&-Find.html> (220526)

でんぷん質の野菜を非でんぷん質の野菜と分けて、栄養価の低い食品に分類するという栄養学研究の傾向は間違っている、という米国ワシントン大学などからの研究報告。-----

セリアック病患者のための穀物、オーツ麦に可能性

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77971&lay=lay&Find.html> (2022/5/31)

オーツ麦のゲノムが解読され、この人気のある穀物がセリアック病やグルテン不耐症のほとんどの人に適している理由が説明された。独ヘルムホルツセンターミュンヘンなどからの報告。-----

プロテインサプリは血糖コントロールに役立つ？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=77995&lay=lay&Find.html> (2022/6/2)

少量のホエイたんぱく質を食事の前に飲むと、2型糖尿病の人が血糖値をコントロールするのに役立つかもしれない、という英国ニューカッスル大学からの研究報告。-----

以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年5月26日-6月8日）から選定したものです。

ウシ初乳やグルタミンなどのサプリが、運動に伴う腸のダメージを抑制する 系統的レビュー

<https://sndj-web.jp/news/001796.php> 2022/5/25

持久系スポーツでしばしばアスリートを悩ませる競技中の消化器症状を、ウシ初乳やグルタミンといったサプリメントが抑制する可能性が、システマティックレビューの結果として示された。プロバイオティクスにもその効果が一部認められるが、固有の菌株、投与量、投与期間に限られると考えられるという。-----

グリコーゲン回復に必要な炭水化物量は？ 国立スポーツ科学センターなどが日本人男性で検討

<https://sndj-web.jp/news/001800.php> (2022/5/30)

運動によるグリコーゲン枯渇からの回復促進には、炭水化物をどの程度摂取すべきなのだろうか？この疑問の答を得るため、被験者に体重あたり5g、7g、10gという異なる量の炭水化物を摂取してもらい、炭素磁気共鳴分光法で筋グリコーゲン濃度を比較するという研究

が行われた。国立スポーツ科学センターの元永恵子氏らの研究によるもので、「Nutrients」に論文が掲載された。-----

断続的断食とケトン食の効果は？ アスリートの健康とパフォーマンスに対するエビデンスの現状

<https://sndj-web.jp/news/001803.php> (2022/5/31)

断続的断食やケトン産生食によるアスリートの健康やパフォーマンスへの影響を、システマティックレビューで検討した結果が報告された。断続的断食に関しては、健康への一定程度のエビデンスが確認されたが、ケトン産生食に関してはコンセンサスの形成を得られるエビデンスは得られなかったという。スペインの研究者らの報告。-----

スポーツ栄養におけるアントシアニンが豊富なサプリメントのエビデンス

<https://sndj-web.jp/news/001804.php> (2022/6/1)

色の濃い果物やベリーに豊富に含まれているポリフェノールであるアントシアニンの機能性を、スポーツパフォーマンスの視点からレビューした、英国の研究者による論文が発表された。アントシアニンが豊富なニュージーランド産のブラックカラント（カシス、クロスグリ）の抽出物を用いた大半の研究で、スポーツパフォーマンスへの有意な効果が報告されているという。要旨を紹介する。-----

階段を上るのに苦労している高齢者は、リノール酸の摂取量が不足しているのかもしれない

<https://sndj-web.jp/news/001807.php> 2022/6/4

高齢者のリノール酸摂取量と身体機能との関連が米国から報告された。リノール酸の摂取量が推奨量の85%未満の高齢者は、交絡因子を調整後も、階段を上れない、または上るのに苦労すると答えた割合が有意に高いという。著者は、高齢者の栄養指導にあたる栄養士は、リノール酸の摂取量も評価すべきではないかと述べている。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

日本人成人の「食品摂取量」推定に役立つ食品画像データベースを構築 -東大

QLifePro 医療ニュース - 2022/5/31

<http://www.qlifepro.com/news/20220531/food-intake.html>

日本人の食事摂取状況を反映した網羅的な食品画像データベースは存在しなかった

東京大学は5月30日、日本人成人644人の詳細な食事記録データをもとに、日本人が日常的によく食べる食品の種類と量を示した画像データベースを構築したと発表した。この研究は、同大学院医学系研究科社会予防疫学分野の篠崎奈々客員研究員、村上健太郎助教、佐々木敏教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載されている。

東京大学大学院医学系研究科・医学部 広報・プレスリリース - 2022/5/30

https://www.m.u-tokyo.ac.jp/news/PR/2022/release_20220530.pdf

【プレスリリース】東栄新薬がアガリクスの主成分β-グルカンの測定方法に関する特許を取得

東栄新薬株式会社 - 2022/5/30 <https://toeishinyaku.com/topics/2022-5-13/>

東栄新薬がアガリクスの主成分β-グルカンの測定方法に関する特許を取得 真菌症の診断やサプリメントのβ-グルカン含有量測定などに有用

東栄新薬株式会社(所在地：東京都三鷹市、代表取締役：元井 章智)は、東京薬科大学薬学部免疫学教室と共同で行った、当社の露地栽培アガリクス KA21 株(以下、アガリクス KA21)に関する研究成果として、アガリクスの主成分であるβ-グルカン(ベータグルカン)の測定方法を確立いたしました。今回、この研究成果を受けて「β-1,6-グルカナーゼ変異体とβ-1,6-グルカンの測定方法」として特許登録が行われましたことをご報告いたします。-----

魚の培養脂肪で美味しい代替肉、日本人研究員が開発（シンガポール）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/5/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/05/c4d26d8665ca00d2.html>

■ その他の科学・技術情報

ペプチドと RNA の出会いが生命を生んだ？ —実験室での生命誕生過程の再現に向けて—

理化学研究所 - 2022/6/3 https://www.riken.jp/press/2022/20220603_1/index.html

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター高機能生体分子開発チームの李佩瑩（リ・ペエイ）研究員、田上俊輔チームリーダーらの国際共同研究チームは、正電荷を持つペプチド凝集体が RNA を吸着し、RNA 酵素による RNA 合成反応を促進することを発見しました。

本研究成果は、単純なペプチドによって RNA の濃縮・複製が促進されることを示しており、太古の地球でこれらの分子種を含む生命がどのように誕生したのかを解明するための重要な手掛かりとなると期待できます。----

食品等小型の検査対象の異物除去／不良品選別に最適化した「TESRAY G シリーズ」を新たに、AI 技術を活用した外観検査ソリューションの TESRAY に追加

食品/農作物等の小型で大量に処理が必要な検査対象をリアルタイムで AI による柔軟な検査をすることが可能

株式会社ロビット - 2022/5/25

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000022.000020284.html>

AI 技術をロボティクスに実装し社会課題の解決を進める株式会社ロビット（代表取締役：新井雅海 所在地：東京都板橋区）は、AI 外観検査ソリューション「TESRAY」に食品等小型物体の異物除去／不良品選別に最適化した「TESRAY G シリーズ」を新たに追加したことを発表いたします。-----

凸版印刷ら、リアルタイム AI 技術の研究開始。工場 DX や生体データ活用のサービス開発を目指す

TECHABLE - 2022/5/30 <https://techable.jp/archives/179578>

凸版印刷株式会社（以下、凸版印刷）は、大阪大学産業科学研究所（以下、産業科学研究所）が研究を進める「リアルタイム AI 技術」の社会実装に向けた共同研究を開始。-----

DNA のヒドロキシメチル化レベルの簡便な測定手法を開発--がんや中枢神経疾患の診断への応用に期待--東京工科大学応用生物学部

財経新聞 - 2022/6/6 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1686866/>

東京工科大学（東京都八王子市、学長：大山恭弘）応用生物学部の吉田亘准教授と松井徹教授らの研究グループは、がんや中枢神経疾患のバイオマーカーとして期待される、ゲノム DNA のヒドロキシメチル化レベルを、試薬を混合するだけで簡便かつ迅速に測定できる方法を開発しました。-----

資生堂の福岡新工場が竣工 - IoT と人の感性で実現した高効率化と高品質化

マイナビニュース - 2022/5/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220607-2360979/>

■ その他

健康食品とAI（連載／オピニオン）

健康メディア.com - 2022/5/27

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16288

AI という言葉の初出は 1956 年というから結構古い。それが出てくるフィクション映画なども、思い当たるものがいくつもある。それが今や社会に実装され、我々に身近なものとなっている。

棚割りを AI で行う企業もある。インフォマグループの米国業界誌 NBJ が、AI を用いて何千もの化合物からサプリメントに適した成分を見つける企業を紹介していた。-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022 年 6 月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

厚生労働省、健康被害情報の公開へ 健康食品への風評被害の懸念も

マイナビニュース - 2022/6/15

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220615-2369127/>

超加工食品は有害か？ 専門家が証拠を比較検討する

リンク DE ダイエット - 2022/6/13（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.6.13, EurekAlert より:

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=78074&lay=lay&Find.html>

食事ガイドラインは、世界中の栄養に関するアドバイスと規制の基礎を形成している。ほとんどの既存のガイドラインには強力な科学的コンセンサスがあるが、最近、ある質問が議論を巻き起こした：消費者は超加工食品を避けるように警告されるべきか？ 最近 AJCN 誌に発表された2つの論文が、従来の食品分類システムを超えた超加工食品の概念の使用について、賛否両論を概説している。-----

食品安全情報 blog - 2022/6/9

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/06/09/183622>

[EFSA]カンナビジオールの新規食品評価、新しいデータが出るまで 保留

6月9日分の黒太字の見出しとしては、上から3番目になります。以降、関連情報がいくつか掲載されています。

[IARC]IARC モノグラフ会合-134 巻発表

国際がん研究機関 (IARC) によるリスク評価。対象はアスパルテーム、メチルオイゲノール、イソオイゲノール。6月9日分の黒太字の見出しとしては、かなり下の方にあります。

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022年6月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2494>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2493>

素材情報データベース (新規) 6月21日正午時点では、ありませんでした。

2022年5月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2481>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2480>

素材情報データベース (新規) 5月はありませんでした。

食品安全情報 (化学物質) No. 12/ 2022 (2022. 06. 08)

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202212c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

[EFSA]意見等

-新規食品としてのビタミンDキノコ粉末の安全性

食品安全情報 blog2 - 2022/6/14

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/06/14/180134>

6月14日分の一番上の見出しです。

■ 不適切な表示、販売など (行政機関情報、その他)

医薬品成分を含有する製品による健康被害（疑い）の発生について

厚生労働省 - 2022/6/7 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_26097.html

本日、兵庫県西宮市及び千葉県千葉市から、別添 1 及び別添 2 のとおり記者発表を行った旨の連絡がありましたので、お知らせいたします。

当該製品を摂取すると健康被害が起こるおそれがあるため、摂取している方は直ちに摂取を中止し、健康被害が疑われる場合には速やかに医療機関を受診するとともに、最寄りの保健所にご連絡ください。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

「特定保健用食品の表示許可等について」の一部改正案に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/6/8

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080066&Mode=0](https://www.gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=235080066&Mode=0)

令和 3 年度 特定保健用食品の疾病リスク低減表示に係る調査・検討事業 調査報告書

消費者庁 - 2022/6/8

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2021/assets/food_labeling_cms206_20220608_01.pdf

■ 海外公的機関情報

以下の 5 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/6/15 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

1. [米国環境保護庁\(EPA\)、パーフルオロブタン酸\(PFBA\)及び関連塩類の IRIS 毒性評価草案に関する外部パネルピアレビュー報告最終版を公表](#)
2. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、新たなダイエタリーサプリメント教育イニシアチブの開始について公表](#)

5. [英国毒性委員会\(COT\)、乳幼児に与えられる調製乳におけるビタミンDばく露レベルに関する意見書の初稿を公表 \(2022年5月11日\)](#)

21. [世界保健機関\(WHO\)、JECFAによる特定の食品添加物の安全性評価\(WHO食品添加物シリーズ80\)を公表](#)

22. [世界保健機関\(WHO\)、JECFAによる特定の食品添加物の安全性評価\(WHO食品添加物シリーズ83\)を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

【告知】業界時事ウェビナー「エイジングケアとサプリメントの現状」—ポストコロナ時代、サプリ業界に今、求められることは？

健康メディア.com - 2022/6/14

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16342

インフォーママーズジャパンと三菱商事ライフサイエンス(株)（東京都千代田区）は7月22日、業界時事ウェビナー「エイジングケアとサプリメントの現状—ポストコロナ時代、サプリ業界に今、求められることは？」を共同開催する。

参加費は無料、定員は先着500人。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

特有成分に脚光 機能性表示受理も（特集／注目のキノコ素材）

健康メディア.com - 2022/6/10 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16334

アガリクス、タモギダケ、冬虫夏草、霊芝、ヤマブシタケ、ハナビラタケなど健食・サプリに活用されるキノコは、多種多様だ。キノコにはβ-グルカンをはじめ、食物繊維、ビタミンDが豊富に含まれており、免疫賦活、整腸、美肌などが訴求されるケースが多い。最近では、エルゴチオネインやナトリドなど特有成分に着目した研究が進展。脳機能、フェムケア分野でのエビデンスを蓄積し、他素材と差別化した提案が加速している。機能性表示食品分野ではタモギダケ、エノキタケ、白雪茸由来成分の活用が進み、脳機能改善、肝機能改善、整腸、体脂肪減少に関する届出が受理されている。-----

メタボ関連サブリ市場、2,400 億円規模へ 機能性表示食品も 2,300 品超 (特集／抗肥満・抗メタボ)

健康メディア.com - 2022/6/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16338

食生活の乱れや運動不足を招いた新型コロナウイルスの感染拡大。2019年12月に中国武漢で報告されてから約2年半が経過し、長引く感染下で国民の肥満化が進んでいる。タニタがこのほど実施したアンケート調査では、3人に1人の割合で体重が増加していることがわかった。特に10代などの若年層でも体重増加率が35%を超え、年齢を問わず“コロナ太り”がまん延している状態だ。また、日本生活習慣病予防協会が実施したアンケート調査でも、糖尿病診断の重要数値であるHbA1cについて、コロナ禍で悪化していることが報告されており、メタボ人口の増加リスクは確実に高まっていることがわかる。こうした背景もあり、健康食品市場でもとりわけ肥満・メタボ領域対策商品の販売は好調で、機能性表示食品でも総受理数の約半数が関連商品になるなど活発だ。-----

関節・美容系で伸長、SDGsの認知拡大も コロナ禍でもサブリ・コスメで採用拡大(特集／プロテオグリカン)

健康メディア.com - 2022/6/14 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16365

関節系サプリを中心にプロテオグリカンの採用が拡大している。原料は、北海道産サケ鼻軟骨由来を中心に、サメ軟骨、イカ軟骨由来などが流通。関節・美容系のデータが豊富なだけでなく、体感性の高さや、SDGs対応素材としても評価され、コロナ禍においても市場拡大が継続している。機能性表示食品では、新たなヘルスクレームも登場し、プロテオグリカンを関与成分とする機能性表示食品は、昨年の47品目から80品目(5月末時点)と急増している。-----

Webセミナー

「～ウェルネストレンド白書 Vol.2 発刊記念～ 7つの健康セグメントから紐解く マーケティング成功のヒント」レポート

ウェルネス総研レポート - 2022/6/14 <https://wellnesslab-report.jp/1888/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代、約4,600名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストレンド白書 Vol.2』を2022年5月31日(火)に刊行しました。この白書の発刊に伴い、Webセミナー「～ウェルネストレンド白書 Vol.2 発刊記念～ 7つの健康セグメントから紐解く マーケティング成功のヒント」を6月3日(木)に開催。白書の監修者であり、ウェルネス総合研究所理事およびグローバルニュートリショ

ングループ代表取締役の武田猛氏、ウェルネス総研主席アナリストの白井俊行氏、青木健氏が登壇し、白書の調査結果から読み取れる注目すべき点や、白書の活用法についての解説が行われました。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

江崎グリコの『タンサ脂肪酸プロジェクト』が始動 - 抗肥満などの効果に期待感

マイナビニュース - 2022/6/14 <https://news.mynavi.jp/article/20220614-2367717/>

たんぱく質摂取を通じて“ウェルネス社会の実現”を目指す『めざせ1日80g!たんぱく摂ろう会』設立のお知らせ「知識」と「行動」の両方が一度に学べる食育コンテンツ「たべる教科書」もお披露目しました

株式会社明治 - 2022/6/17 https://www.meiji.co.jp/corporate/pressrelease/2022/0617_01/

株式会社 明治、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社、マルハニチロ株式会社は、6月17日に、たんぱく質コンソーシアム『めざせ1日80g!たんぱく摂ろう会』を設立しました。また、このたび本コンソーシアムの活動理念に賛同いただいた長野県佐久市、公益社団法人 日本栄養士会との連携が実現しました。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

ブロッコリー由来の分子が肥満抑えるメカニズムを解明 東京農大ら

財経新聞 - 2022/6/7 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220607/675334.html>

東京農業大学らの研究グループは、肥満を抑える成分として、ブロッコリーに含まれる分子スルフォラファンを見付け出し、その働きのメカニズムを明らかにした。これまでもスルフォラファンは、その解毒作用、抗酸化作用などに注目されサプリなどに用いられていた。今回の研究により、科学的根拠も必要となる「機能性食品」としての開発に期待できるだろう。-----

単独摂取よりも併用で摂取することがポイント 大豆イソフラボンとラクトビオン酸の摂取で肌機能改善を確認

財経新聞 - 2022/6/7 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1687755/>

株式会社ダイセル(本社：大阪市北区)は、フジッコ株式会社(本社：神戸市中央区、以下フジッコ)との共同研究により、フジッコが開発した健康食品素材である大豆イソフラボンと当社が開発した健康食品素材であるラクトビオン酸を合わせて摂取することで、肌の機能(角層水分量、経皮水分蒸散量、皮膚粘弾性)が改善されることを明らかにしました。なお、今回の研究成果は、2022年6月10日～12日に開催される「第76回日本栄養・食糧学会大会」(一般演題 3N-11p)で発表いたします。-----

ホタテ由来プラズマローゲンがスポーツ選手の集中力を高める

一般社団法人プラズマローゲン研究会 - 2022/6/9

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000102770.html>

脂質(リン脂質)の一種であるプラズマローゲンは、体内では抗酸化作用やイオン輸送、コレステロール排出、膜融合など生命にとって重要な役割を果たしています。心臓や骨格筋など、酸素をたくさん消費する部位に多く存在し、特に脳に多いのが特徴です。ストレス社会(情報過多)の現代は、脳で処理する情報量は非常に多くなっており、私たちの脳は、酸化されやすい状況にさらされています。そして、酸化ダメージから脳を守るプラズマローゲンの減少と「脳疲労」とは深い関りがある事が分かってきました。-----

ニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)の摂取が高齢者の運動機能の一部を改善することを臨床試験にて確認、学術雑誌に掲載されました。

三菱商事ライフサイエンス - 2022/6/10

https://www.mcls-ltd.com/news/pdf/20220610_03.pdf

三菱商事ライフサイエンス株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岸本 好司、以下「当社」)では、健康機能素材の研究開発を進めています。ニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)を用いた高齢者を対象とした臨床試験が東京大学との共同研究にて実施され、NMNを経口摂取することで運動機能の一部が有意に改善される結果が確認されました。この研究成果が学術雑誌 NPJ Aging に掲載されました。

当社は、引き続きライフサイエンスの技術の力で世界の人々に生きる喜びと豊かな生活をお届けできるよう努めてまいります。-----

ニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)のヒトでの安全性・代謝への影響を解明、学術雑誌に掲載されました。

三菱商事ライフサイエンス株式会社 - 2022/6/10

https://www.mcls-ltd.com/news/pdf/20220610_02.pdf

三菱商事ライフサイエンス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岸本 好司、以下「当社」）では、健康機能素材の研究開発を進めています。ニコチンアミドモノヌクレオチド(NMN)のヒトでの安全性と代謝への影響を解明することを目的とした臨床試験を富山大学との共同研究にて実施しました。この研究成果が学術雑誌 Frontiers in Nutrition に掲載されました。-----

キリン脳研究「βラクトペプチドと熟成ホップに関する研究」が日本抗加齢医学会「研究奨励賞」を受賞～企業研究としての受賞は初の快挙～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/6/20

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0620_01.pdf

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）のキリン中央研究所（所長 矢島宏昭）は、超高齢社会の日本国内において大きな社会課題となっている認知症や脳の健康に対し、食を通じて貢献するため、独自の認知機能改善素材「βラクトペプチド」と「熟成ホップ」の開発・研究を行ってきました。この度、一連の研究成果とエビデンスの確からしさが認められ、国内の老化研究の中核的な学会である日本抗加齢医学会より 2021 年度の研究奨励賞を受賞しました。研究奨励賞を企業研究員が受賞したのは初の快挙です。-----

NMN「300 mg」の継続摂取で 歩行能力、血糖値など改善

健康メディア.com - 2022/6/14 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16369

中国上海に拠点を置く NMN メーカー EffePharm（音美医薬）は、40～65 歳の健常者 66 人を対象とした臨床試験を実施し、NMN300mg を継続摂取することの安全性ならびに、血清中 NAD+濃度の増加、歩行能力の改善、幸福度の上昇などの有用性を明らかとした。----

微細藻類ユーグレナの貯蔵多糖パラミロンの摂取がマウスの末梢組織の体内時計の調整に関与していることを確認しました

株式会社ユーグレナ - 2022/6/17 <https://www.euglena.jp/news/20220617-2/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、早稲田大学の柴田重信教授との共同研究により、微細藻類ユーグレナ（以下「ユーグレナ」）の貯蔵多糖で

あるパラミロン^{※1}の摂取が末梢組織^{※2}の体内時計の調整に関与していることを示唆する研究成果を確認しました。なお、今回の研究結果は、2022年6月10日～12日に開催された第76回日本栄養・食糧学会(<https://www2.aeplan.co.jp/jsnfs2022/index.html>)にて発表しました。

※1 パラミロン：微細藻類ユーグレナ特有の成分で、細胞内貯蔵物質として生成される多糖類であり、食物繊維の一種。βグルカン

※2 末梢組織：末梢神経（中枢神経から筋肉や感覚受容器へ伸びる神経の総称）が分布する、中枢神経（脳と脊髄で構成される神経細胞集団）以外の組織

微細藻類ユーグレナの継続的な摂取により、加齢に伴う記憶力の低下を抑制することを示唆する研究結果を発表しました

株式会社ユーグレナ - 2022/6/17 <https://www.euglena.jp/news/220620/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、至学館大学の多田敬典教授および、福井大学の徳永暁憲准教授との共同研究により、微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ、以下「ユーグレナ」）の継続的な摂取が、老齢マウスを用いた検証で、加齢に伴う記憶力の低下を抑えることを示唆する研究結果を発表しました。なお、今回の研究成果は、「第22回日本抗加齢医学会総会」（2022年6月17～19日開催）で発表しました。-----

腸内フローラに影響を及ぼす人工甘味料はあなたの味方が敵か？ 様々な研究結果を踏まえ、人工甘味料によって、いかに腸内フローラが 変化するかを考察

アトラス日本合同会社 - 2022/6/15

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000034.000075534.html>

世界で唯一、遺伝子と腸内フローラの検査結果を統合したレポートを提供しているパーソナライズドヘルスソリューション企業、Atlas Biomed（本社：英国 ロンドン、CEO：セルゲイ・ムシエンコ、子会社：アトラス日本合同会社（住所：東京都渋谷区、代表者：セルゲイ・ミュシエンコ、以下 Atlas Japan 〈<https://atlasbiomed.co.jp/>〉）は、Atlas Biomedに所属する、人と微生物の関係を研究しているロス・カーヴァー・カーターが5月25日に執筆した、「腸内フローラに影響を及ぼす人工甘味料はあなたの味方が敵か？」と題する考察レポート 〈<https://atlasbiomed.com/blog/artificial-sweeteners-and-the-microbiome/>〉の抄訳を発表しました。カーターは、様々な研究論文を調査したところ、人工甘味料が、腸内フローラを変化させることによりインスリン抵抗性や体重増加を助長している可能性を示唆する新たな研究結果について説明しています。-----

運動前の糖質摂取論争に決着つける凄い論文 南アフリカ・Noakes 氏の Narrative Review

Medical Tribune - 2022/6/13 <https://medical-tribune.co.jp/rensai/2022/0613545942/>

研究の背景：カーボローディング vs. ファットアダプテーション

スポーツ栄養学の分野では、長らくカーボローディングと称して、糖質を多く摂取することにより、筋肉内にグリコーゲンを蓄えることが運動持久力の向上に役立つと信じられてきた。

一方、これとは真逆に、糖質摂取を制限し、脂質摂取を増やした食事をするることにより、脂質燃焼能力を高めることができ、運動中も皮下脂肪を燃焼させることで高い運動持久力を得られるという概念も提唱されている。-----

1日のコーヒー摂取量は空腹時血糖値の低さと関連、非糖尿病約1万人の調査結果—国がん

QLifePro 医療ニュース - 2022/6/17

[http://www.qlifepro.com/news/20220615/coffee-hba1c.html](http://www qlifepro.com/news/20220615/coffee-hba1c.html)

非アルコール飲料摂取量と空腹時血糖値、HbA1c との関連を調査

国立がん研究センターは6月14日、1998～2000年度に実施された糖尿病調査（ベースライン調査）において、空腹時の採血データのある9,855人を主な対象として、日常的に飲む非アルコール飲料と血糖値の指標との関連を調査し、その結果を発表した。この研究は、同センターがん対策研究所予防関連プロジェクトの多目的コホート（JPHC）研究グループによるもの。研究成果は「Metabolism Open」に掲載されている。-----

- ・国立がん研究センター がん対策研究所予防関連プロジェクト

<https://epi.ncc.go.jp/jphc/outcome/8934.html>

ビフィズス菌摂取で軽度認知障害の認知機能改善・脳萎縮進行抑制効果を確認—順大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/6/15

[http://www.qlifepro.com/news/20220615/mild-cognitive-impairment.html](http://www qlifepro.com/news/20220615/mild-cognitive-impairment.html)

日常生活の中で実践できる軽度認知障害・認知症の予防法が求められている

順天堂大学は6月13日、ビフィズス菌の摂取による軽度認知障害（MCI: Mild Cognitive Impairment）患者の認知機能改善および脳萎縮進行の抑制効果を確認したと発表した。この研究は、同大学院医学研究科 ジェロントロジー研究センターの浅岡大介准教授、大草

敏史特任教授、佐藤信紘特任教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Alzheimer's Disease」オンライン版に掲載されている。-----

順天堂大学 プレスリリース <https://www.juntendo.ac.jp/news/20220613-01.html>

研究最前線

遅れてきた主役「糖と脂質」にスポットライトを

理化学研究所 - 2022/6/14 https://www.riken.jp/pr/closeup/2022/20220614_1/index.html

理研には独創的研究提案制度といって研究者自らが複数分野または異分野連携による先導的な研究を提案する仕組みがあります。採択される課題は、理研にとって新たな研究領域、さらには日本の科学の発展にも発展すると期待されるもの。1年に1~2件しか採択されないという狭き門を突破し、2019年度に「糖と脂質の構成原理を読み解く先端研究」を立ち上げた鈴木匡主任研究員に、糖と脂質の研究の重要性と、この課題にかける熱い思いを聞きました。-----

腸内細菌叢から「非アルコール性脂肪性肝疾患発症」を予測

The Medical AI Times - 2022/6/13 <https://aitimes.media/2022/06/13/11028/>

非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）は、アルコール摂取を原因とせず、肝細胞へ脂肪細胞が蓄積する慢性肝疾患である。世界人口の最大25%が罹患しているとの試算もあり、発見されないまま肝障害・肝がん・肝不全に至るケースもあることから、先進国で最も一般的な肝疾患の1つとして警戒されている。ドイツの研究機関 Leibniz-HKI のチームは「腸内細菌叢から NAFLD 発症を予測する機械学習モデル」を開発している。-----

長時間労働、メンタルヘルスに影響するのは残業より睡眠と食事

大学ジャーナルオンライン - 2022/6/8 <https://univ-journal.jp/164753/>

長時間労働がメンタルヘルスに悪影響を与えるといわれるが、残業自体ではなく、長時間労働による睡眠不足と不規則な食事がメンタルヘルスを害していることが、東京医科大学精神医学分野の渡邊天志医師、志村哲祥医師らの研究で明らかになった。-----

簡単な脳波計測だけで MCI の可能性を示すことに成功—慶大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/6/13 <http://www.qlifepro.com/news/20220613/mci.html>

被験者 120 人対象、健常・MCI・認知症の 3 グループで脳波を計測

慶應義塾大学は 6 月 10 日、簡単な脳波計測だけで軽度認知障害（MCI）の可能性を示すことに成功したと発表した。この研究は、同大理工学部の満倉靖恵教授、同大学グローバルリ

サーチンSTITUTEのブライアン・スマリ特任講師らの研究グループによるもの。研究成果は、「BMC Psychiatry」に掲載されている。-----

慶應義塾大学 プレスリリース (2022/6/10)

<https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/2022/6/10/28-124672/>

世界初、近畿大学が月経前症候群（PMS）患者に特徴的な腸内フローラの分布を発見

大学ジャーナルオンライン - 2022/6/11 <https://univ-journal.jp/165924/>

月経前症候群（以下、PMS）は、月経前3～10日のあいだ不快な精神・身体症状が続く、女性のパフォーマンスを妨げる疾患である。今回、近畿大学東洋医学研究所の武田卓所長を中心とする研究チームは、PMS患者の腸内フローラ（腸内細菌叢）では、抗うつ作用への関与が期待できる「酪酸産生菌」や脳内神経伝達物質を産み出す「GABA産生菌」が減少しているという特徴を持つことを世界で初めて明らかにした。-----

愛媛大、アルツハイマーの病因とされるアミロイドの毒性機構の一端を解明

マイナビニュース - 2022/6/10

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220610-2364934/>

京大など、皮膚の概日リズムが抗菌免疫を制御する仕組みを解明

マイナビニュース - 2022/6/16

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220616-2370187/>

以下の7件は、リンクDEダイエット（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）掲載記事（2022年6月7日～21日）から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

ジャガイモたんぱく質の摂取は筋肉たんぱく質合成速度を大幅に増加させる？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3Fdb=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78028&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/7)

ジャガイモたんぱく質の摂取によって、健康な若い男性の筋肉たんぱく質合成速度が増加し、その効果は乳たんぱく質の摂取と同等であるようだ、という蘭マーストリヒト大学医療センターから研究報告。-----

1日3gのオメガ3脂肪酸が血圧を下げる？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78042&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/9)

食品あるいはサプリメントから1日約3gのオメガ3脂肪酸を摂取することが、血圧降下に最適である可能性が高い、という中国・澳門科技大學からの研究報告。-----

腸内細菌×食物繊維、アトピーに役立つ可能性

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78096&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/15)

腸皮膚相関の研究により、腸内細菌が食物繊維を発酵させた際に生成される短鎖脂肪酸がアレルギー性皮膚疾患を予防することがわかった。このことはアレルギーの予防・治療法につながる可能性があるという。豪・モナッシュ大学の動物実験から。-----

筋肉が他の臓器と「話す」方法は男女で異なる？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78095&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/15)

筋肉の臓器やプロセスへの影響は男性と女性で著しく異なる部分があるようだ。米国カリフォルニア大学アーバイン校などによる動物実験およびヒトデータとの統合結果の報告。-----

DHA レベルが高い人、アルツハイマーのリスク半減

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78120&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/17)

血中のDHA濃度が高い人は、低い人に比べてアルツハイマー型認知症の発症リスクが49%低いことが示された。また、特に遺伝的にアルツハイマー発症リスクの高い人においてはDHAが豊富な食事によって病気の発症を遅らせることのできる可能性が示唆された。米・脂肪酸研究所の研究。-----

ラガービールが男性の腸内微生物を助ける可能性？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78130&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/20)

アルコールが入っていなくてもラガービールには、男性の腸内細菌を改善する効果があるようだ、というポルトガル・NOVA デ・リスボン大学からの研究報告。-----

アミノ酸、不足も過剰も肝細胞に影響

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&-Format=detail.htm&kibanID=78136&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/21)

食事が遺伝子発現に影響を与える可能性が明らかになってきているが、必須アミノ酸の一種であるメチオニンが過剰、または不足した食事は、肝細胞の脂肪代謝に関連する遺伝子と染色体を修飾する遺伝子の発現に影響を与えるようだ。ブラジル・サンパウロ大学の研究。-----

以下の1件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年6月7日～21日）から選定したものです。

食事時刻が睡眠覚醒リズムを調節する 時刻のわからない「時間隔離実験」で明らかに 北海道大学

<https://sndj-web.jp/news/001829.php>

外部からの時刻に関する情報を完全に排除した「時間隔離実験室」という環境で生活するという実験の結果、1日1回決められた時刻に食事をとると睡眠覚醒リズムが食事スケジュールに同調することがわかった。その一方で、深部体温の変化、メラトニン、コルチゾール分泌のリズムは、食事スケジュールに同調しないという。北海道大学大学院教育学研究院の研究グループの研究によるもので、研究の成果が「American journal of physiology. Regulatory, integrative and comparative physiology」に論文掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

AIを用いた異物検査を食品製造に適用、新型自律ロボットでは新たな市場目指す

MONOist - 2022/6/14 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2206/14/news016.html>

安川電機は「FOOMA JAPAN 2022（国際食品工業展）」（2022年6月7～10日、東京ビッグサイト）において、AI（人工知能）とロボットを組み合わせる異物の検査や除去を行うシステムなどを提案した。-----

AIで葉物野菜の芯を高速除去、歩留まりも最適化

MONOist - 2022/6/10 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2206/10/news037.html>

ロビットは、「FOOMA JAPAN 2022（国際食品工業展）」（2022年6月7～10日、東京ビッグサイト）において、食品など不定形物のカット系加工の自動化ソリューション「CUTR（カトル）」を披露した。-----

■ その他の科学・技術情報

脂肪前駆細胞の多様性を明らかに ー脂肪前駆細胞の網羅的プロテオミクス解析による成果ー

理化学研究所 - 2022/6/9 https://www.riken.jp/press/2022/20220609_2/index.html

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター融合領域リーダー育成プログラムのイボ・ウー上級研究員（研究当時、現粘膜免疫研究チーム客員研究員）らの国際共同研究チームは、脂肪組織に存在し脂肪細胞へと分化する脂肪前駆細胞（APCs）をプロテオミクス[3]の手法を用いて網羅的に解析し、性別の違いや体内の組織部位の違いによって、脂肪前駆細胞の性質が多様に変化して、脂肪細胞の分化・増殖が制御されることを発見しました。---

ハイリスク薬の血中濃度をリアルタイムに検出する使い捨てセンサチップを開発

芝浦工業大学 - 2022/6/7 <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002396.html>

芝浦工業大学（東京都港区／学長 山田純）工学部応用化学科・吉見靖男教授らの研究チームは、テオフィリンの血中濃度をリアルタイムに検出する使い捨てセンサチップを開発しました。テオフィリンは喘息など様々な呼吸器疾患の治療に有効ですが、過剰に摂取すると強い毒性を示すハイリスク薬剤です。そのため、治療中にテオフィリンの血中濃度をモニタリングすることは極めて重要です。今回、新たに開発したセンサでは、わずか3秒で血液試料から直接テオフィリンの濃度を検出できます。

※この研究成果は、「Molecules」誌オンライン版に掲載されています。

微生物の定常期ストレス応答のための新規転写因子を同定～微生物の自然環境下における生存の理解・応用に期待～

大学プレスセンター - 2022/6/10 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-48329.html>

法政大学マイクロ・ナノテクノロジー研究センターの石浜 明客員教授の研究グループは、明治大学農学部農芸化学科ゲノム微生物学研究室の島田 友裕准教授、小林 一幾博士研究員、および日本電信電話株式会社（NTT）宇宙環境エネルギー研究所の今村 壮輔特別研究員、高谷 和宏主幹研究員との共同研究により、大腸菌の定常期ストレス応答に関わる新規の転写因子を同定してその機能を解明しました。本研究成果は、微生物が自然環境下に適応するための仕組みの理解・応用に役立ちます。-----

ファンケル スキンケア製品の長期使用における肌の影響を検証

— 肌に負担のないスキンケア製品の使用が、エイジングケアに期待 —

株式会社ファンケル - 2022/6/10

https://www.fancl.jp/news/pdf/20220610_sukinkeaseihinnochoukishiyouniokeruhadanoeikyoku.pdf

株式会社ファンケルは、独自の安全性基準（FSS）に基づき、防腐剤や殺菌剤など肌に負担をかける可能性がある成分を不使用にするとともに、さまざまな安全性評価結果で選定された成分や各種試験などで、肌が不調な時にもお使いいただけるスキンケア製品の開発をしています。これらの製品は、肌への負担が少ないため、幅広い肌状態の方に、末永くお使いいただけるという利点があります。今回、肌に負担がかかりにくい分、肌に対して良い影響が期待できる可能性の有無を検証しました。-----

DIC と感性 AI、共同で「素材の感性価値定量化による新しい開発手法の研究」を開始

プレスリリース発表元企業：京王電鉄株式会社 配信日時：2022-06-15 10:15:27

財経新聞 - 2022/6/15 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1696000/>

～顧客の感性ニーズに対応する独自システムにより素材開発スピードを加速～

DIC 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員：猪野 薫、以下「DIC」）と感性 AI 株式会社（本社：東京都調布市、代表取締役社長：虻川 勝彦、以下「感性 AI」）は、国立大学法人電気通信大学（所在：東京都調布市、学長：田野 俊一、以下「電気通信大学」）の坂本真樹研究室が保有する感性（触感、質感）と人工知能（AI）に関する特許技術・知財を活用し、新素材開発システムの構築に向けた共同研究を 2022 年 6 月より開始します。本共同研究では、素材の触感や質感がもたらす感性価値を数値化して客

観的に提示する定量化技術の活用による、緻密かつスピーディな新しい素材開発イノベーションの創出を目指します。-----

■ その他

軌道に乗るか 企業のデータ“販売” 第6回／全6回

花王と日ハムが好相性？ 13企業がデータ共有する壮大な実験とは

日経クロストrend - 2022/6/10 <https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00641/00007/>

中外製薬がバイオ医薬品工場を公開、シングルユースで多品種少量生産にも対応

MONOist - 2022/6/8 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2206/08/news025.html>

中外製薬は2022年6月3日、宇都宮工場のバーチャル工場見学会を報道陣向けにオンラインで開催。同社の主力製品のリウマチ治療薬「アクテムラ」や血友病治療薬「ヘムライブラ」の生産工程の一部を公開したほか、今後予定されている設備投資などにも言及した。---

以上